

2. 要介護認定者調査

(1) ウェイトバック集計について

第1章にも記載したとおり、今回実施した調査においては、各日常生活圏域において一定数の有効回答数が得られるように調査対象を抽出していることから、回答者の日常生活圏域別の構成比について、実際の要介護認定者の分布とは異なる構成となっています。

そこで、区全体の回答傾向をより正確に把握することを目的として、集計データに以下のようなウェイトを乗じて算出する「ウェイトバック集計」を行うことにより、集計結果の補正を行っています。

なお、ウェイトバック集計を行ったため、本調査の回答結果を示す図表には回答者数を示す「n」を記載していません。

図表 176 要介護認定者調査におけるウェイト付けの補正值

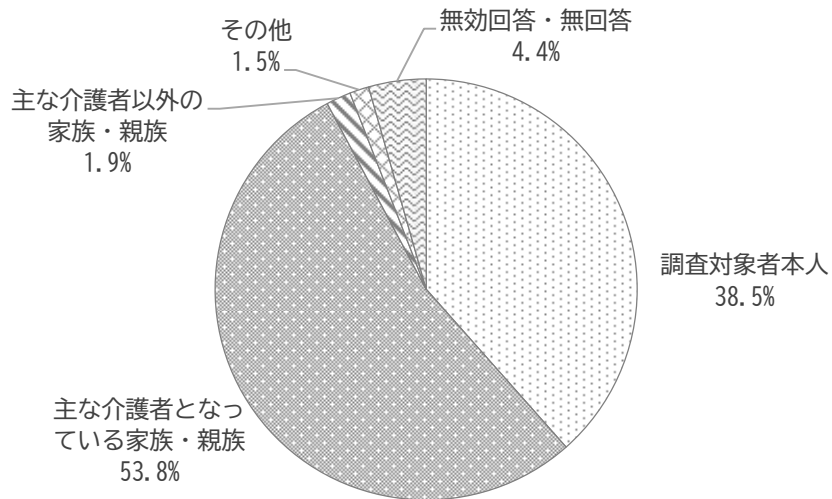
圏域名	母数 (A)		回収数 (B)		ウェイト (A/B)
		構成比		構成比	
大森東	234	2.52%	88	5.04%	2.659
大森西	907	9.77%	103	5.90%	8.806
入新井	474	5.11%	104	5.96%	4.558
馬込	603	6.50%	106	6.07%	5.689
池上	633	6.82%	92	5.27%	6.880
新井宿	318	3.43%	101	5.79%	3.149
嶺町	196	2.11%	90	5.16%	2.178
田園調布	211	2.27%	91	5.21%	2.319
鵜の木	307	3.31%	103	5.90%	2.981
久が原	388	4.18%	100	5.73%	3.880
雪谷	789	8.50%	100	5.73%	7.890
千束	297	3.20%	95	5.44%	3.126
糀谷	335	3.61%	94	5.39%	3.564
羽田	600	6.46%	98	5.62%	6.122
六郷	1,038	11.18%	93	5.33%	11.161
矢口	600	6.46%	76	4.36%	7.895
蒲田西	797	8.59%	106	6.07%	7.519
蒲田東	555	5.98%	105	6.02%	5.286
合計	9,282	100.00%	1,745	100.00%	—

※日常生活圏域が不明の回答が1件あったため、表中回収数の合計は有効回答数（1,746件）と一致しません

（2）調査票への回答記入者

調査票に回答を記入した方については、「調査対象者本人」が38.5%、「主な介護者となっている家族・親族」が53.8%、「主な介護者以外の家族・親族」が1.9%、「その他」が1.5%となっています。

図表 177 調査票への回答記入者

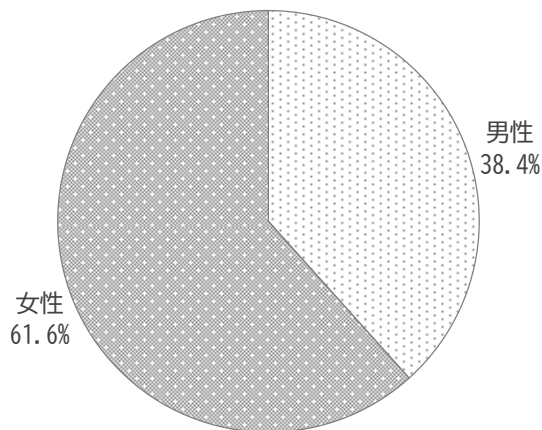


（3）回答者の属性

①回答者の性別・年齢

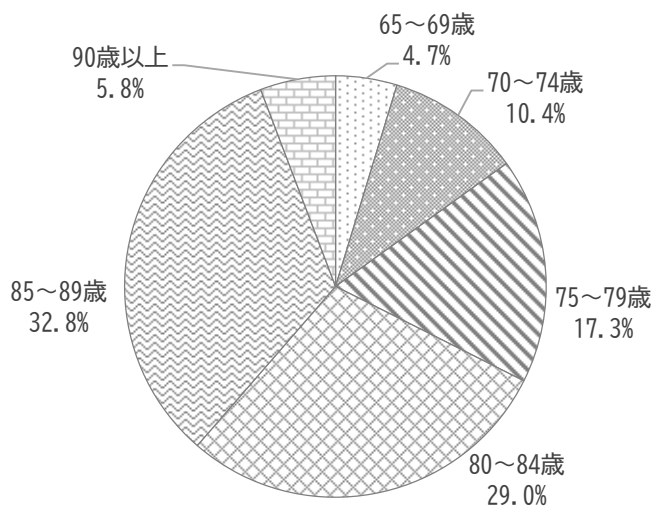
回答者の性別について、「男性」が38.4%、「女性」が61.6%となっています。

図表 178 回答者の性別



また、回答者の年齢について、「85～89歳」が32.8%と最も多く、次いで「80～84歳」が29.0%、「75～79歳」が17.3%となっています。

図表 179 回答者の年齢

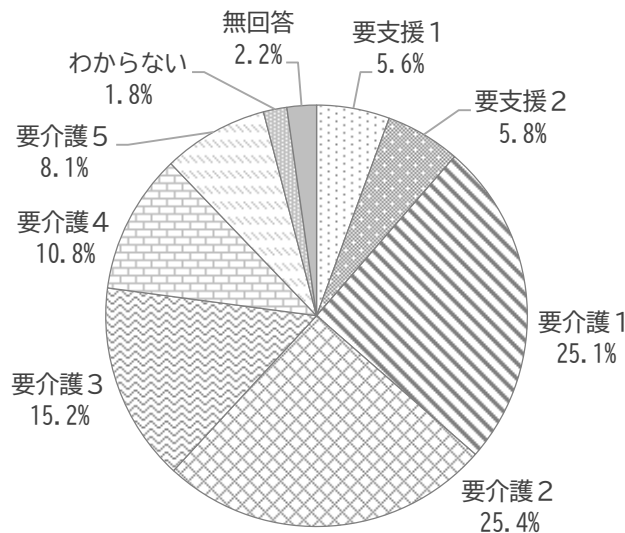


②回答者の要介護度【問1】

回答者の要介護度について、「要介護1」が25.1%、「要介護2」が25.4%、「要介護3」が15.2%、「要介護4」が10.8%、「要介護5」が8.1%となっています。

なお、本調査は要介護1～5の認定を受けている方が対象となっていますが、「要支援1」や「要支援2」と回答した方について、基本的には集計対象に含めることとし、要介護度別のクロス集計からは除外しています。

図表 180 回答者の要介護度

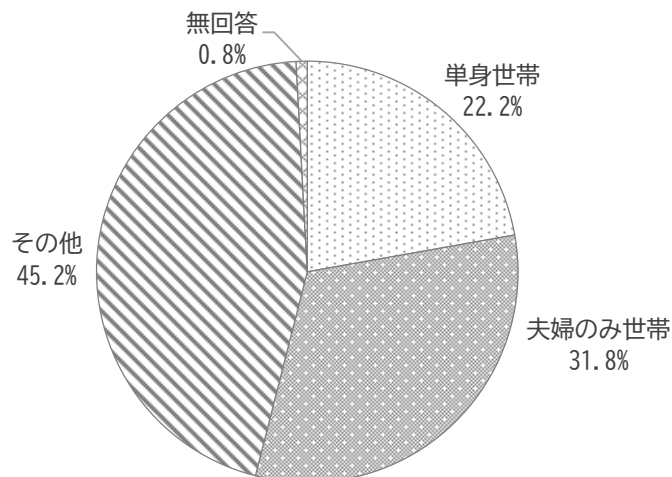


③回答者の家族構成【問2・問3】

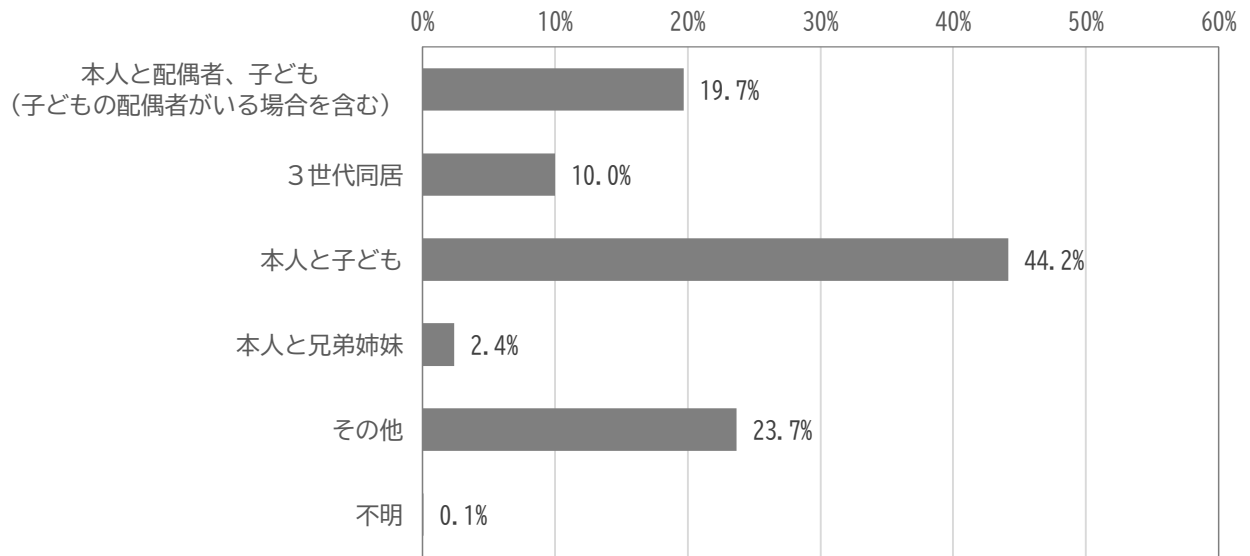
回答者の家族構成については、「単身世帯」が22.2%、「夫婦のみ世帯」が31.8%、「その他」が45.2%となっています。

「その他」と回答した方に、同居している家族等についてたずねた結果に基づき、家族構成を集計・分類したところ、「本人と子ども」が44.2%、「本人と配偶者、子ども」が19.7%、「3世代同居」が10.0%となっています。なお、図表182の「その他」の家族構成としては、「本人と配偶者と孫」、「本人と孫」等の回答が見られます。

図表 181 回答者の家族構成



図表 182 「その他」の家族構成（回答結果より集計・分類）

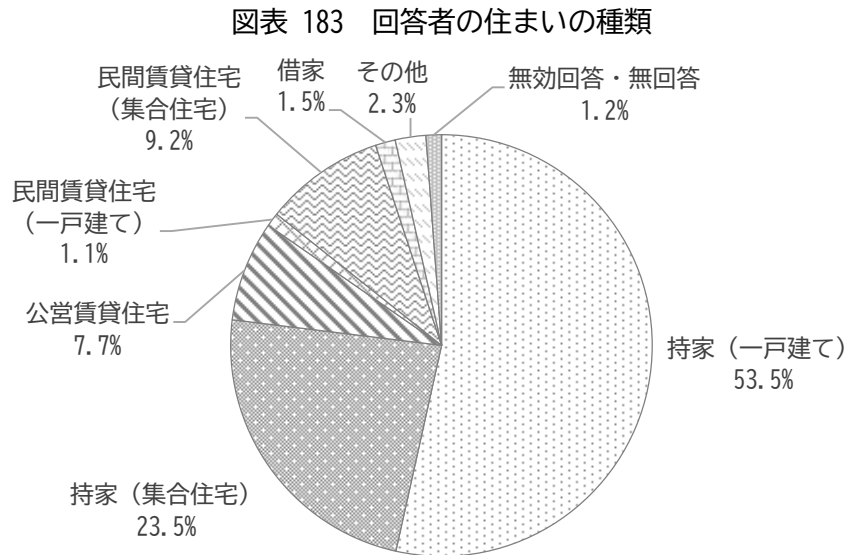


（4）住まいの状況

①住まいの種類【問4】

回答者の住まいの種類については、「持家（一戸建て）」が53.5%と最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が23.5%であり、「持家」との回答が全体の77.0%となっています。

なお、家族構成別の回答を見ると、「単身世帯」では持家の割合が低く、公営や民間の賃貸住宅の割合が高くなっています。



図表 184 回答者の住まいの種類（家族構成別）

	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借家	その他	無効回答・無回答
単身世帯	44.3%	23.7%	14.2%	0.3%	12.6%	2.4%	2.3%	0.3%
夫婦のみ世帯	51.8%	28.3%	8.7%	0.4%	6.6%	0.7%	2.5%	1.1%
その他	60.1%	20.1%	3.9%	1.9%	9.5%	1.8%	2.1%	0.6%

②住まいに関する不安や困りごと【問5】

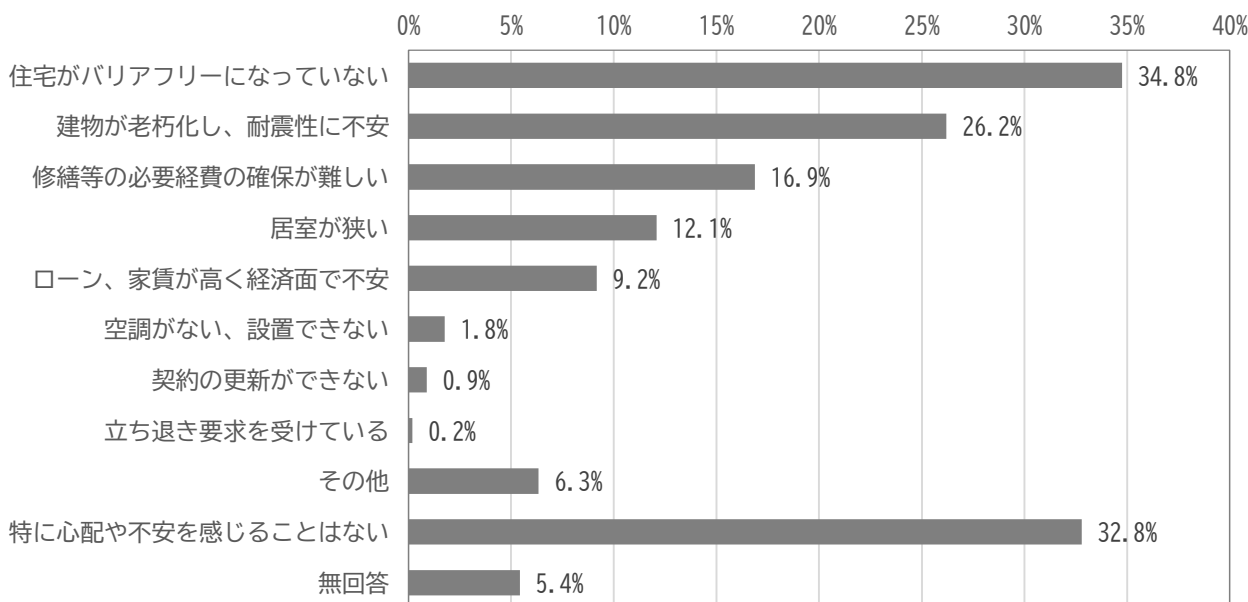
現在の住まいに関する不安や困りごとについてたずねたところ、「特に心配や不安を感じることはない」が32.8%であり、6割程度の方が不安や困りごとを抱えているということが把握されました。

不安や困りごととして挙げられたものでは、「住宅がバリアフリーになっていない」が34.8%と最も多く、次いで「建物が老朽化し、耐震性に不安」が26.2%となっています。

年齢別の回答を見ると、いずれの年代でも「住宅がバリアフリーになっていない」の割合が最も多く、次いで「建物が老朽化し、耐震性に不安」が多いという点は共通しています。

また、家族構成別の回答については、「その他」では「居室が狭い」との回答割合が「単身世帯」や「夫婦のみ世帯」よりも割合が高いなど、項目によっては属性による回答傾向の違いが見られます。

図表 185 現在の住まいに関する不安や困りごと（複数回答）

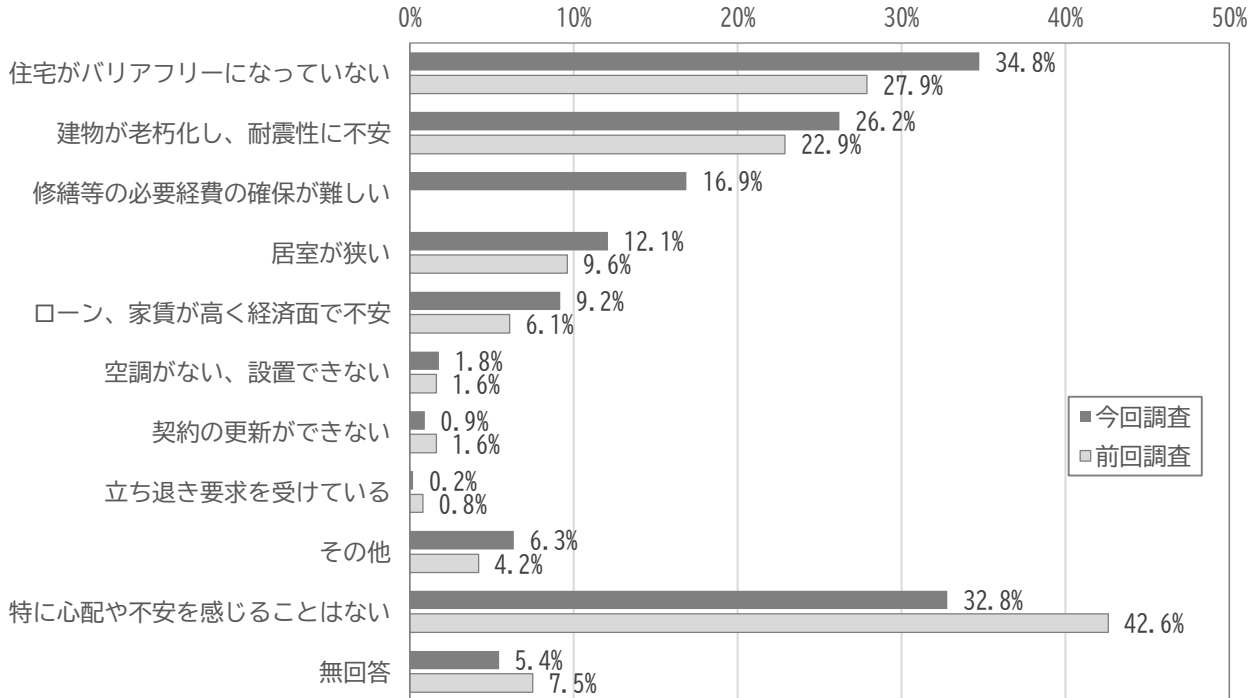


図表 186 現在の住まいに関する不安や困りごと（年齢別・家族構成別）

	住宅がバリアフリーになっていない	居室が狭い	空調がない、設置できない	建物が老朽化し、耐震性に不安	ローン、家賃が高く経済面で不安	修繕等の必要経費の確保が難しい	契約の更新ができない	立ち退き要求を受けている	その他	特に心配や不安を感じることはない	無回答
65～69歳	33.5%	21.2%	2.0%	28.1%	13.2%	11.4%	2.4%	0.0%	8.5%	27.2%	1.8%
70～74歳	28.4%	11.7%	0.4%	23.7%	12.9%	18.4%	0.3%	0.0%	7.5%	38.3%	4.9%
75～79歳	34.0%	13.9%	2.5%	24.0%	8.2%	18.4%	1.6%	0.0%	5.9%	33.7%	4.9%
80～84歳	37.6%	11.4%	1.2%	24.1%	10.2%	14.7%	0.3%	0.0%	7.1%	33.1%	6.5%
85歳以上	34.8%	10.7%	2.2%	29.2%	7.3%	18.1%	1.0%	0.5%	5.4%	31.4%	5.5%
単身世帯	30.3%	8.1%	1.1%	24.6%	7.2%	15.2%	1.9%	0.4%	6.3%	35.8%	7.3%
夫婦のみ世帯	34.9%	10.5%	1.9%	27.5%	6.4%	17.5%	1.0%	0.0%	5.6%	34.0%	5.4%
その他	37.3%	15.4%	2.0%	26.4%	12.3%	17.6%	0.4%	0.2%	7.0%	30.6%	3.5%

前回調査の結果と比較すると、「特に心配や不安を感じることはない」の割合が9.8ポイント低下しており、前回よりも割合が高くなっている項目が多くなっています。特に、「住宅がバリアフリーになっていない」は前回より6.9ポイント上昇しています。

図表 187 現在の住まいに関する不安や困りごと（前回調査との比較）



※「修繕等の必要経費の確保が難しい」については、前回調査には選択肢が設けられていないため、今回の調査結果のみ記載しています。

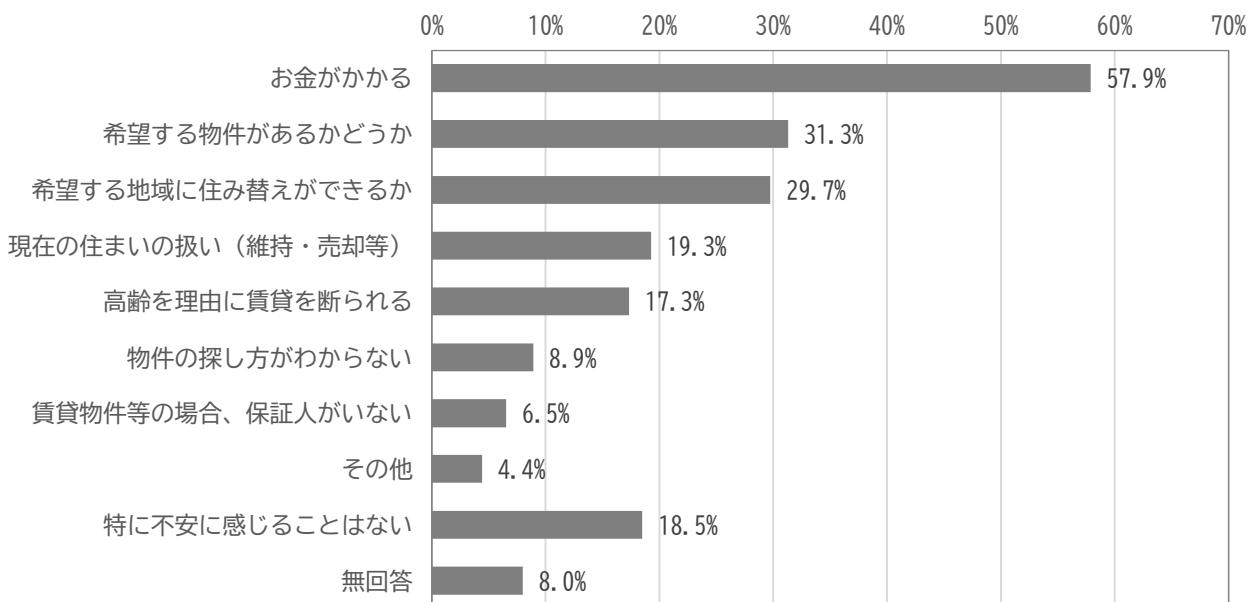
③住み替えに関して不安なこと【問6】

今後住み替えが必要になった場合に不安に感じるということについてたずねたところ、「特に不安に感じることはない」が18.5%であり、「特に不安を感じることはない」と「無回答」を除く73.5%の方が住み替えについて何らかの不安を抱えていることが把握されました。不安に感じるものとしては、「お金がかかる」が57.9%と最も多く、次いで「希望する物件があるかどうか」が31.3%、「希望する地域に住み替えができるか」が29.7%となっています。

年齢別の回答を見ると、「65～69歳」では「お金がかかる」の割合が他の年代より高く、そのほかにも「希望する物件があるかどうか」や「現在の住まいの扱い」等、各項目の割合が総じて高くなっています。

家族構成別の回答を見ると、「単身世帯」では、賃貸物件に住む人の割合が高いこともあり「高齢を理由に賃貸を断られる」の割合が他よりも高くなっています。

図表 188 住み替えに関して不安なこと（複数回答）

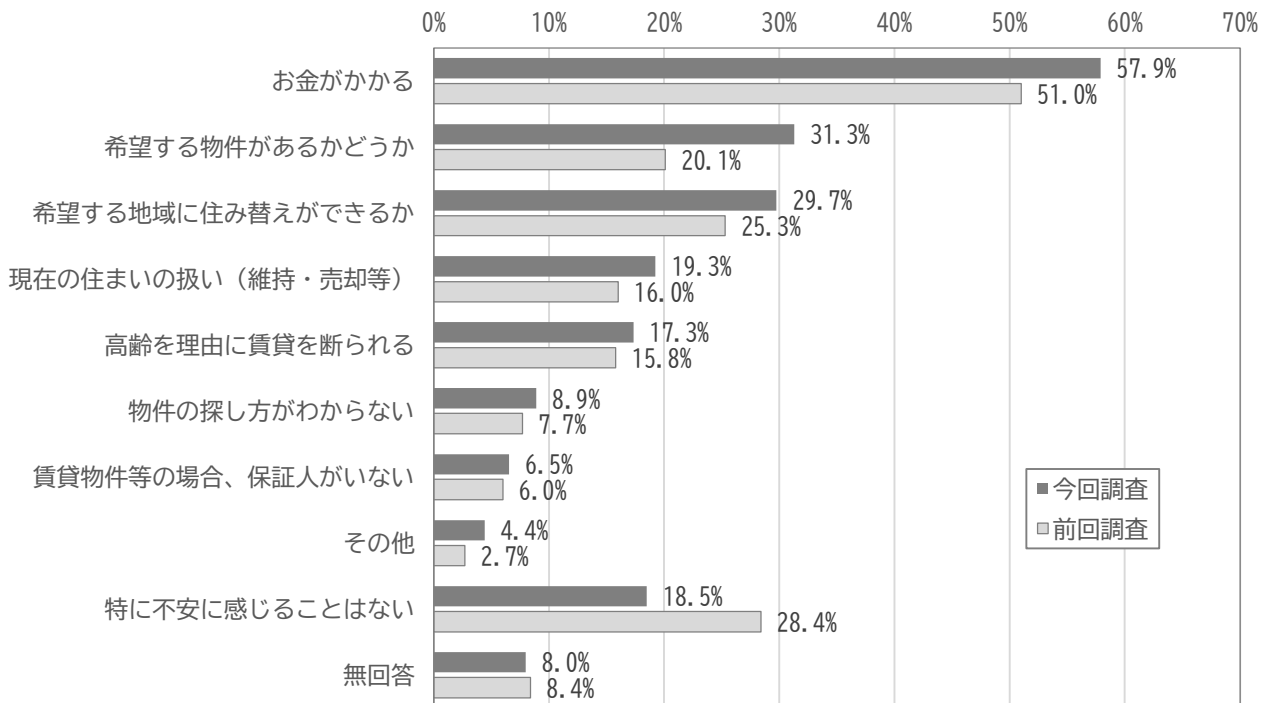


図表 189 住み替えに関して不安なこと（年齢別・家族構成別）

	お金がかかる	希望する地域に住み替えができるか	物件の探し方がわからない	希望する物件があるかどうか	高齢を理由に賃貸を断られる	賃貸物件等の場合、保証人がいない	現在の住まいの扱い（維持・売却等）	その他	特に不安に感じることはない	無回答
65～69歳	71.2%	34.3%	14.8%	45.2%	21.7%	13.2%	31.2%	1.2%	14.9%	2.6%
70～74歳	53.2%	30.8%	8.3%	35.6%	20.7%	7.2%	15.8%	2.6%	20.3%	8.8%
75～79歳	59.1%	34.3%	9.1%	31.9%	15.6%	7.0%	17.7%	1.9%	15.9%	7.4%
80～84歳	56.2%	27.6%	8.3%	29.4%	15.5%	5.8%	22.5%	6.0%	17.8%	8.5%
85歳以上	58.2%	28.5%	8.7%	29.6%	18.0%	5.9%	17.0%	5.2%	20.2%	8.3%
単身世帯	58.5%	29.6%	11.7%	28.9%	23.9%	5.8%	16.8%	2.8%	19.8%	8.3%
夫婦のみ世帯	53.0%	29.0%	7.2%	30.5%	14.6%	4.1%	23.0%	4.5%	17.8%	8.6%
その他	61.9%	30.8%	8.7%	33.5%	16.1%	8.7%	18.2%	5.3%	18.4%	6.5%

前回調査の結果と比較すると、「特に不安を感じることはない」の割合が9.9ポイント低下しており、不安なことについてはいずれの項目でも前回より回答割合が高くなっています。特に、「希望する物件があるかどうか」については、前回より11.2ポイント上昇しています。

図表 190 住み替えに関して不安なこと（前回調査との比較）

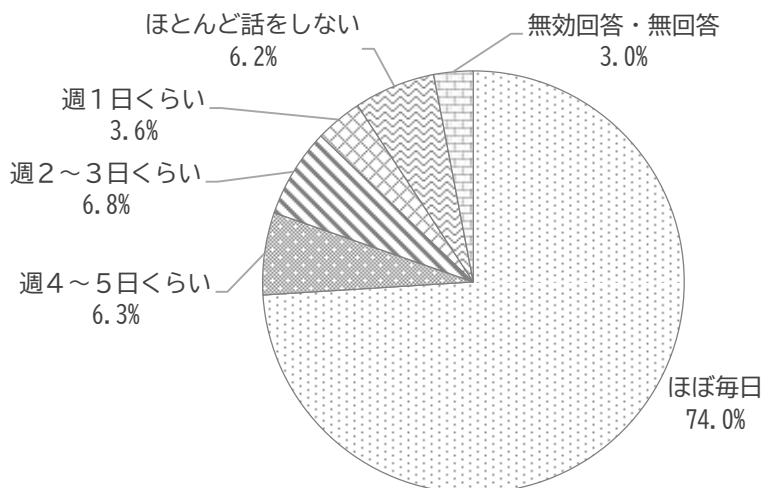


(5) 地域とのつながりや近所づきあいに関する状況

①家族・親族や知人等と話す頻度【問7】

家族・親族や知人等と話す機会（電話・メール等での連絡を含む）がどれくらいの頻度であるかたずねたところ、「ほぼ毎日」が74.0%でした。一方、「ほとんど話をしない」は6.2%となっています。

図表 191 家族・親族や知人等と話す頻度



年齢別の回答を見ると、総じて7～8割程度が「ほぼ毎日」と回答していますが、「65～69歳」・「70～74歳」では、それ以上の年代と比べ「ほとんど話をしない」の割合がやや高くなっています。

家族構成別の回答を見ると、「夫婦のみ世帯」や「その他」といった、同居する家族等がいる方については「ほぼ毎日」が8割程度でしたが、「単身世帯」では46.0%となっています。

要介護度別の回答では、本人の状態によるものか、「要介護4」や「要介護5」では「ほとんど話をしない」の割合が他よりもやや高くなっています。

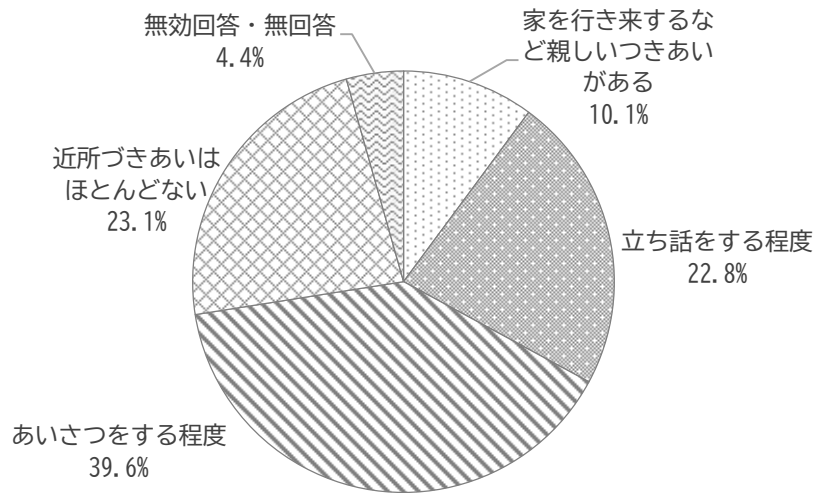
図表 192 家族・親族や知人等と話す頻度（年齢別・家族構成別・要介護度別）

	ほぼ毎日	週4～5日 くらい	週2～3日 くらい	週1日 くらい	ほとんど話 をしない	無効回答 ・無回答
65～69歳	69.3%	7.3%	5.7%	3.2%	8.9%	5.6%
70～74歳	71.6%	4.0%	3.2%	2.8%	13.6%	4.8%
75～79歳	79.2%	5.4%	4.7%	4.1%	4.8%	1.8%
80～84歳	68.9%	8.2%	9.4%	4.7%	5.0%	3.8%
85歳以上	76.7%	5.8%	6.9%	2.9%	5.4%	2.2%
単身世帯	46.0%	14.5%	18.7%	6.9%	9.9%	4.1%
夫婦のみ世帯	79.2%	3.9%	4.3%	4.6%	6.3%	1.7%
その他	84.6%	4.1%	2.8%	1.4%	4.5%	2.6%
要介護1	69.4%	7.4%	9.7%	5.5%	6.6%	1.4%
要介護2	79.4%	5.3%	5.7%	3.7%	4.4%	1.5%
要介護3	81.5%	5.1%	4.0%	1.9%	3.7%	3.9%
要介護4	71.9%	8.1%	5.3%	2.3%	9.3%	3.1%
要介護5	76.9%	2.5%	2.0%	2.2%	11.8%	4.6%

②近所づきあいの状況【問8】

近所づきあいの状況については、「あいさつをする程度」が39.6%と最も多く、次いで「近所づきあいはほとんどない」が23.1%、「立ち話をする程度」が22.8%となっています。

図表 193 近所づきあいの状況



年齢別の回答を見ると、総じて回答傾向に大きな差は見られませんが、「65～69歳」では「家を行き来するなど親しいつきあいがある」の割合が他と比べてやや低くなっています。

家族構成別の回答を見ると、いずれの家族構成においても「近所づきあいはほとんどない」との回答が2～3割、「あいさつをする程度」が4割程度となっています。

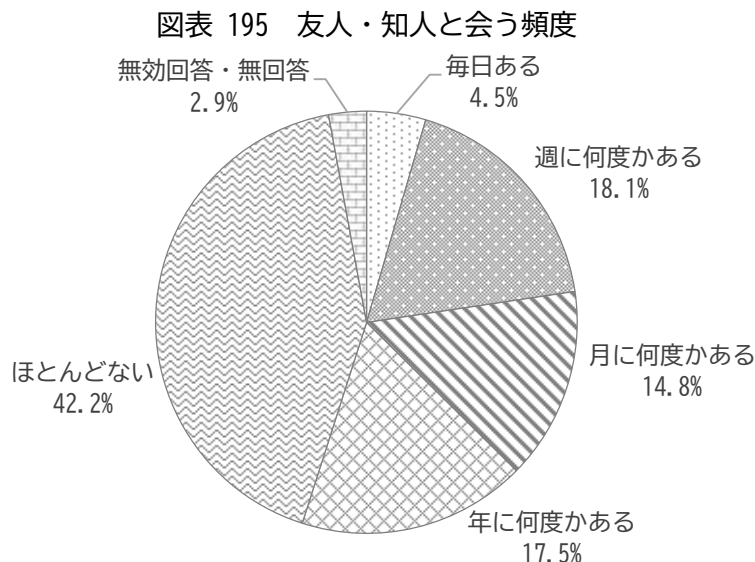
要介護度別の回答では、「要介護3」以上では「近所づきあいはほとんどない」の割合が3割程度であり、「要介護1」・「要介護2」と比べ高くなっています。

図表 194 近所づきあいの状況（年齢別・家族構成別・要介護度別）

	家を行き来するなど親しいつきあいがある	立ち話をする程度	あいさつをする程度	近所づきあいはほとんどない	無効回答・無回答
65～69歳	5.4%	23.3%	38.6%	22.7%	10.0%
70～74歳	8.4%	24.9%	37.6%	20.6%	8.5%
75～79歳	11.0%	22.7%	42.6%	21.5%	2.2%
80～84歳	11.1%	25.9%	38.4%	19.6%	5.0%
85歳以上	10.0%	19.8%	39.9%	27.2%	3.1%
単身世帯	13.2%	22.0%	42.2%	17.8%	4.8%
夫婦のみ世帯	10.1%	29.0%	36.7%	20.4%	3.9%
その他	8.7%	19.2%	40.7%	27.6%	3.9%
要介護1	8.3%	25.2%	44.0%	19.9%	2.6%
要介護2	11.3%	24.6%	39.9%	21.9%	2.3%
要介護3	10.3%	18.7%	36.5%	31.0%	3.5%
要介護4	9.2%	16.0%	39.2%	27.4%	8.2%
要介護5	9.2%	14.0%	39.7%	28.7%	8.5%

③友人や知人と会う頻度【問9】

友人や知人と会う頻度がどれくらいであるかたずねたところ、「毎日ある」（4.5%）や「週に何度かある」（18.1%）といった、比較的高い頻度となっている回答も2割程度見られた一方、「年に何度かある」（17.5%）や「ほとんどない」（42.2%）といった、友人や知人と会う頻度が低いという回答が6割程度となっています。



年齢別の回答を見ると、総じて回答傾向に大きな差は見られませんが、80歳以上ではそれより若い世代に比べ「毎日ある」・「週に何度かある」といった回答の割合がやや高くなっています。

また、家族構成別の回答を見ると、「単身世帯」では「毎日ある」、「週に何度かある」といった回答の割合が他の家族構成と比べてやや高くなっています。

要介護度別の回答を見ると、「要介護4」以上では「毎日ある」、「週に何度かある」といった回答の割合が低く、特に「要介護5」では「ほとんどない」が54.6%となっています。

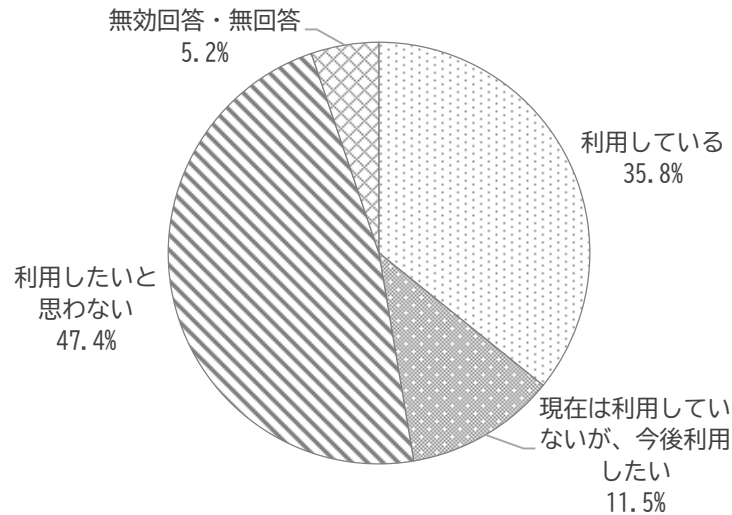
図表 196 友人・知人と会う頻度（年齢別・家族構成別・要介護度別）

	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無効回答・無回答
65～69歳	1.2%	13.7%	10.6%	29.4%	39.5%	5.6%
70～74歳	5.1%	13.3%	10.9%	24.1%	41.8%	4.8%
75～79歳	3.5%	13.9%	17.9%	18.9%	45.0%	0.8%
80～84歳	5.7%	17.3%	14.1%	19.2%	40.6%	3.2%
85歳以上	4.4%	22.5%	15.4%	12.4%	42.6%	2.7%
単身世帯	6.7%	22.4%	15.3%	14.7%	37.1%	3.8%
夫婦のみ世帯	4.2%	18.6%	17.9%	20.4%	37.2%	1.7%
その他	3.8%	15.6%	12.3%	16.8%	48.8%	2.7%
要介護1	5.0%	17.5%	15.7%	17.1%	42.3%	2.5%
要介護2	3.8%	21.0%	14.1%	17.4%	42.6%	1.2%
要介護3	4.0%	20.1%	10.5%	17.3%	45.1%	3.0%
要介護4	3.6%	10.6%	15.5%	21.6%	46.3%	2.4%
要介護5	4.0%	9.9%	10.8%	15.9%	54.6%	4.8%

④日ごろの連絡におけるスマートフォン等の利用状況【問10】

日ごろの友人・知人や家族等との連絡において、スマートフォンやメール、SNS等を利用しているかどうかについてたずねたところ、「利用している」が35.8%でした。一方、「利用したいと思わない」が47.4%であり、5割程度の方が、スマートフォン等を現在利用せず、今後も利用を希望していないことが把握されました。

図表 197 スマートフォン・メール・SNS等の利用状況



年齢別・家族構成別・要介護度別の回答結果は図表 198 のとおりです。74歳以下では5～6割が「利用している」と回答していますが、「利用している」の割合は年齢が高くなるほど低くなる傾向が見られます。なお、「85歳以上」においても「利用している」との回答が28.1%となっています。

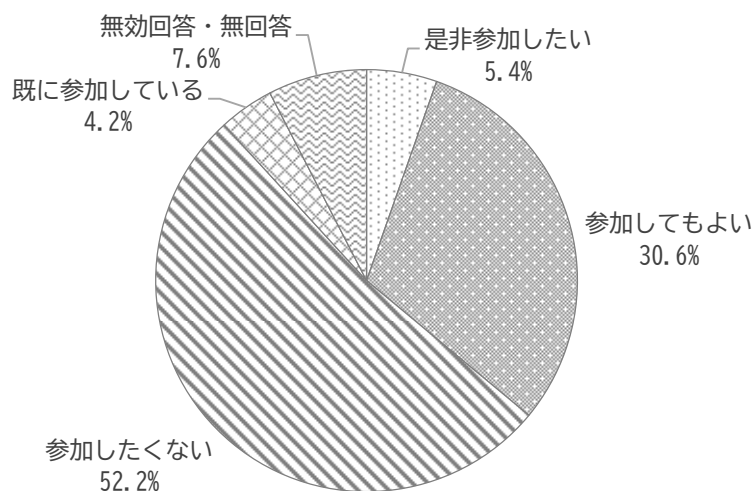
図表 198 スマートフォン・メール・SNS等の利用状況（年齢別・家族構成別・要介護度別）

	利用している	現在は利用していないが、今後利用したい	利用したいと思わない	無効回答・無回答
65～69歳	60.3%	13.8%	15.0%	10.9%
70～74歳	53.5%	11.7%	31.4%	3.3%
75～79歳	38.7%	13.0%	44.4%	3.9%
80～84歳	34.1%	10.1%	48.8%	7.1%
85歳以上	28.1%	11.7%	56.1%	4.2%
単身世帯	38.3%	13.7%	43.0%	5.0%
夫婦のみ世帯	39.7%	13.4%	42.0%	4.9%
その他	31.8%	8.9%	54.2%	5.2%
要介護1	35.9%	8.7%	52.3%	3.1%
要介護2	41.9%	11.4%	43.3%	3.4%
要介護3	33.9%	9.6%	51.9%	4.6%
要介護4	33.0%	13.0%	48.9%	5.1%
要介護5	24.2%	11.7%	55.5%	8.7%

⑤地域づくり活動への参加意向【問11】

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくり活動を進めるとしたら、その活動に参加者として参加してみたいかどうかについてたずねたところ、「是非参加したい」が5.4%、「参加してもよい」が30.6%となっており、全体の36.0%が前向きな姿勢を示しています。一方、「参加したくない」が52.2%であり、消極的な回答が上回っています。

図表 199 地域づくり活動への参加意向（活動の参加者として）

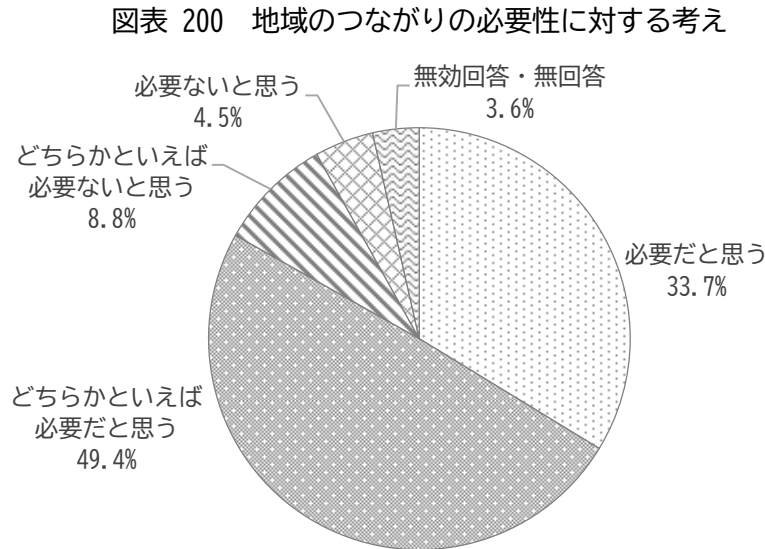


⑥地域のつながりに対する考え【問12・問13】

日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の支え合い等）の必要性についてどのように感じているかたずねたところ、「必要だと思う」が33.7%、「どちらかといえば必要だと思う」が49.4%でした。

年齢別の回答を見ると、年齢が高いほど「必要だと思う」の割合が高まる傾向が見られます。

また、日常生活圏域別の回答を見ると、「必要だと思う」の割合が最も高いのは「羽田」で48.0%、次いで「蒲田西」が44.3%となっています。一方、「嶺町」では18.9%であり、地域により差が見られます。

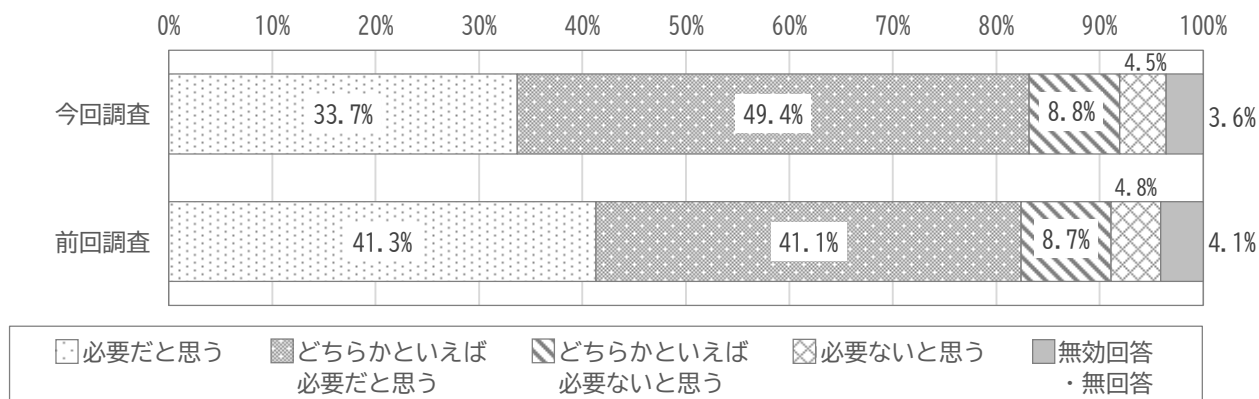


図表 201 地域のつながりの必要性に対する考え（年齢別・日常生活圏域別）

	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要ないと思う	必要ないと思う	無効回答・無回答
65～69歳	21.9%	52.1%	12.7%	6.5%	6.8%
70～74歳	29.9%	51.0%	9.6%	5.7%	3.9%
75～79歳	30.1%	54.6%	10.9%	2.3%	2.1%
80～84歳	36.5%	50.5%	5.7%	3.7%	3.7%
85歳以上	35.7%	45.6%	9.4%	5.6%	3.7%
大森東	33.0%	58.0%	4.5%	2.3%	2.3%
大森西	23.3%	55.3%	10.7%	8.7%	1.9%
入新井	35.6%	48.1%	9.6%	4.8%	1.9%
馬込	37.7%	47.2%	8.5%	3.8%	2.8%
池上	29.3%	56.5%	7.6%	2.2%	4.3%
新井宿	35.6%	45.5%	9.9%	5.9%	3.0%
嶺町	18.9%	61.1%	7.8%	7.8%	4.4%
田園調布	31.9%	49.5%	8.8%	3.3%	6.6%
鷯の木	34.0%	50.5%	6.8%	5.8%	2.9%
久が原	30.0%	53.0%	7.0%	5.0%	5.0%
雪谷	30.0%	51.0%	6.0%	11.0%	2.0%
千束	38.9%	41.1%	11.6%	5.3%	3.2%
糎谷	39.4%	46.8%	7.4%	5.3%	1.1%
羽田	48.0%	37.8%	6.1%	2.0%	6.1%
六郷	32.3%	44.1%	15.1%	2.2%	6.5%
矢口	30.3%	55.3%	9.2%	2.6%	2.6%
蒲田西	44.3%	46.2%	5.7%	1.9%	1.9%
蒲田東	32.4%	51.4%	8.6%	1.9%	5.7%

前回調査の結果と比較すると、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の合計には大きな差は見られませんが、「必要だと思う」の割合が前回より7.6ポイント低下し、「どちらかといえば必要だと思う」が8.3ポイント上昇しており、内訳には変化が見られます。

図表 202 地域のつながりの必要性に対する考え（前回調査との比較）

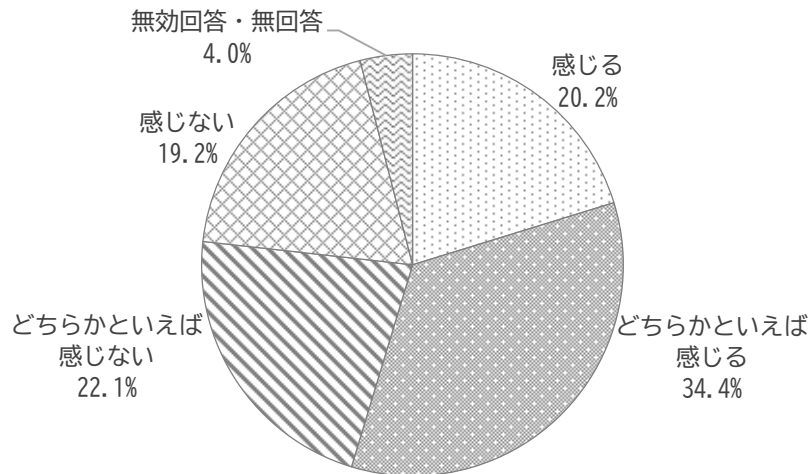


一方、地域のつながりを実際に感じるかどうかたずねたところ、「感じる」が20.2%、「どちらかといえば感じる」が34.4%であり、必要性を感じるという回答に比べ、実際に感じているとの回答割合が低いことがうかがえます。

年齢別の回答を見ると、年齢が高いほど「感じる」の割合が高まる傾向が見られます。

また、日常生活圏域別の回答を見ると、「感じる」の割合が最も高いのは「羽田」で28.6%、次いで「蒲田西」が27.4%となっています。一方、「嶺町」では11.1%であり、地域により差が見られます。

図表 203 地域のつながりを実感することの有無

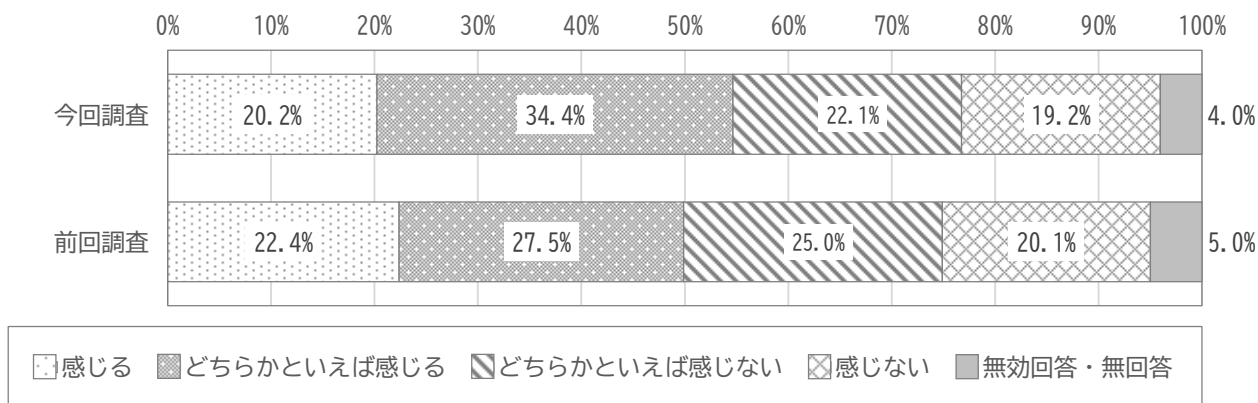


図表 204 地域のつながりを実感することの有無（年齢別・日常生活圏域別）

	感じる	どちらかといえば感じる	どちらかといえば感じない	感じない	無効回答・無回答
65～69歳	10.2%	25.6%	37.6%	20.9%	5.6%
70～74歳	14.5%	35.2%	20.9%	26.3%	3.2%
75～79歳	18.1%	32.4%	27.2%	18.6%	3.6%
80～84歳	24.4%	34.9%	18.1%	16.5%	6.0%
85歳以上	20.8%	35.9%	21.2%	19.4%	2.7%
大森東	19.3%	46.6%	21.6%	10.2%	2.3%
大森西	15.5%	40.8%	20.4%	21.4%	1.9%
入新井	16.3%	32.7%	27.9%	21.2%	1.9%
馬込	22.6%	28.3%	19.8%	26.4%	2.8%
池上	17.4%	41.3%	18.5%	19.6%	3.3%
新井宿	16.8%	35.6%	22.8%	21.8%	3.0%
嶺町	11.1%	24.4%	26.7%	32.2%	5.6%
田園調布	22.0%	31.9%	18.7%	19.8%	7.7%
鶉の木	19.4%	37.9%	22.3%	16.5%	3.9%
久が原	22.0%	33.0%	26.0%	15.0%	4.0%
雪谷	18.0%	36.0%	19.0%	23.0%	4.0%
千束	18.9%	40.0%	25.3%	12.6%	3.2%
糀谷	20.2%	29.8%	21.3%	23.4%	5.3%
羽田	28.6%	39.8%	18.4%	8.2%	5.1%
六郷	24.7%	25.8%	21.5%	20.4%	7.5%
矢口	15.8%	30.3%	25.0%	23.7%	5.3%
蒲田西	27.4%	34.0%	24.5%	13.2%	0.9%
蒲田東	17.1%	35.2%	24.8%	17.1%	5.7%

前回調査の結果と比較すると、「どちらかといえば感じる」の割合が 6.9 ポイント上昇しており、「感じる」・「どちらかといえば感じる」の合計が前回より 4.7 ポイント高まっています。

図表 205 地域のつながりを実感することの有無（前回調査との比較）



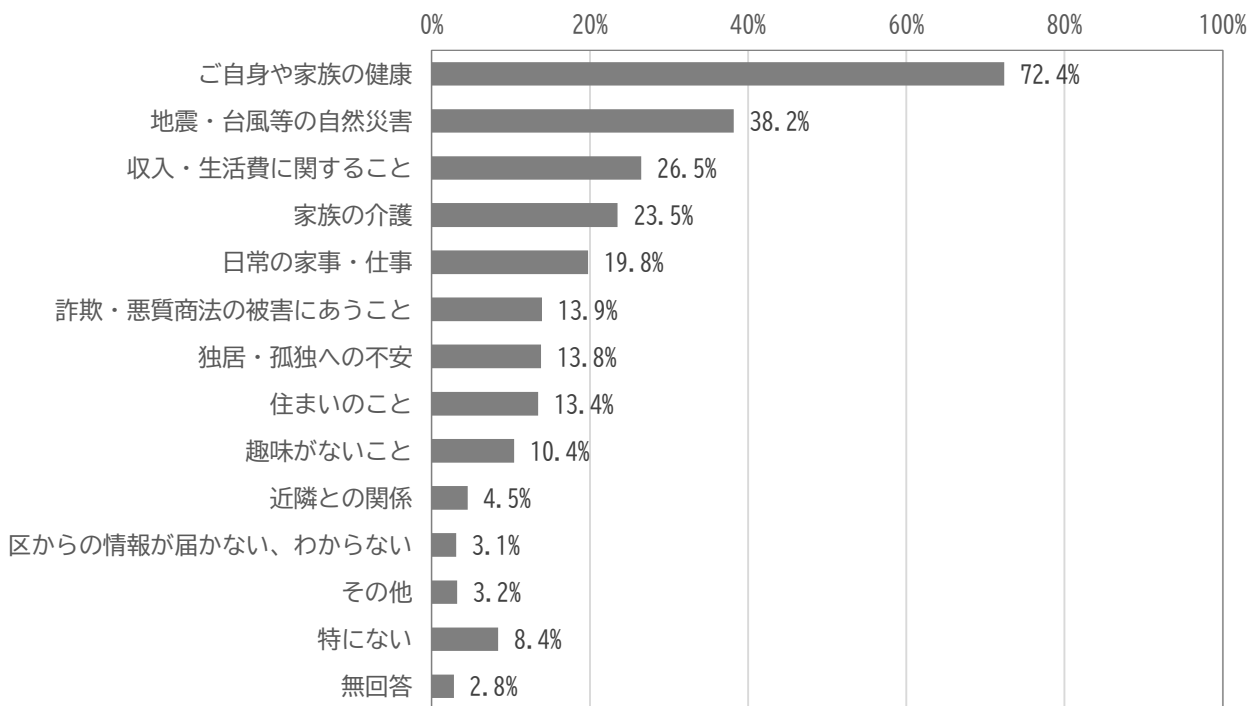
(6) 現在の生活に関する状況

①日常生活における心配ごと【問14】

日常生活における心配ごとについては、「ご自身や家族の健康」が72.4%と最も多く、次いで「地震・台風等の自然災害」が38.2%、「収入・生活費に関すること」が26.5%となっています。なお、「特にない」との回答は8.4%であり、9割程度の方が何らかの心配ごとを抱えているという回答結果が得られました。

家族構成別の回答を見ると、「単身世帯」では他と比べ「家族の介護」の割合が低く、一方で「独居・孤独への不安」や「詐欺・悪質商法の被害にあうこと」の割合が高くなっています。

図表 206 日常生活での心配ごと（複数回答）



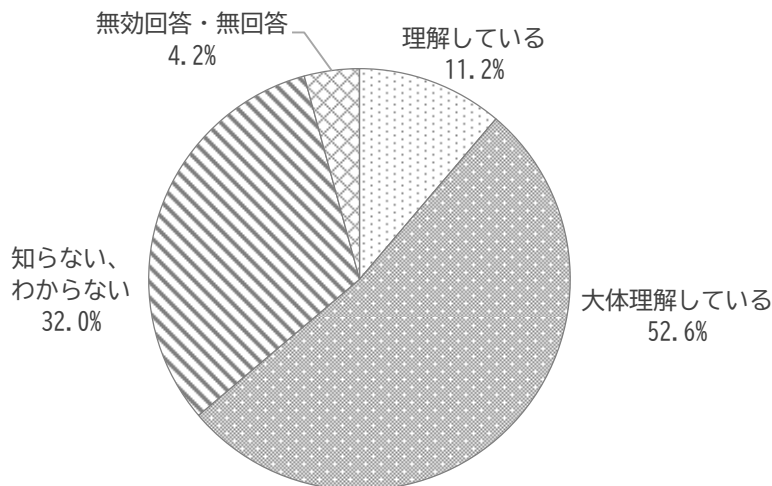
図表 207 日常生活での心配ごと（家族構成別）

	ご自身や家族の健康	家族の介護	地震・台風等の自然災害	独居・孤独への不安	住まいのこと	日常の家事・仕事	収入・生活費に関すること	近隣との関係	区からの情報が届かない、わからない	趣味がないこと	詐欺・悪質商法の被害にあうこと	その他	特にない	無回答
単身世帯	62.8%	6.3%	41.6%	29.1%	14.7%	22.2%	27.4%	7.1%	4.0%	9.6%	20.7%	2.6%	8.3%	3.4%
夫婦のみ世帯	79.9%	37.1%	39.5%	11.2%	12.1%	22.8%	25.8%	4.8%	3.4%	11.4%	12.3%	2.8%	5.5%	1.4%
その他	72.4%	22.7%	36.1%	8.3%	13.6%	16.5%	26.7%	3.2%	2.5%	10.3%	11.6%	3.9%	10.4%	3.1%

②災害への備えや避難行動等に対する理解【問 15】

災害が起きた際に、どのような備えが必要か、またどのように動くべきかを理解しているかをたずねたところ、「理解している」が11.2%、「大体理解している」が52.6%であり、6割程度の方が災害への備えや避難行動等に対する理解があるという回答結果が得られました。一方、「知らない、わからない」は32.0%となっています。

図表 208 災害への備えや避難行動等に対する理解



年齢別・家族構成別・要介護度別の回答は図表 209 のとおりです。

年齢別の回答を見ると、年齢によらず2～3割程度は「知らない、わからない」と回答しており、特に「85歳以上」では35.3%と、他より割合が高くなっています。

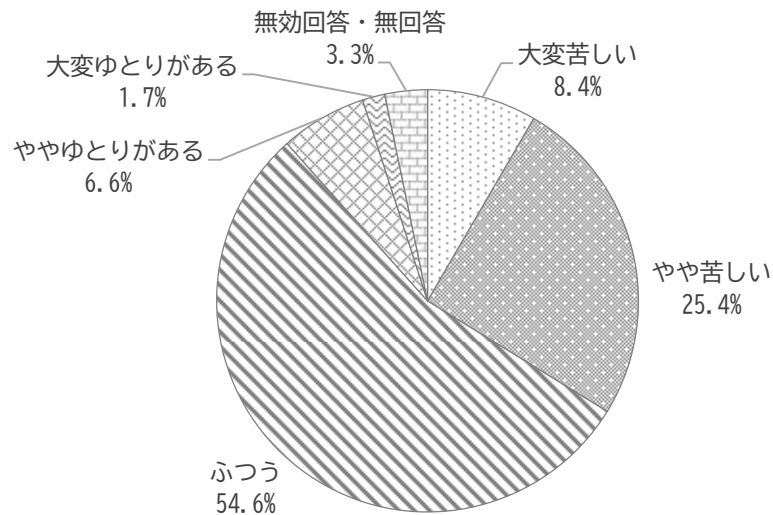
図表 209 災害への備えや避難行動等に対する理解（年齢別・家族構成別・要介護度別）

	理解している	大体理解している	知らない、わからない	無効回答・無回答
65～69歳	12.9%	48.1%	32.1%	6.8%
70～74歳	9.3%	66.3%	21.7%	2.7%
75～79歳	10.5%	54.2%	32.4%	3.0%
80～84歳	11.7%	51.8%	30.9%	5.6%
85歳以上	11.5%	49.4%	35.3%	3.8%
単身世帯	12.1%	47.6%	35.9%	4.4%
夫婦のみ世帯	13.0%	59.9%	24.0%	3.1%
その他	9.4%	50.2%	36.0%	4.4%
要介護1	10.6%	53.1%	34.5%	1.8%
要介護2	13.0%	53.3%	31.1%	2.6%
要介護3	7.2%	56.6%	32.9%	3.4%
要介護4	12.9%	50.0%	31.7%	5.4%
要介護5	5.3%	56.4%	31.7%	6.6%

③現在の暮らしの経済状況【問16】

現在の暮らしを、経済的に見てどのように感じているかたずねたところ、「ふつう」が54.6%となっていますが、「大変苦しい」が8.4%、「やや苦しい」が25.4%であり、経済的に苦しい状況にある方も少なくないことがわかります。

図表 210 現在の暮らしの経済状況



年齢別・家族構成別・要介護度別の回答は図表 211 のとおりです。

要介護度別の回答を見ると、「要介護4」や「要介護5」といった比較的重度の認定者では「大変苦しい」や「やや苦しい」の割合が高くなっています。

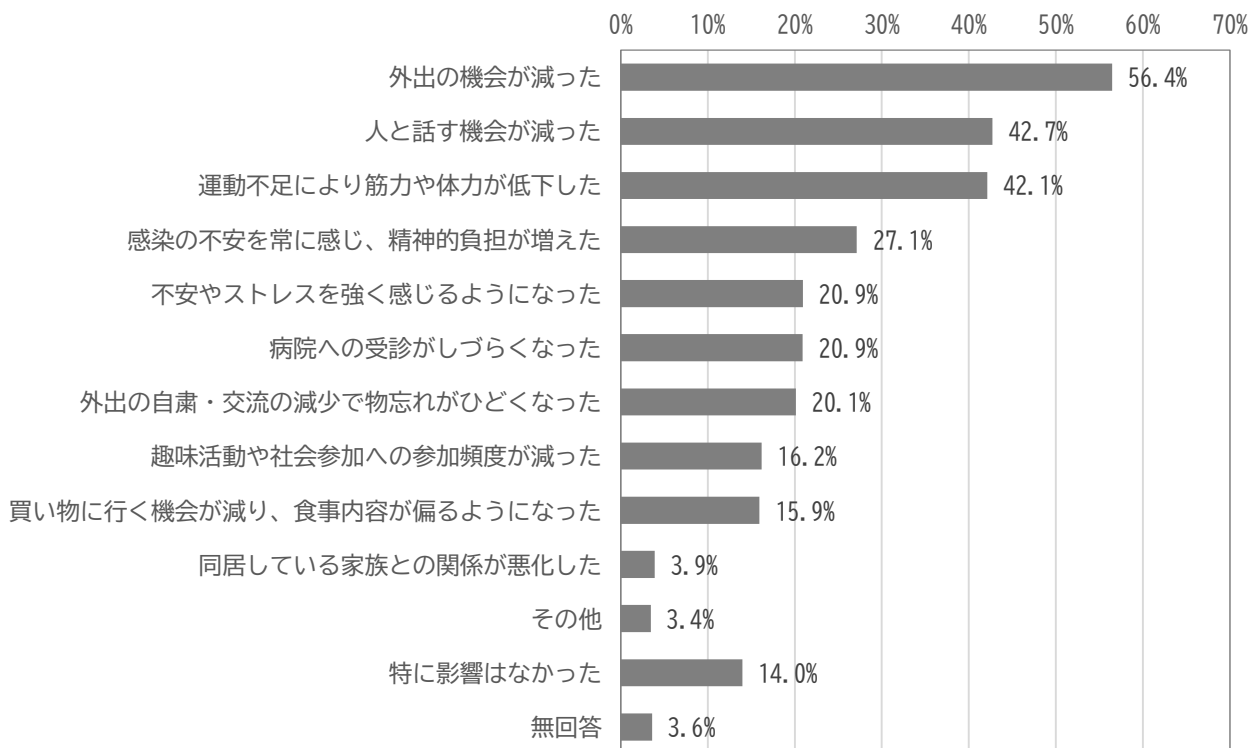
図表 211 現在の暮らしの経済状況（年齢別・家族構成別・要介護度別）

	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある
65～69歳	9.8%	25.9%	52.4%	5.2%	1.0%
70～74歳	11.7%	34.2%	40.1%	10.0%	1.4%
75～79歳	6.8%	31.7%	52.8%	5.6%	2.1%
80～84歳	9.0%	23.6%	54.0%	6.2%	2.4%
85歳以上	7.6%	21.5%	60.0%	6.7%	1.2%
単身世帯	8.6%	29.0%	51.0%	8.1%	0.5%
夫婦のみ世帯	8.2%	24.9%	55.4%	7.9%	1.9%
その他	8.3%	24.0%	56.2%	5.2%	2.3%
要介護1	6.9%	22.7%	59.9%	6.6%	1.6%
要介護2	7.8%	25.5%	54.1%	8.2%	2.6%
要介護3	8.5%	22.5%	59.9%	5.4%	0.6%
要介護4	9.4%	30.5%	48.5%	7.2%	0.3%
要介護5	13.1%	29.7%	44.6%	5.6%	2.4%

④新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化【問17】

新型コロナウイルス感染症に伴い、日常生活にどのような影響があったかについてたずねたところ、「外出の機会が減った」が56.4%と最も多く、次いで「人と話す機会が減った」が42.7%、「運動不足により筋力や体力が低下した」が42.1%となっています。他人との交流機会が減少するとの影響を受けた方が多いことがわかるとともに、外出できず運動不足になる等、心身の健康にも影響が出ていることがうかがえます。

図表 212 新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化（複数回答）



年齢別の回答を見ると、総じて同様の結果となっていますが、「外出の自粛・交流の減少で物忘れがひどくなった」については75歳以上で割合が高くなっています。

図表 213 新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化（年齢別）

	外出の機会が減った	感染の不安を常に感じ、精神的負担が増えた	人と話す機会が減った	運動不足により筋力や体力が低下した	趣味活動や社会参加への参加頻度が減った	不安やストレスを強く感じるようになった	病院への受診がしづらくなった	食事内容が偏るようになった	買い物に行く機会が減り、物忘れがひどくなった	外出の自粛・交流の減少で物忘れがひどくなった	同居している家族との関係が悪化した	その他	特に影響はなかった	無回答
65～69歳	59.2%	26.4%	47.4%	39.4%	20.5%	15.7%	20.7%	12.1%	13.4%	2.6%	0.0%	15.4%	8.8%	
70～74歳	54.7%	30.1%	42.2%	42.6%	13.0%	29.9%	20.8%	17.5%	9.8%	3.4%	3.0%	13.7%	4.3%	
75～79歳	58.4%	27.3%	41.9%	43.2%	15.1%	19.4%	22.3%	17.0%	18.9%	4.6%	3.2%	13.0%	2.2%	
80～84歳	59.8%	28.0%	45.7%	44.7%	19.2%	23.8%	23.0%	18.7%	24.7%	4.8%	3.9%	13.0%	4.0%	
85歳以上	61.7%	27.6%	44.0%	32.5%	14.6%	19.9%	21.3%	15.0%	18.1%	2.7%	1.3%	15.0%	4.1%	

家族構成別の回答を見ると、「単身世帯」では「買い物に行く機会が減り、食事内容が偏るようになった」や「外出の自粛・交流の減少で物忘れがひどくなった」の割合が高くなっています。

図表 214 新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化（家族構成別）

	外出の機会が減った	感染の不安を常に感じ、精神的負担が増えた	人と話す機会が減った	運動不足により筋力や体力が低下した	趣味活動や社会参加への参加頻度が減った	不安やストレスを強く感じるようになった	病院への受診がしづらくなった	買い物に行く機会が減り、食事内容が偏るようになった	外出の自粛・交流の減少で物忘れがひどくなった	同居している家族との関係が悪化した	その他	特に影響はなかった	無回答
単身世帯	57.2%	28.6%	45.7%	45.0%	19.3%	22.3%	23.9%	23.3%	24.6%	3.6%	2.9%	13.4%	3.5%
夫婦のみ世帯	58.1%	30.5%	43.6%	42.4%	18.7%	22.3%	21.0%	18.6%	18.8%	3.5%	3.9%	11.8%	3.1%
その他	55.4%	23.8%	40.9%	40.5%	13.2%	19.4%	19.8%	10.6%	18.7%	4.4%	3.5%	15.8%	3.5%

要介護度別の回答を見ると、総じて同様の回答傾向が見られますが、「要介護1」や「要介護2」といった比較的軽度の認定者において、外出の自粛等による影響に関する項目の回答割合が高くなっています。

図表 215 新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化（要介護度別）

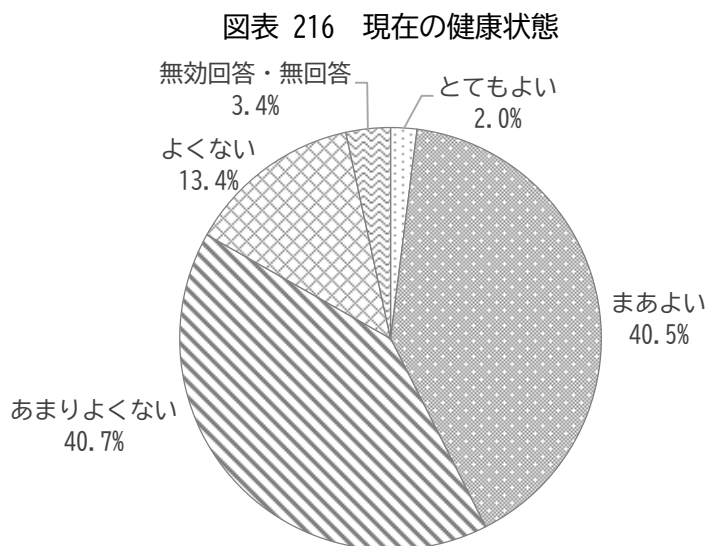
	外出の機会が減った	感染の不安を常に感じ、精神的負担が増えた	人と話す機会が減った	運動不足により筋力や体力が低下した	趣味活動や社会参加への参加頻度が減った	不安やストレスを強く感じるようになった	病院への受診がしづらくなった	買い物に行く機会が減り、食事内容が偏るようになった	外出の自粛・交流の減少で物忘れがひどくなった	同居している家族との関係が悪化した	その他	特に影響はなかった	無回答
要介護1	58.4%	26.2%	43.8%	44.3%	19.3%	24.7%	21.4%	19.1%	22.6%	4.5%	3.7%	14.4%	2.9%
要介護2	58.3%	30.4%	45.0%	46.0%	14.6%	21.6%	19.8%	17.1%	19.5%	3.2%	2.8%	14.1%	1.2%
要介護3	55.7%	22.6%	34.7%	37.5%	16.3%	16.5%	18.3%	11.1%	16.0%	4.3%	4.6%	14.6%	4.2%
要介護4	50.8%	29.3%	44.4%	44.9%	17.3%	19.4%	24.4%	13.2%	17.4%	3.6%	3.3%	12.2%	6.7%
要介護5	46.7%	27.6%	35.6%	28.6%	7.9%	17.6%	21.1%	9.8%	10.9%	3.2%	5.9%	16.6%	5.0%

（7）心身の健康に関する状況

①現在の健康状態【問 18】

自分の現在の健康状態についてどのように感じているかたずねたところ、「とてもよい」が2.0%、「まあよい」が40.5%であり、「健康状態がよい」との回答が42.5%となっています。

一方、「よくない」が13.4%、「あまりよくない」が40.7%であり、「健康状態がよくない」との回答が54.1%でした。



年齢別の回答を見ると、年齢が若い方が「よくない」、「あまりよくない」との回答割合が高く、年齢が高いほど「まあよい」の割合が高まる傾向が見られます。

また要介護度別の回答を見ると、「要介護4」や「要介護5」では「よくない」が2割程度となっており、他と比べ割合が高くなっています。

図表 217 現在の健康状態（年齢別・要介護度別）

	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無効回答・無回答
65～69歳	0.9%	30.5%	44.6%	18.3%	5.6%
70～74歳	0.3%	34.4%	40.7%	20.0%	4.5%
75～79歳	3.3%	37.8%	40.8%	13.7%	4.3%
80～84歳	2.5%	39.0%	41.5%	13.2%	3.8%
85歳以上	1.7%	45.7%	39.4%	11.1%	2.1%
要介護1	2.9%	46.7%	37.5%	11.7%	1.1%
要介護2	0.5%	35.4%	48.0%	14.9%	1.2%
要介護3	3.0%	41.1%	43.5%	8.5%	3.8%
要介護4	0.5%	32.1%	42.8%	19.8%	4.8%
要介護5	4.1%	41.8%	25.5%	19.4%	9.2%

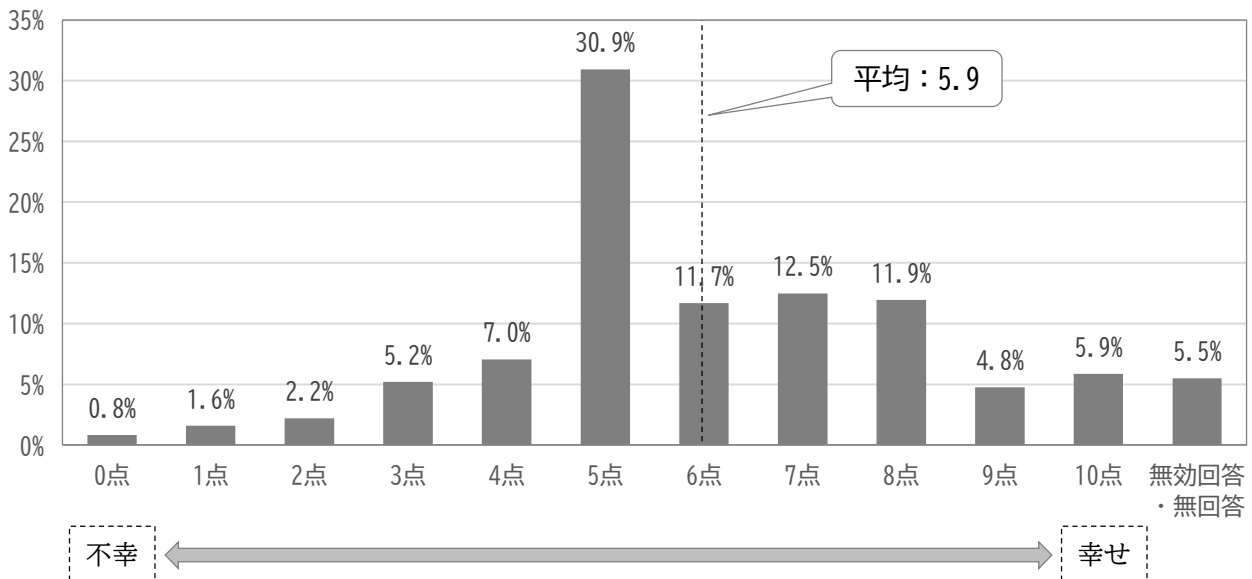
②現在の生活に対する幸福感【問19】

現在の生活をどの程度幸せだと感じているかについて、10点満点での評価をたずねたところ、平均は5.9点（無回答を除いて算出）でした。最も多かった回答は、「5点」で30.9%であり、「6点」、「7点」、「8点」がそれぞれ12%程度となっています。一方で、「1点」、「0点」といった低い回答も見られます。

年齢別の回答を見ると、年齢が高いほど平均点が高く、「85歳以上」では「10点」との回答が7.0%と、各年代の中で最も高くなっています。

要介護度別の回答を見ると、「要介護1」、「要介護2」では平均点が比較的高く、それ以外では全体の平均点を下回っていますが、いずれの要介護度においても5.7を上回っており、全体の平均値と比べ-0.2ポイント以内に収まっています。なお、いずれの要介護度においても「8点」以上の回答が2～3割程度となっています。

図表 218 現在の生活に対する幸福感



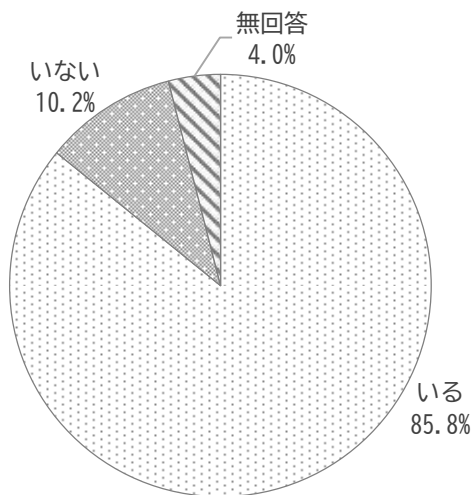
図表 219 現在の生活に対する幸福感（年齢別・要介護度別）

	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無効回答・無回答	平均点
65～69歳	4.0%	3.1%	1.9%	14.8%	5.4%	25.6%	6.2%	14.1%	11.3%	4.5%	1.2%	7.8%	5.21
70～74歳	1.2%	4.0%	1.3%	7.8%	10.7%	27.2%	9.6%	13.8%	11.5%	4.3%	3.0%	5.7%	5.54
75～79歳	0.4%	1.2%	3.7%	6.0%	8.6%	35.4%	9.3%	12.3%	9.5%	3.8%	5.2%	4.5%	5.69
80～84歳	0.8%	1.4%	1.6%	5.8%	7.5%	29.6%	12.4%	12.0%	9.7%	5.0%	6.5%	7.9%	5.92
85歳以上	0.5%	1.1%	2.3%	2.5%	5.3%	31.6%	13.4%	12.4%	14.9%	5.2%	7.0%	3.8%	6.19
要介護1	0.6%	1.8%	1.1%	3.6%	8.1%	31.1%	11.9%	15.5%	12.3%	4.1%	7.4%	2.5%	6.07
要介護2	0.5%	1.3%	1.5%	5.6%	7.7%	33.1%	11.0%	10.8%	12.7%	5.5%	6.5%	3.9%	5.98
要介護3	0.8%	0.4%	2.0%	8.2%	7.6%	30.2%	14.5%	15.1%	10.1%	2.9%	3.4%	4.7%	5.71
要介護4	0.3%	1.1%	5.2%	4.4%	3.0%	37.5%	9.3%	7.9%	12.9%	5.2%	6.0%	7.4%	5.87
要介護5	1.4%	2.5%	3.9%	5.3%	6.0%	26.3%	11.9%	5.0%	13.9%	6.6%	4.5%	12.8%	5.77

③かかりつけ医の有無【問 20】

日ごろから相談できる、かかりつけ医の有無についてたずねたところ、「いる」が85.8%、「いない」が10.2%でした。

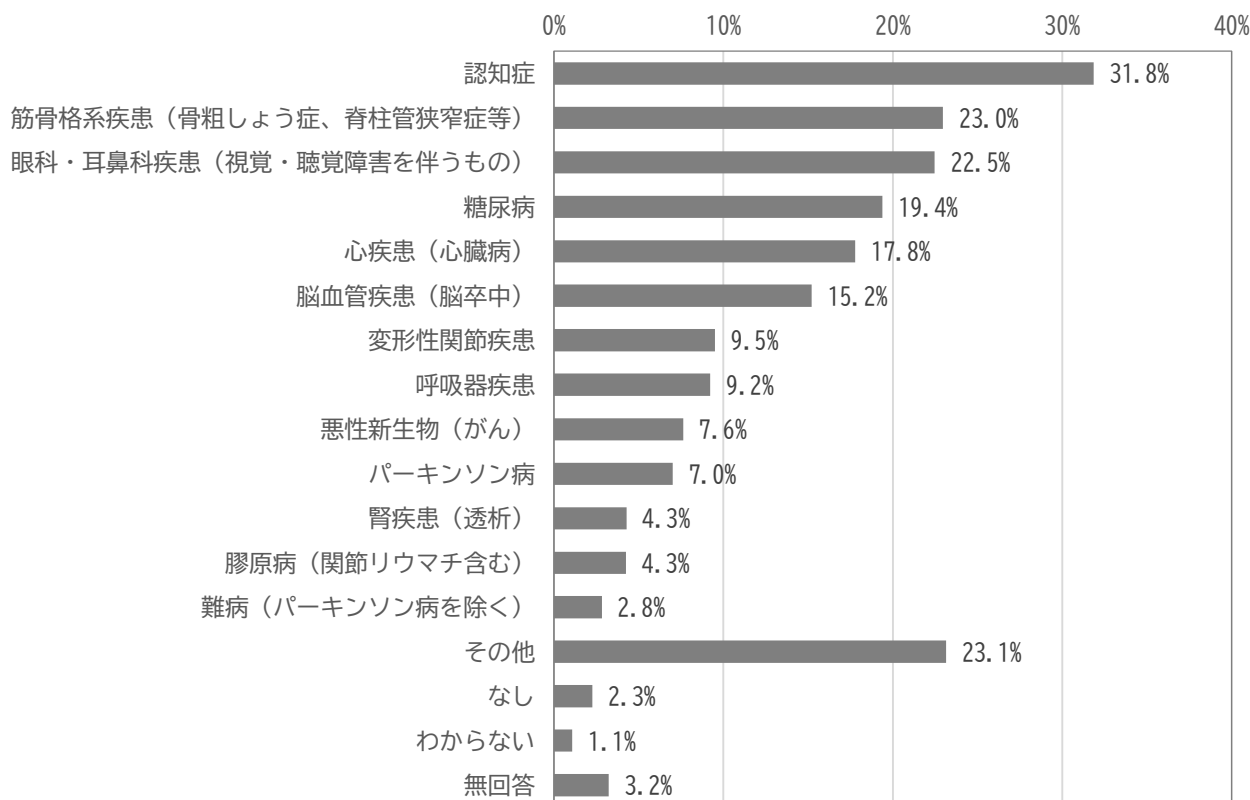
図表 220 かかりつけ医の有無



④現在抱えている傷病【問 21】

現在抱えている傷病については、「なし」との回答が2.3%であり、9割以上の方が何らかの傷病を抱えていることが把握されました。抱えている傷病としては、「認知症」が31.8%と最も多くなっています。

図表 221 現在抱えている傷病（複数回答）



年齢別・要介護度別の回答は図表 222 のとおりです。

年齢が高いほど、「筋骨格系疾患」や「認知症」の割合が高くなる傾向が見られます。

図表 222 現在抱えている傷病（年齢別・要介護度別）

	脳血管疾患（脳卒中）	心疾患（心臓病）	悪性新生物（がん）	呼吸器疾患	腎疾患（透析）	筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）	（関節リウマチ含む） 膠原病	変形性関節疾患	認知症
65～69歳	13.5%	16.2%	10.0%	7.9%	5.9%	12.8%	5.5%	7.4%	13.0%
70～74歳	24.0%	7.5%	8.0%	8.2%	5.9%	16.3%	5.4%	5.0%	19.6%
75～79歳	22.6%	13.6%	13.8%	9.7%	3.4%	20.8%	3.3%	8.8%	28.4%
80～84歳	14.5%	18.7%	5.7%	9.0%	6.3%	22.2%	4.3%	10.4%	33.5%
85歳以上	10.3%	21.9%	5.9%	9.6%	2.5%	27.5%	4.2%	10.6%	37.7%

要介護1	13.9%	16.3%	6.3%	8.3%	2.1%	23.0%	0.6%	10.5%	40.3%
要介護2	14.3%	20.9%	11.2%	10.9%	8.0%	27.8%	5.7%	11.2%	23.6%
要介護3	17.8%	20.8%	5.4%	7.9%	3.8%	25.6%	5.2%	8.2%	37.2%
要介護4	17.0%	15.8%	8.1%	9.7%	5.6%	23.7%	5.9%	8.5%	24.2%
要介護5	26.0%	13.3%	4.6%	7.4%	1.8%	7.4%	3.8%	4.1%	41.7%

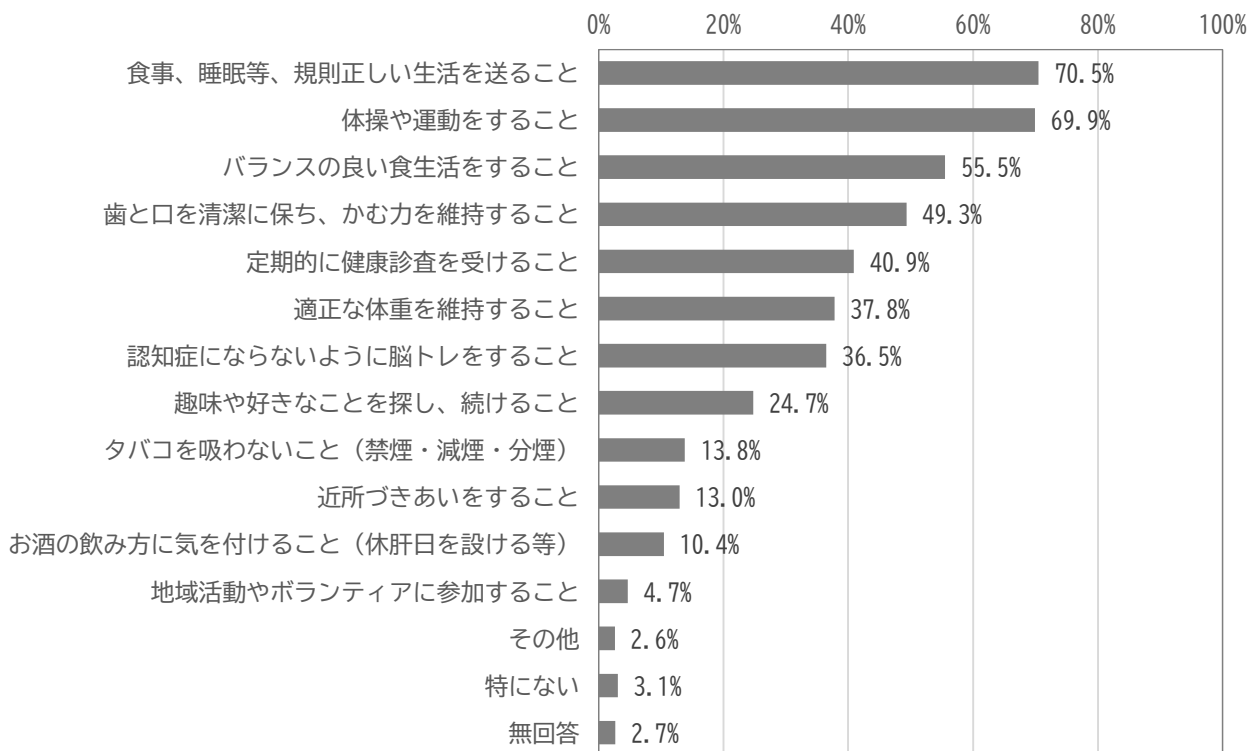
	パーキンソン病	（パーキンソン病を除く） 難病	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）	その他	なし	わからない	無回答
65～69歳	6.3%	9.1%	15.7%	13.6%	32.3%	0.0%	1.8%	8.2%
70～74歳	15.5%	8.9%	20.5%	10.9%	22.8%	2.5%	2.1%	5.0%
75～79歳	8.4%	1.7%	24.6%	16.4%	20.2%	1.4%	0.7%	1.5%
80～84歳	6.7%	2.2%	18.9%	23.9%	23.4%	2.1%	1.1%	4.0%
85歳以上	4.4%	1.4%	17.5%	28.3%	23.2%	2.9%	0.9%	2.4%

要介護1	6.3%	1.1%	19.2%	24.5%	25.0%	2.9%	0.7%	1.4%
要介護2	7.6%	3.0%	17.4%	24.4%	21.9%	1.8%	0.0%	1.4%
要介護3	3.7%	3.5%	24.9%	24.5%	29.0%	0.6%	0.6%	3.4%
要介護4	9.8%	4.0%	18.1%	15.9%	23.2%	2.7%	1.9%	4.7%
要介護5	11.0%	6.7%	15.9%	16.0%	15.3%	3.0%	0.0%	7.9%

⑤要介護度の維持・改善に向けて取り組むべきと考えること【問 22】

要介護度の維持・改善に向けて、取り組むべきと考えていることについては、「食事、睡眠等、規則正しい生活を送ること」が70.5%、「体操や運動をすること」が69.9%となっています。

図表 223 要介護度の維持・改善に向けて、取り組むべきと考えること（複数回答）

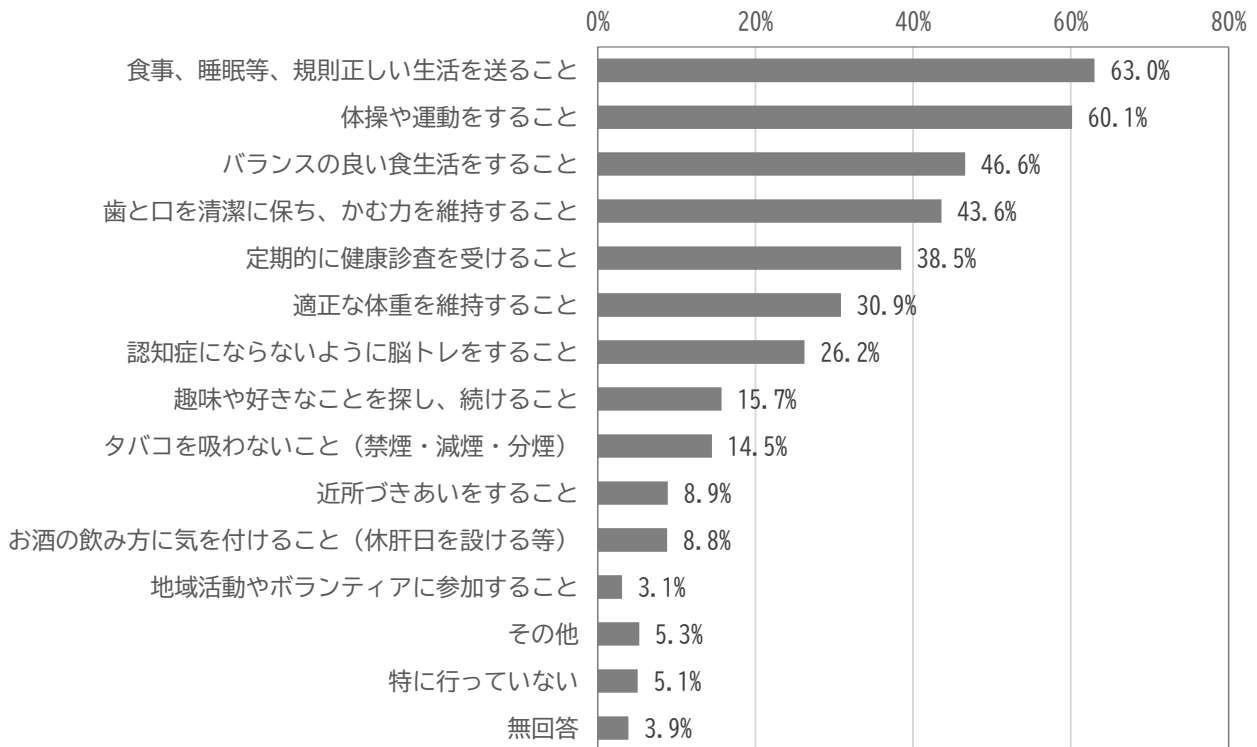


⑥要介護度の維持・改善に向けて、今実践していること【問23】

要介護度の維持・改善に向けて、今実践していることについては、「食事、睡眠等、規則正しい生活を送ること」が63.0%、「体操や運動をすること」が60.1%となっています。

取り組むべきと考えている回答に比べ、実践しているとの回答割合は低くなっているものの、「特に行っていない」は5.1%であり、ほとんどの人が要介護度の維持・改善に向けて何らかの行動を実践していることがうかがえます。

図表 224 要介護度の維持・改善に向けて、今実践していること（複数回答）

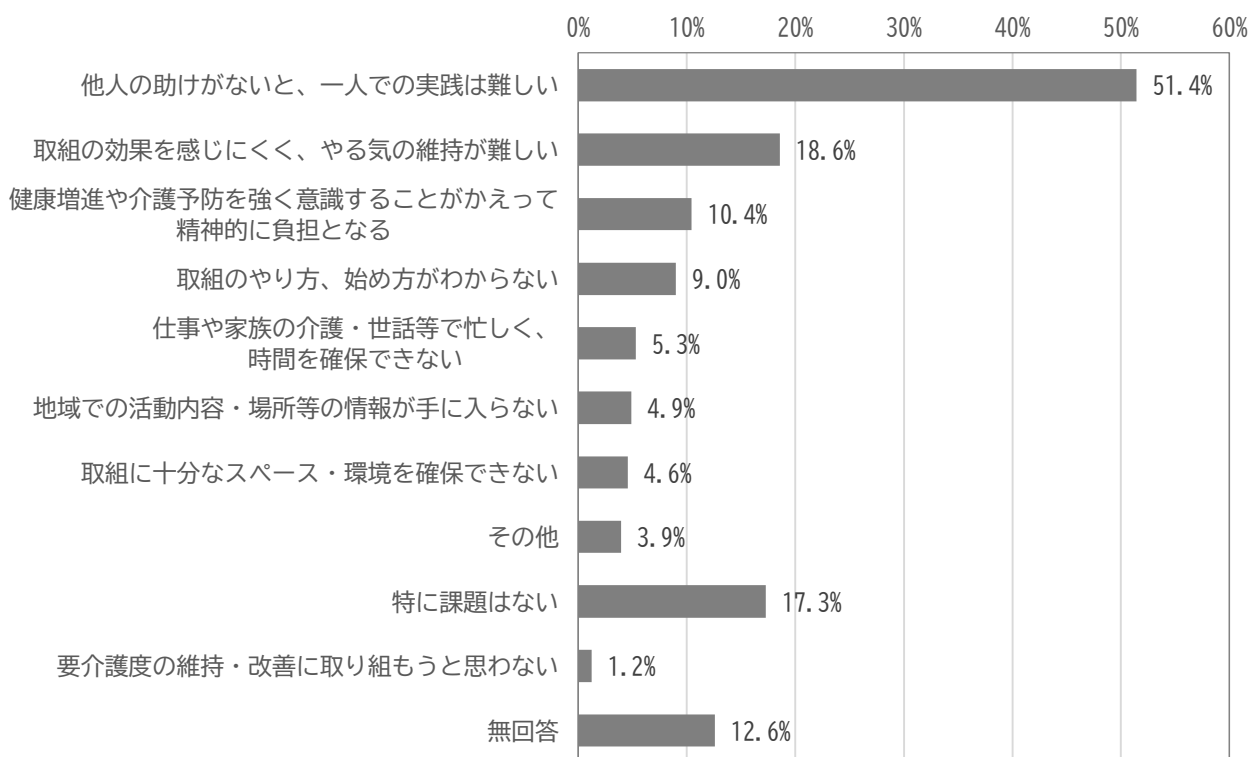


⑦要介護度の維持・改善にあたり抱えている課題【問24】

要介護度の維持・改善に取り組むにあたり、抱えている課題については、「特に課題はない」との回答は17.3%であり、「特に課題はない」・「要介護度の維持・改善に取り組もうと思わない」・「無回答」を除く7割程度の方が、要介護度の維持・改善の取組において何らかの課題を抱えていることが把握されました。

抱えている課題としては、「他人の助けがないと、一人での実践は難しい」が51.4%と最も多く、次いで「取組の効果を感じにくく、やる気の維持が難しい」が18.6%となっています。取組のサポートやモチベーションの維持において、他者とのかわりが必要になることがうかがえます。

図表 225 要介護度の維持・改善に取り組むにあたり、抱えている課題（複数回答）



年齢別の回答を見ると、年齢が高いほど「他人の助けがないと、一人での実践は難しい」の割合が高くなる傾向が見られます。

また、要介護度別の回答を見ると、「要介護2」以上では「他人の助けがないと、一人での実践は難しい」の割合が5割を上回っており、特に「要介護5」では65.4%となっています。

図表 226 要介護度の維持・改善に取り組むにあたり、抱えている課題（年齢別・要介護度別）

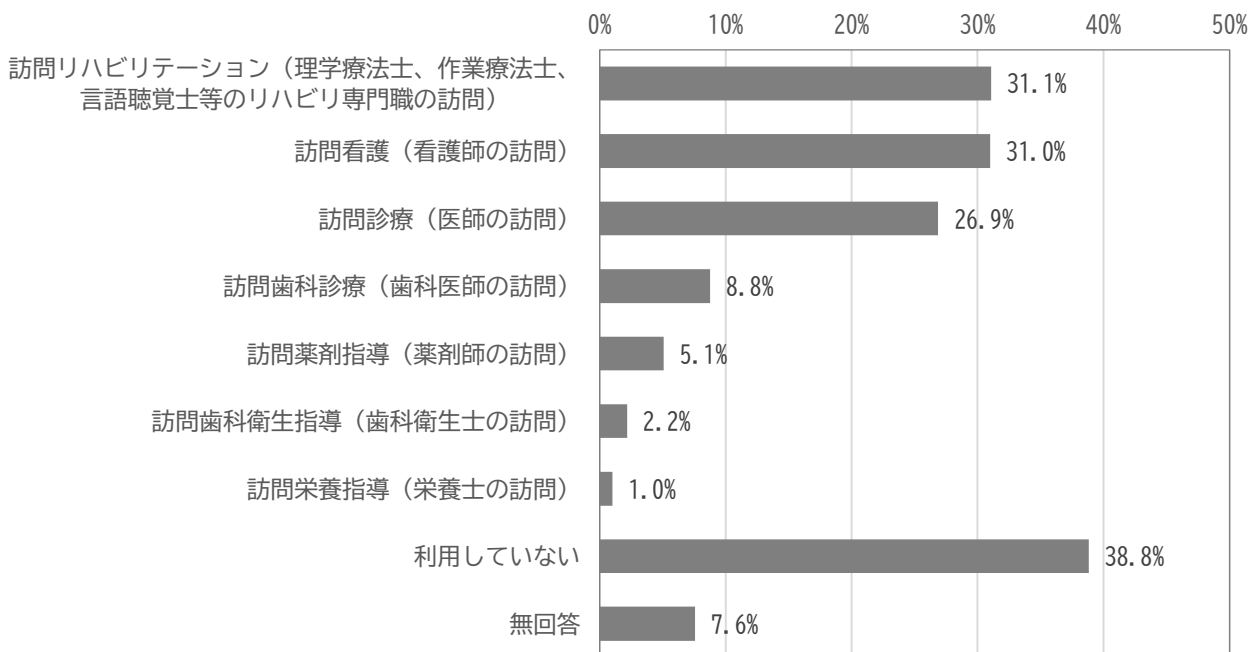
	取組のやり方、 始め方がわからない	取組の効果を 感じる気が難しく、 維持が難しい	一人での実践は 難しい	地域での活動内容・場所等 の情報が手に入らない	健康増進や介護予防を強く 意識することがかえって 精神的に負担となる	取組に十分なスペース・ 環境を確保できない	仕事や家族の介護・ 世話等で忙しく、 時間を確保できない	その他	特に課題はない	要介護度の維持・改善に 取り組もうと思わない	無回答
65～69歳	7.9%	15.7%	47.6%	4.9%	12.8%	5.0%	1.0%	7.6%	18.0%	1.0%	7.1%
70～74歳	5.6%	24.7%	45.3%	6.7%	10.3%	6.1%	7.4%	2.7%	21.5%	2.1%	11.2%
75～79歳	8.5%	20.8%	51.9%	3.3%	9.7%	3.7%	6.8%	2.7%	14.7%	1.2%	14.2%
80～84歳	10.7%	18.5%	52.7%	5.5%	13.4%	5.3%	5.8%	6.2%	16.2%	1.3%	11.2%
85歳以上	9.0%	16.3%	52.4%	4.6%	8.4%	3.9%	4.3%	2.7%	18.0%	1.0%	14.0%
要介護1	10.3%	19.7%	45.8%	6.0%	12.4%	2.9%	5.0%	3.9%	18.7%	1.9%	12.5%
要介護2	9.1%	19.2%	53.3%	6.1%	11.3%	5.0%	5.3%	4.5%	17.5%	0.9%	10.5%
要介護3	4.7%	17.9%	58.0%	3.0%	7.7%	4.4%	5.2%	4.7%	17.2%	1.6%	10.7%
要介護4	7.8%	18.9%	55.3%	3.9%	14.6%	6.2%	4.4%	3.5%	13.2%	1.9%	13.0%
要介護5	4.2%	17.4%	65.4%	3.0%	8.5%	7.0%	13.8%	1.5%	17.0%	0.0%	8.2%

⑧現在の暮らしの在宅医療サービスの利用有無【問 25】

現在の暮らしにおいて、在宅医療サービスを利用しているかたずねたところ、「利用していない」が38.8%であり、「利用していない」と「無回答」を除く5割程度の方が何らかのサービスを利用していることが把握されました。

利用している在宅医療サービスとしては、「訪問リハビリテーション（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等のリハビリ専門職の訪問）」が31.1%、「訪問看護（看護師の訪問）」が31.0%、「訪問診療（医師の訪問）」が26.9%となっています。

図表 227 現在の暮らしにおける、在宅医療サービスの利用の有無（複数回答）



年齢別・要介護度別の回答は図表 228 のとおりであり、要介護度が高いほど利用者が多く、特に「要介護5」では9割程度が何らかのサービスを利用していると回答しています。

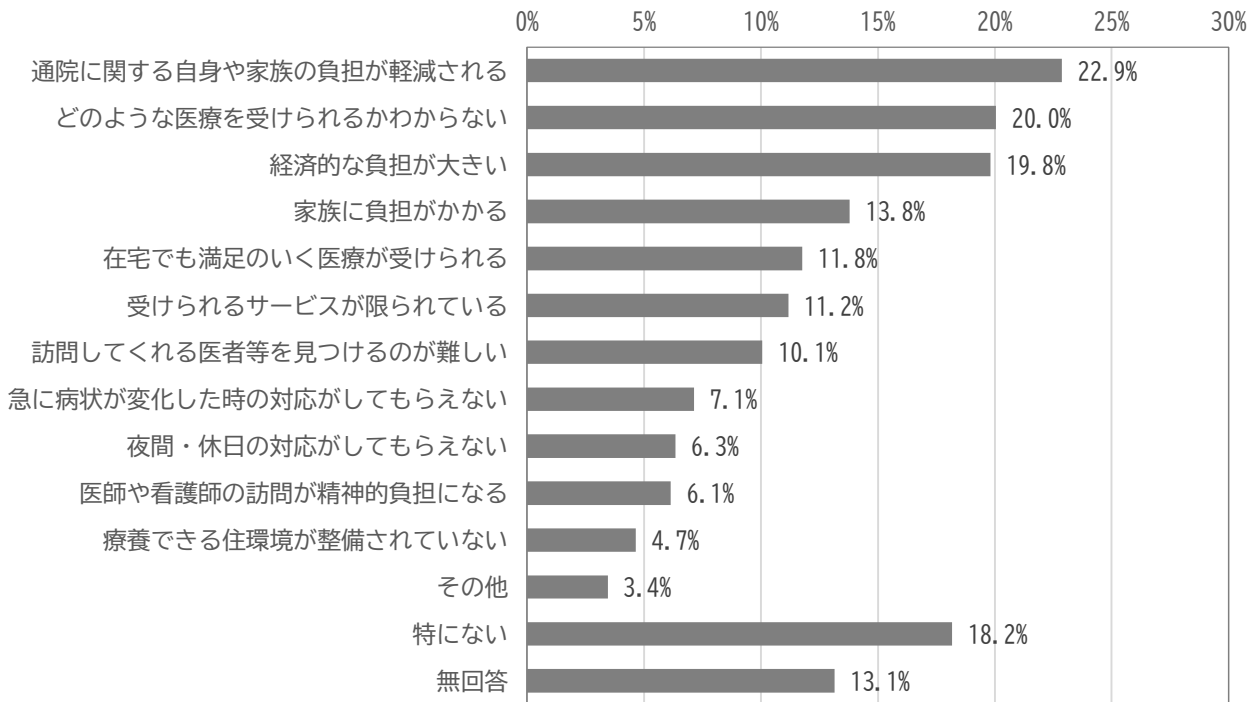
図表 228 現在の暮らしにおける、在宅医療サービスの利用の有無（年齢別・要介護度別）

	（医師の訪問診療）	（看護師の訪問看護）	（歯科医師の訪問診療）	訪問歯科衛生士の訪問指導	（栄養士の訪問指導）	訪問リハビリテーション（リハビリ専門職の訪問）	（薬剤師の訪問指導）	利用していない	無回答
65～69歳	29.4%	36.0%	14.9%	2.7%	0.0%	40.6%	6.5%	29.8%	6.1%
70～74歳	33.1%	44.5%	10.3%	3.2%	1.8%	45.3%	7.4%	26.1%	4.6%
75～79歳	27.3%	31.4%	11.9%	2.4%	0.5%	34.6%	5.7%	38.2%	9.2%
80～84歳	24.0%	29.2%	8.0%	2.6%	1.2%	28.2%	3.6%	42.0%	8.2%
85歳以上	26.9%	27.9%	6.8%	1.4%	1.0%	26.7%	5.1%	41.2%	7.3%
要介護1	14.6%	19.7%	2.7%	0.3%	0.0%	20.3%	2.5%	53.9%	7.9%
要介護2	22.8%	29.4%	9.8%	3.1%	2.2%	32.9%	5.6%	40.7%	6.1%
要介護3	28.8%	34.8%	9.0%	0.9%	0.2%	37.3%	5.0%	33.3%	4.4%
要介護4	41.6%	45.2%	12.3%	1.3%	1.4%	46.8%	3.6%	25.3%	4.0%
要介護5	71.2%	62.8%	28.5%	10.9%	0.7%	51.6%	14.1%	8.3%	5.3%

⑨在宅医療に対する考え【問26】

在宅医療サービスに対する考えをたずねたところ、「通院に関する自身や家族の負担が軽減される」が22.9%と最も多くなっています。一方、「どのような医療を受けられるかわからない」が20.0%、「経済的な負担が大きい」が19.8%となっています。

図表 229 在宅医療に対する考え（複数回答）

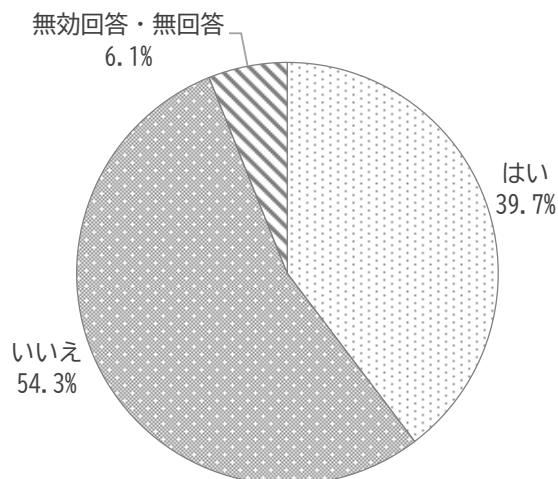


（8）認知症に関する状況

①自身や家族の認知症状の有無【問 27】

自分自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状の方がいるかどうかについてたずねたところ、「はい」が39.7%、「いいえ」が54.3%でした。

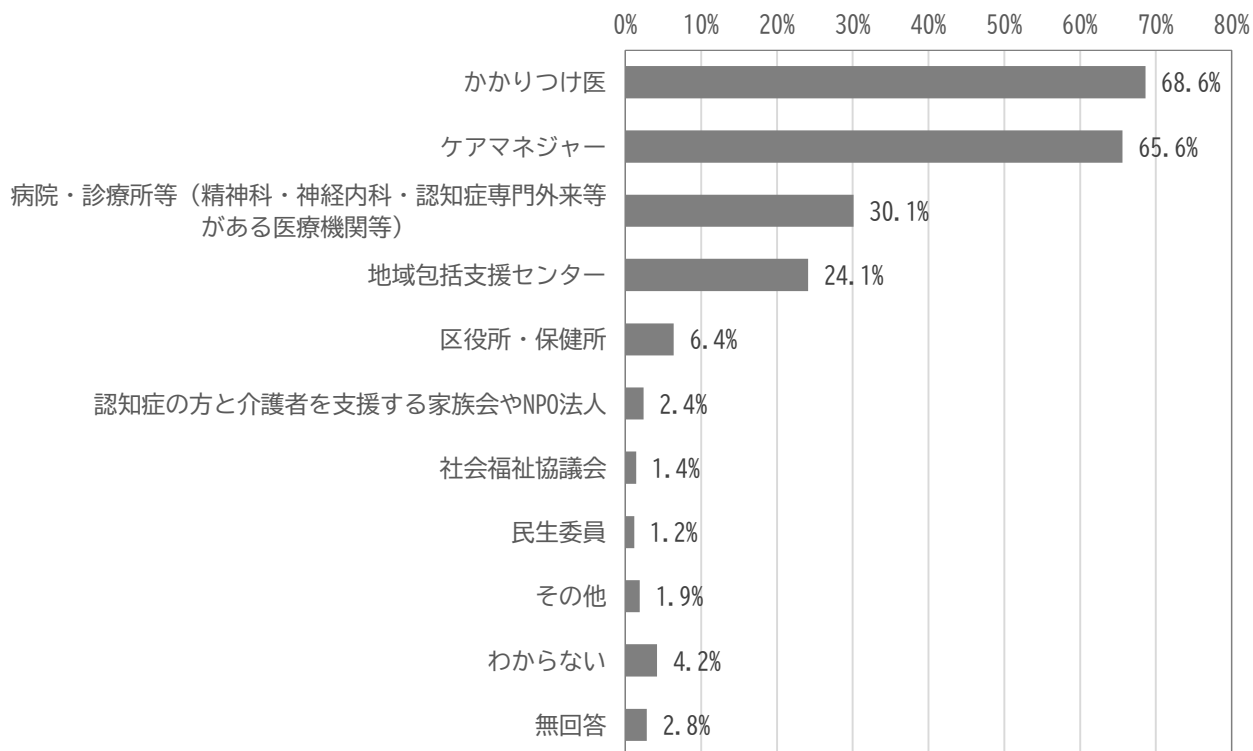
図表 230 自分自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいるかどうか



②認知症に関する相談先【問 28】

自分自身や家族に認知症の心配が出た際にどこに相談しようと思うかたずねたところ、「かかりつけ医」が68.6%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」が65.6%となっています。

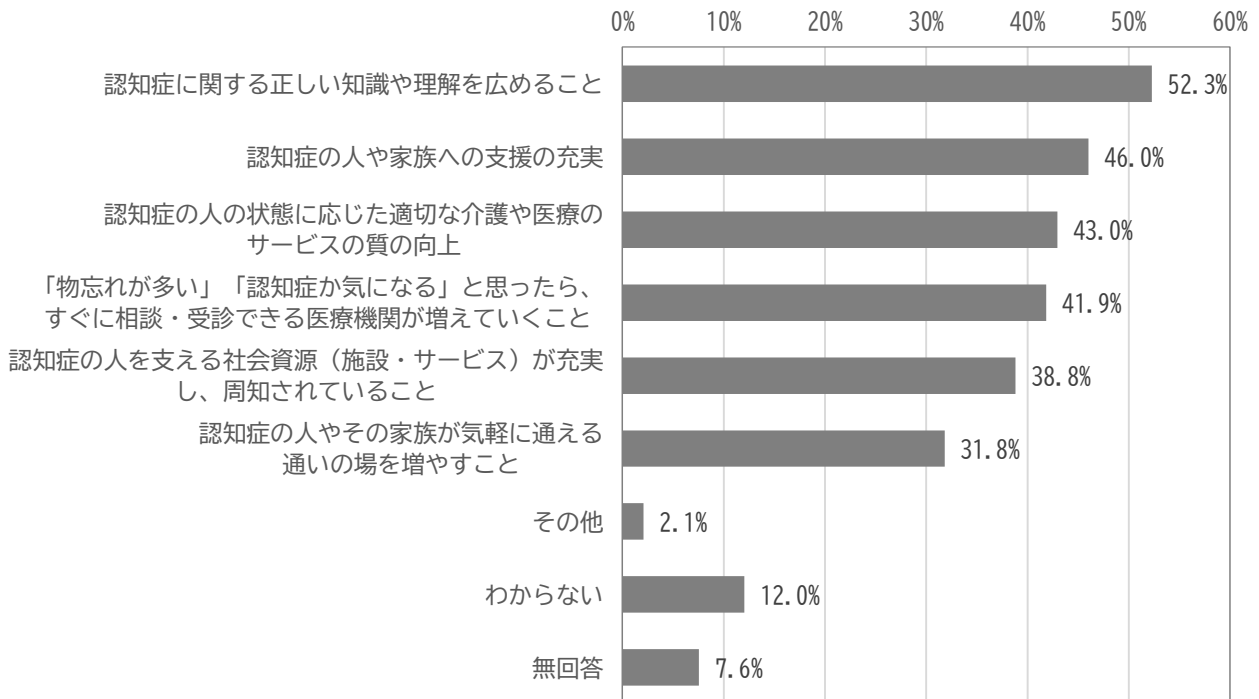
図表 231 自分自身や家族に認知症の心配が出た際に、相談しようと思う機関等（複数回答）



③認知症に優しい地域づくりの実現に向けて必要な取組や支援【問29】

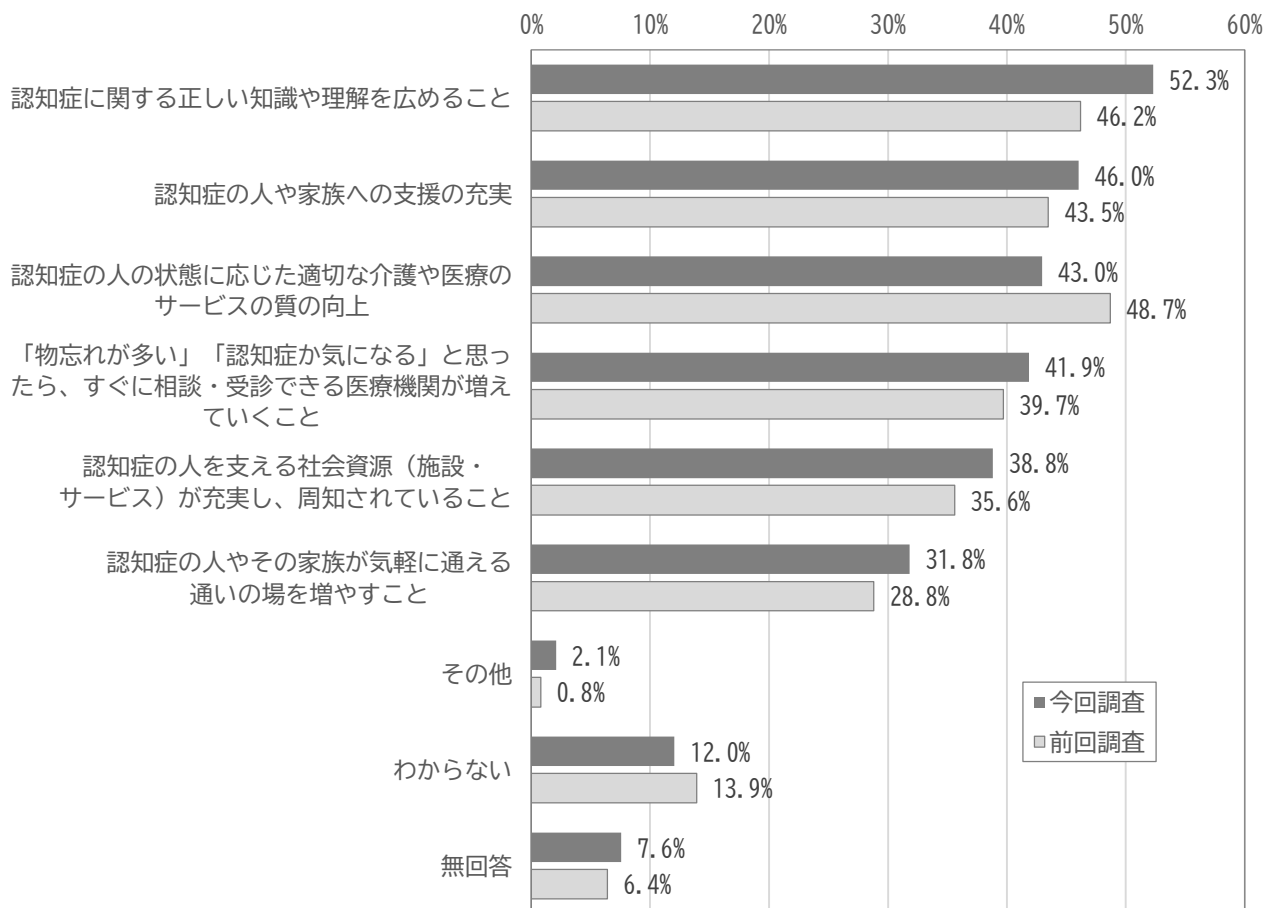
認知症の人と共に生きる、優しい地域づくりを実現するために必要な取組や支援についてたずねたところ、「認知症に関する正しい知識や理解を広めること」が52.3%と最も多く、次いで「認知症の人や家族への支援の充実」が46.0%、「認知症の人の状態に応じた適切な介護や医療のサービスの質の向上」が43.0%となっています。

図表 232 認知症に優しい地域づくりの実現に向けて必要な取組や支援（複数回答）



前回調査の結果と比較すると、概ね同様の結果となっていますが、「認知症の人の状態に応じた適切な介護や医療のサービスの質の向上」と「わからない」以外の項目の回答割合では前回よりも高くなっています。

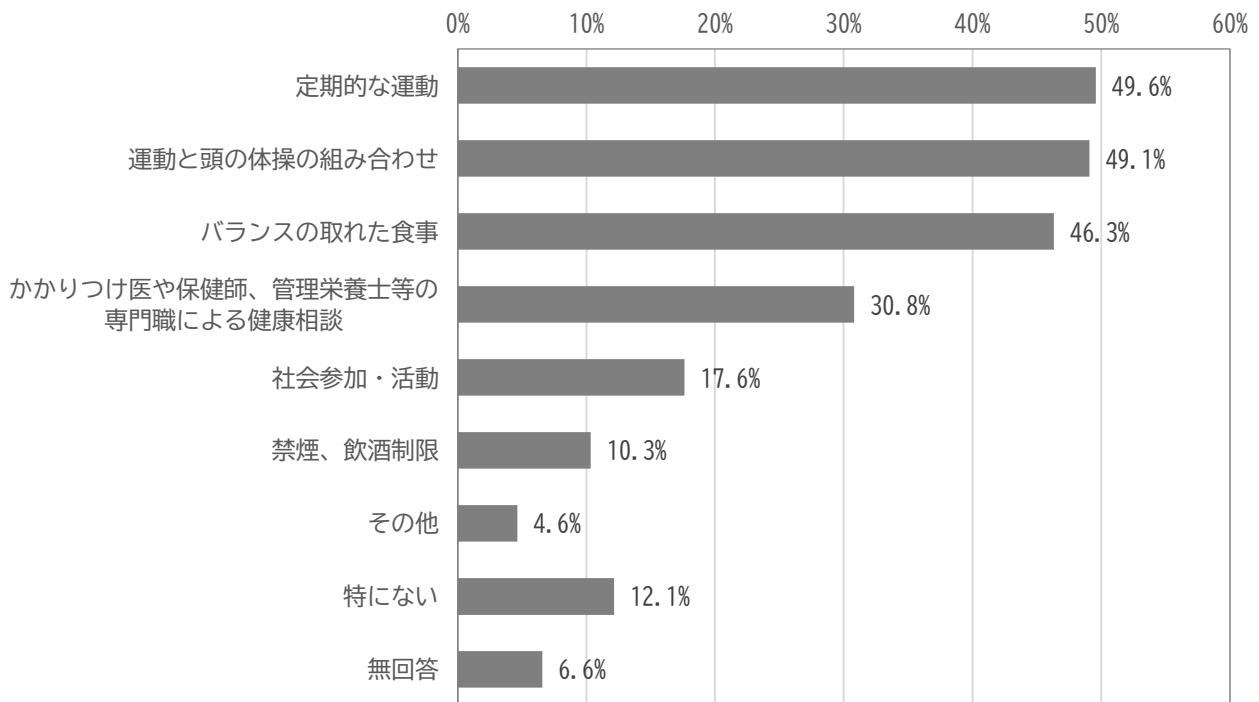
図表 233 認知症に優しい地域づくりの実現に向けて必要な取組や支援（前回調査との比較）



④認知症の予防に向けて取り組んでいきたいこと【問30】

認知症の予防に向けて取り組んでいきたいと思うことについてたずねたところ、「定期的な運動」が49.6%と最も多く、次いで「運動と頭の体操の組み合わせ」が49.1%、「バランスの取れた食事」が46.3%となっています。

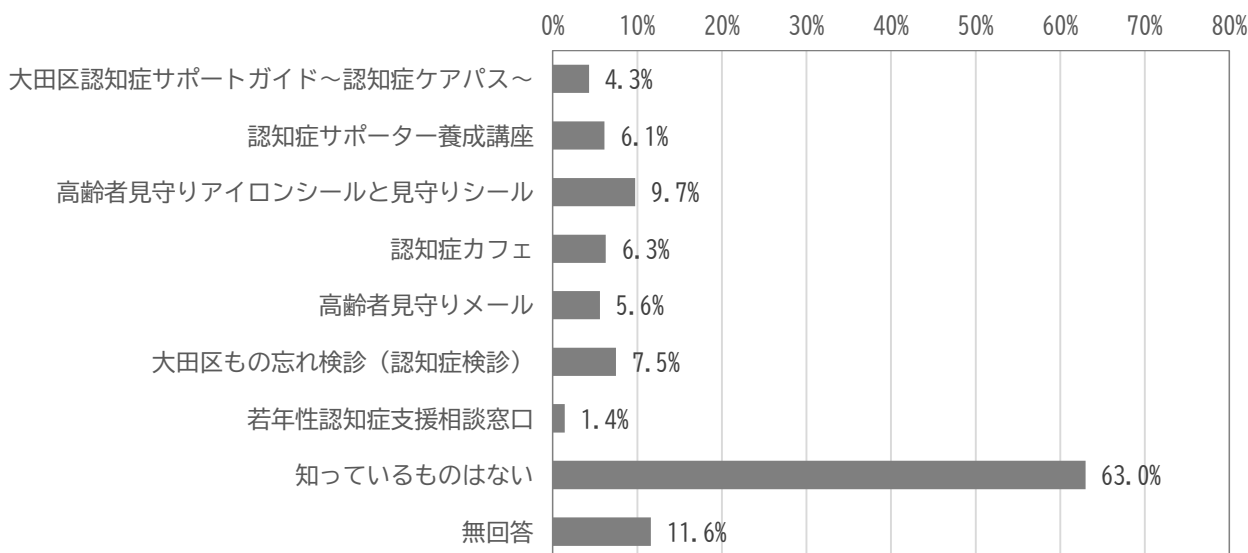
図表 234 認知症予防のために取り組んでいきたいこと（複数回答）



⑤区の認知症施策の認知度【問 31】

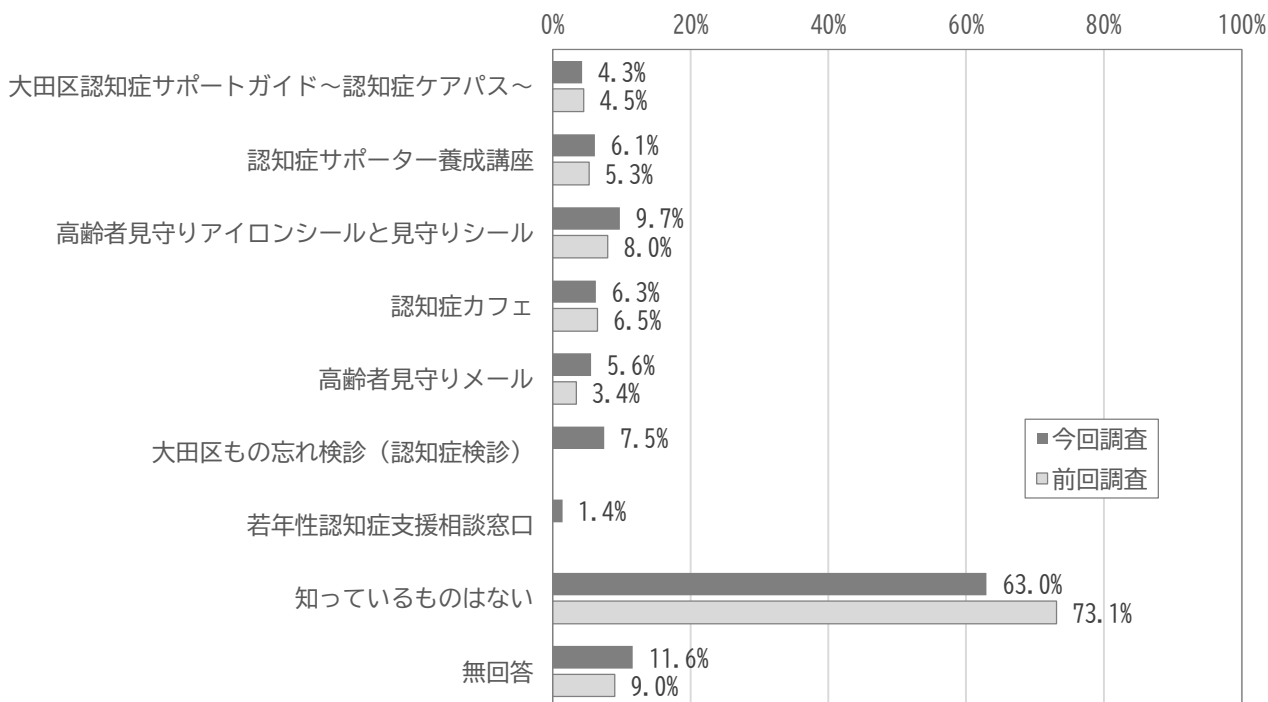
区が実施している認知症施策のうち、知っているものについてたずねたところ、いずれの施策についても「知っている」との回答は1割未満であり、「知っているものはない」との回答が63.0%でした。

図表 235 区の認知症施策の認知度（複数回答）



前回調査の結果と比較すると、「知っているものはない」の割合は10.1ポイント低下しています。

図表 236 区の認知症施策の認知度（前回調査との比較）



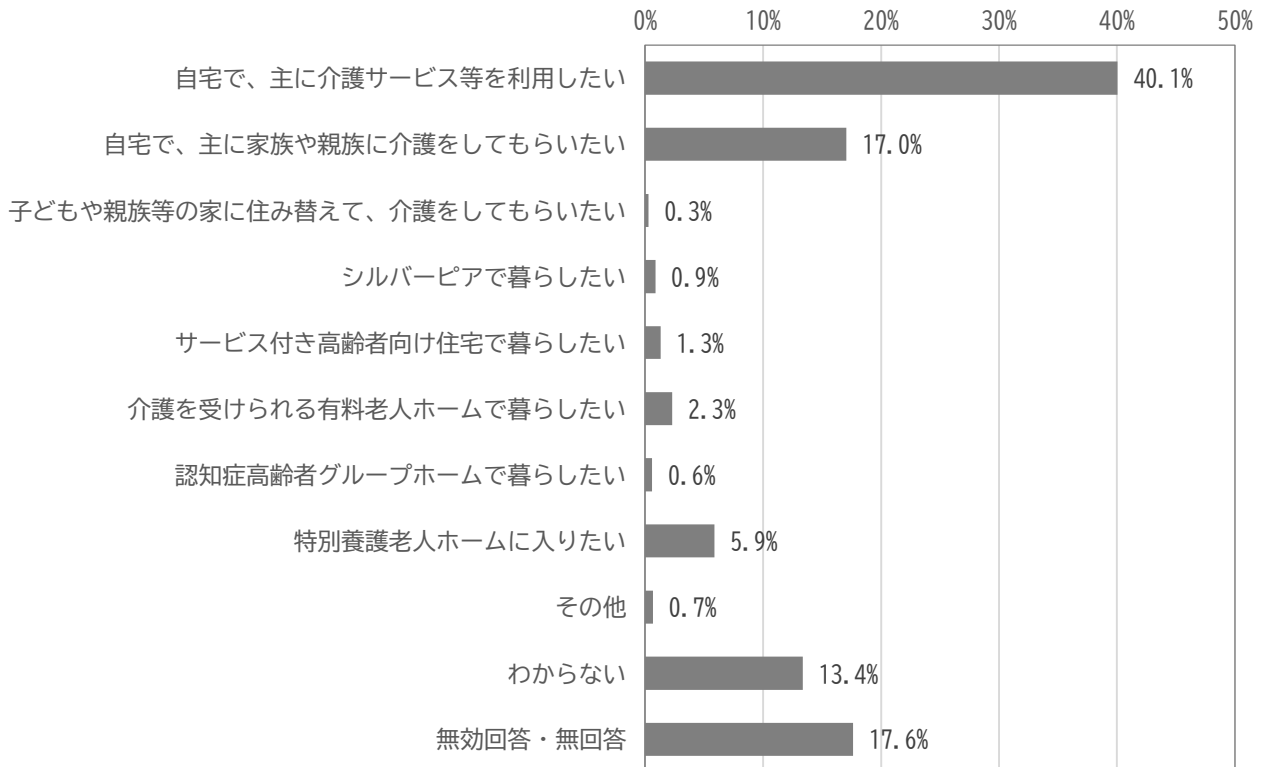
※「大田区もの忘れ検診（認知症検診）」・「若年性認知症支援相談窓口」については、前回調査には選択肢が設けられていないため、今回の調査結果のみ記載しています。

(9) 今後の生活に対する希望や支援ニーズ

①今後の生活に対する希望【問32】

今後、どのような暮らし方を希望するかをたずねたところ、「自宅で、主に介護サービス等を利用したい」が40.1%と最も多く、次いで「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」が17.0%であり、在宅での生活を希望する回答が全体の57.1%となっています。

図表 237 今後の生活に対する希望



第3章 各調査の結果（要介護認定者調査）

年齢別・家族構成別・要介護度別の回答は図表 238 のとおりです。

家族構成別に見ると、「単身世帯」では「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」の割合が低く、「わからない」の割合が高くなっています。

また、「要介護4」や「要介護5」といった比較的重度の認定者でも、自宅での生活を希望するとの回答が5割以上となっています。

図表 238 今後の生活に対する希望（年齢別・家族構成別・要介護度別）

	自宅で、主に介護サービス等を利用したい	自宅で、主に家族や親族に介護をもらいたい	子どもや親族等の家に住み替えて、介護をもらいたい	シルバーピアで暮らしたい	サービス付き高齢者向け住宅で暮らしたい	介護を受けられる有料老人ホームで暮らしたい	認知症高齢者グループホームで暮らしたい	特別養護老人ホームに入りたい	その他	わからない	無効回答・無回答
65～69歳	45.8%	12.7%	0.0%	0.0%	2.8%	2.1%	0.0%	2.5%	1.3%	17.9%	15.0%
70～74歳	57.7%	11.9%	0.0%	0.9%	0.6%	1.2%	0.3%	1.6%	0.0%	9.5%	16.4%
75～79歳	38.7%	15.4%	0.7%	1.0%	2.2%	3.4%	0.7%	4.8%	0.6%	17.3%	15.1%
80～84歳	35.0%	17.5%	0.3%	1.4%	1.1%	2.5%	0.9%	8.1%	0.7%	14.0%	18.6%
85歳以上	39.0%	19.3%	0.2%	0.5%	1.1%	2.0%	0.5%	6.3%	0.8%	11.6%	18.6%
単身世帯	42.6%	6.3%	1.3%	1.6%	2.1%	2.4%	0.5%	9.0%	1.1%	17.6%	15.4%
夫婦のみ世帯	41.4%	13.8%	0.0%	1.0%	1.0%	3.1%	0.8%	6.3%	0.4%	11.5%	20.6%
その他	37.9%	24.9%	0.0%	0.4%	1.0%	1.7%	0.5%	4.2%	0.7%	12.6%	16.3%
要介護1	42.3%	15.1%	0.5%	2.0%	1.2%	2.0%	1.6%	6.8%	1.3%	13.5%	13.7%
要介護2	37.7%	16.3%	0.0%	0.8%	2.4%	2.7%	0.1%	7.1%	0.5%	13.4%	19.0%
要介護3	41.2%	19.1%	0.5%	0.0%	1.0%	3.1%	0.4%	5.4%	0.7%	9.0%	19.6%
要介護4	37.2%	19.0%	0.0%	0.5%	0.6%	2.5%	0.3%	6.2%	0.2%	14.6%	18.8%
要介護5	46.6%	25.5%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	10.4%	11.9%

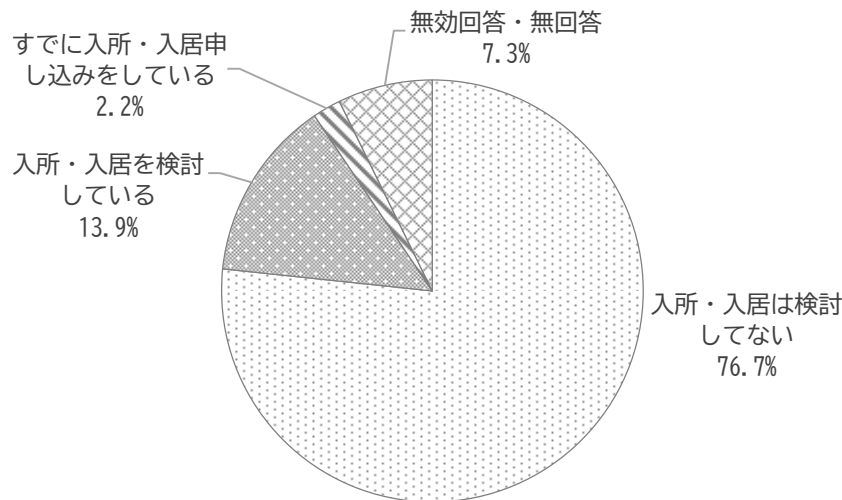
②施設等への入所の検討状況【問33】

施設等への入所・入居を検討しているかをたずねたところ、「入所・入居は検討していない」が76.7%、「入所・入居を検討している」が13.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が2.2%でした。

年齢別の回答を見ると、いずれの年代でも7割以上が「入所・入居は検討していない」と回答していますが、年齢が高いほど入所・入居の検討や申し込みをしているとの回答割合が高くなっています。

また、要介護度別の回答を見ると、いずれの要介護度でも7～8割は「入所・入居は検討していない」と回答しており、要介護度による大きな差は見られません。

図表 239 施設等への入所に関する検討状況



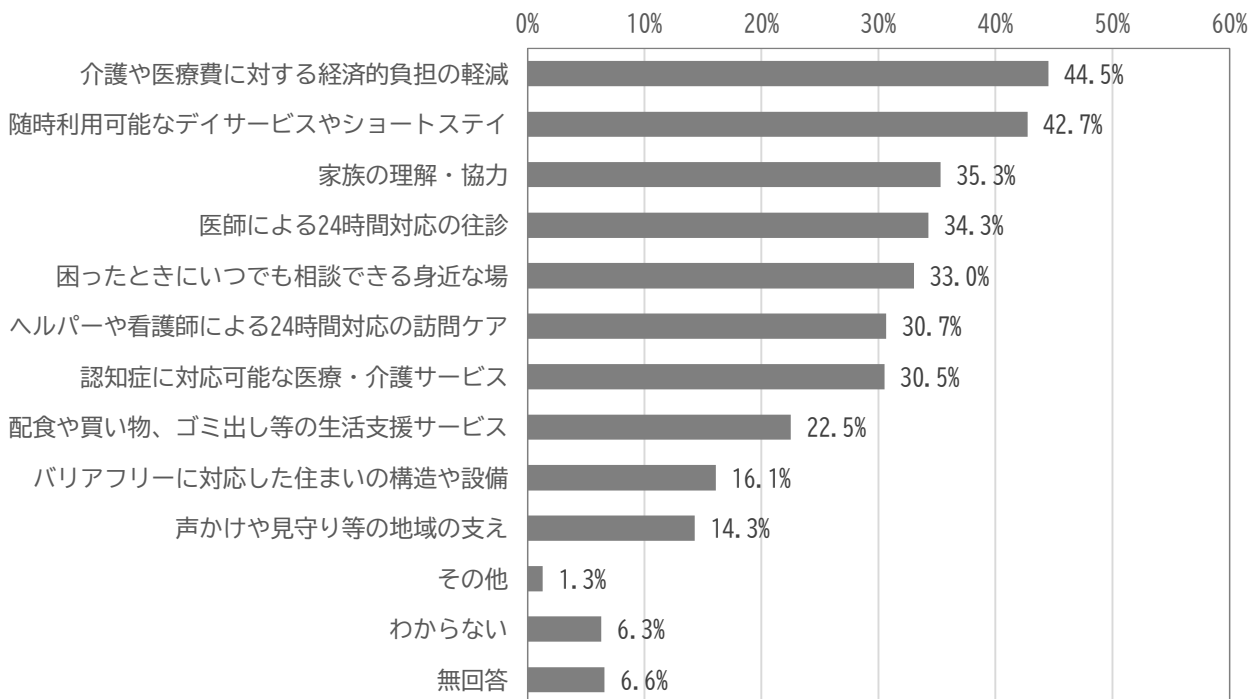
図表 240 施設等への入所に関する検討状況（年齢別・家族構成別・要介護度別）

	検討して ない	検討して いる	すでに入所・ 入居申 し込みを している	無効 回答・ 無回答
65～69歳	91.0%	7.4%	0.0%	1.6%
70～74歳	82.3%	12.9%	0.0%	4.8%
75～79歳	77.4%	11.4%	1.9%	9.3%
80～84歳	74.4%	15.9%	3.4%	6.3%
85歳以上	74.8%	14.6%	2.2%	8.4%
単身世帯	72.9%	17.8%	2.2%	7.1%
夫婦のみ世帯	75.5%	13.5%	2.7%	8.4%
その他	80.0%	12.2%	1.8%	6.0%
要介護1	79.4%	13.0%	0.6%	7.0%
要介護2	78.0%	15.5%	1.0%	5.6%
要介護3	70.1%	17.6%	4.6%	7.6%
要介護4	75.2%	15.7%	4.0%	5.1%
要介護5	77.2%	12.1%	7.1%	3.7%

③在宅生活を継続するために必要な支援やサービス【問 34】

今後、在宅生活を継続するために必要な支援やサービスについてたずねたところ、「介護や医療費に対する経済的負担の軽減」が 44.5%と最も多く、次いで「随時利用可能なデイサービスやショートステイ」が 42.7%、「家族の理解・協力」が 35.3%となっています。

図表 241 在宅での生活を継続するにあたり必要な支援やサービス（複数回答）



年齢別・要介護度別の回答は図表 242 のとおりです。

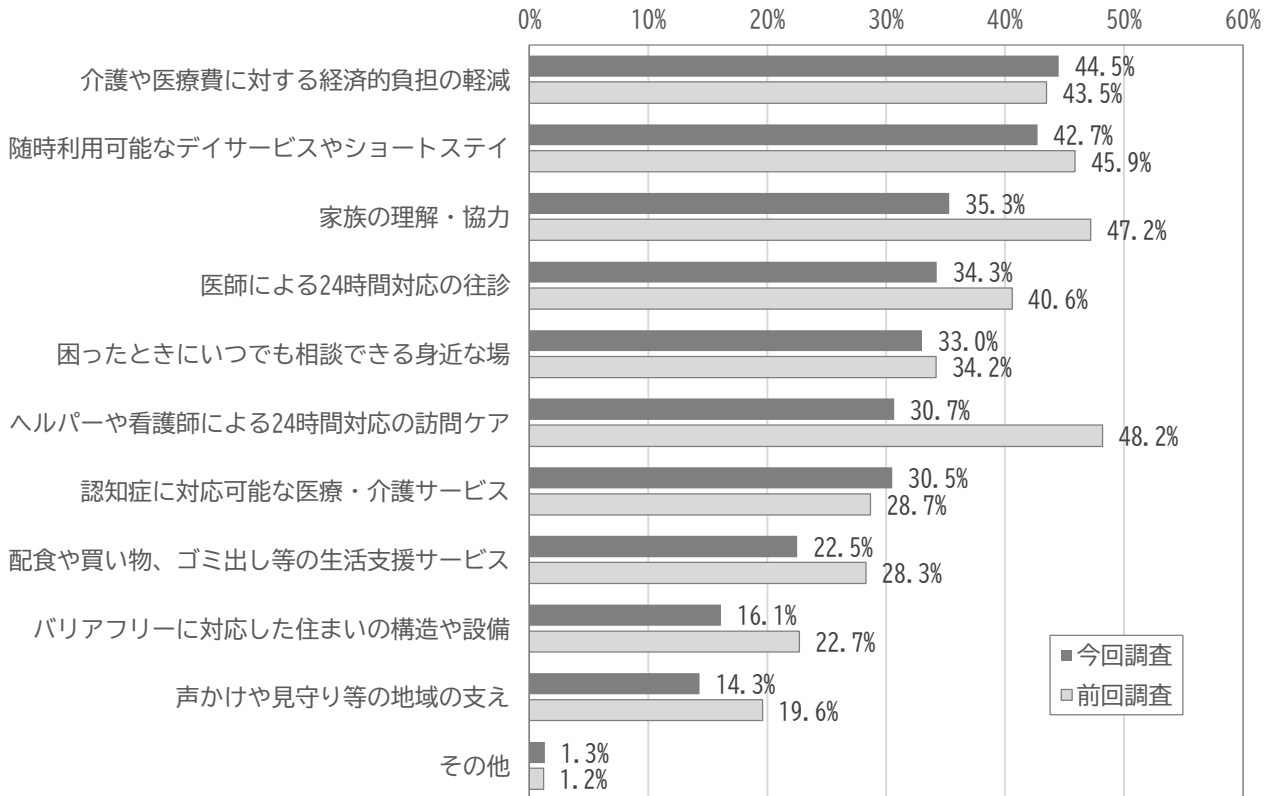
「医師による 24 時間対応の往診」や「ヘルパーや看護師による 24 時間対応の訪問ケア」については、要介護度が高いほど回答割合が高くなっています。

図表 242 在宅での生活を継続するにあたり必要な支援やサービス（年齢別・要介護度別）

	医師による24時間対応の往診	ヘルパーや看護師による24時間対応の訪問ケア	随時利用可能なデイサービスやショートステイ	配食や買い物、ゴミ出し等の生活支援サービス	認知症に対応可能な医療・介護サービス	バリアフリーに対応した住まいの構造や設備	介護や医療費に対する経済的負担の軽減	困ったときにいつでも相談できる身近な場	声かけや見守り等の地域の支え	家族の理解・協力	その他	わからない	無回答
65～69歳	31.1%	41.1%	35.9%	25.6%	22.3%	26.4%	45.7%	30.1%	16.9%	29.2%	1.3%	8.1%	2.1%
70～74歳	29.5%	32.0%	39.7%	24.6%	24.2%	17.8%	39.0%	36.9%	10.3%	31.6%	0.0%	5.1%	7.5%
75～79歳	31.8%	29.7%	44.7%	19.9%	33.9%	22.2%	47.6%	38.0%	12.8%	32.2%	0.9%	8.0%	5.6%
80～84歳	30.0%	26.4%	37.4%	20.7%	29.3%	14.4%	44.4%	30.8%	17.1%	31.2%	2.1%	7.4%	7.5%
85歳以上	40.3%	32.7%	47.4%	24.1%	32.6%	13.0%	44.5%	31.8%	13.6%	41.5%	1.2%	4.9%	6.7%
要介護1	31.1%	22.4%	40.9%	23.3%	32.9%	14.6%	39.5%	33.8%	15.7%	31.8%	1.0%	7.5%	8.2%
要介護2	31.9%	32.7%	42.7%	27.3%	30.0%	15.5%	44.2%	36.5%	16.8%	35.3%	2.2%	5.8%	5.3%
要介護3	35.0%	33.0%	52.2%	18.2%	33.7%	16.6%	49.3%	26.6%	11.6%	39.7%	1.9%	4.8%	4.9%
要介護4	41.5%	38.0%	42.3%	19.5%	25.2%	18.4%	51.8%	33.1%	13.1%	43.1%	0.9%	3.6%	4.5%
要介護5	54.4%	53.3%	47.8%	18.7%	36.0%	23.4%	52.7%	30.5%	10.2%	33.8%	0.7%	5.3%	5.1%

前回調査の結果と比較すると、前回調査よりも回答割合が低くなっている項目が多く、特に「ヘルパーや看護師による24時間対応の訪問ケア」では17.5ポイント、「家族の理解・協力」では11.9ポイント低下しています。

図表 243 在宅での生活を継続するにあたり必要な支援やサービス（複数回答）



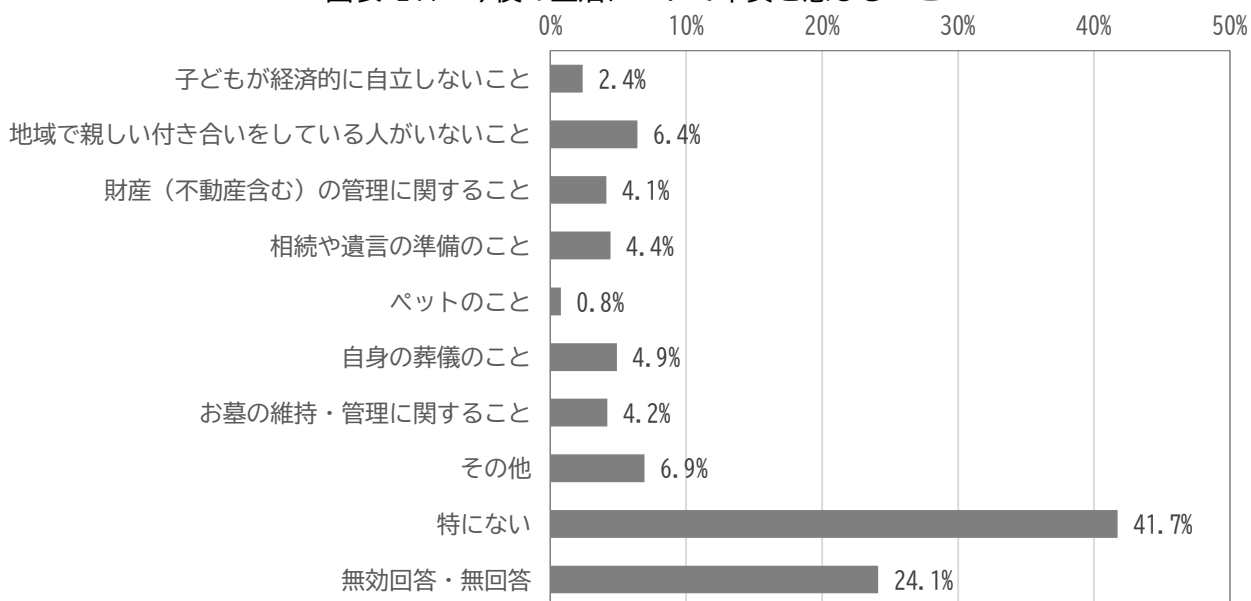
④今後の生活に向けて不安なこと【問 35】

今後の生活に対して、どのようなことに不安を感じるかたずねたところ、「特にない」が41.7%でした。「特にない」と「無効回答・無回答」を除き、3割程度の方が今後の生活に対して何らかの不安を感じていると回答しています。

不安として挙げられたことについては、「その他」を除き、「地域で親しい付き合いをしている人がいないこと」が6.4%と最も多く、次いで「自身の葬儀のこと」が4.9%となっています。

なお、「その他」の内容については、「自身や家族の健康のこと」、「経済的な不安に関すること」、「将来の生活に対する不安」、「住まいに関すること」などが挙げられています。

図表 244 今後の生活について不安を感じること



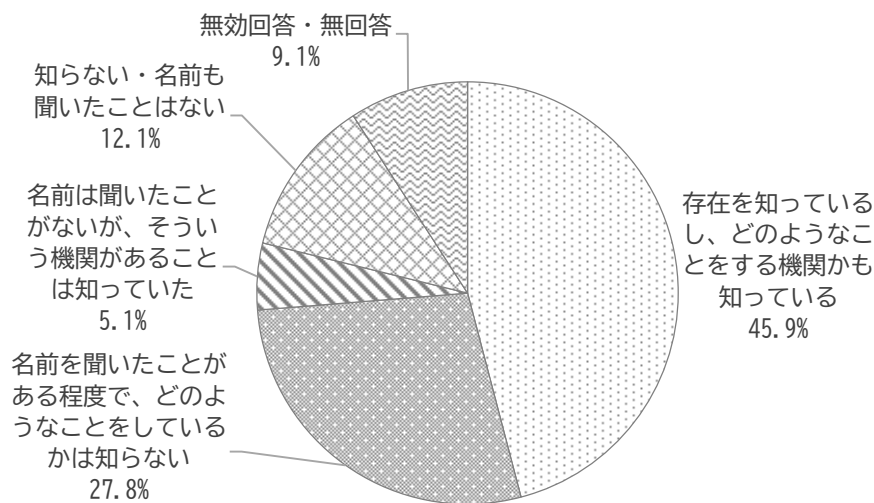
(10) 区の取組に対する認知度や意見

①地域包括支援センターの認知度【問 36】

地域包括支援センターについて知っているかどうかたずねたところ、「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」が45.9%、「名前を聞いたことがある程度でどのようなことをしているかは知らない」が27.8%でした。一方、「知らない・名前も聞いたことはない」が12.1%となっています。

日常生活圏域別の回答を見ると、「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」の割合が最も高いのは「大森西」で58.3%、次いで「田園調布」で52.7%となっています。一方、「池上」では33.7%であり、地域によって差が見られます。

図表 245 地域包括支援センターの認知度



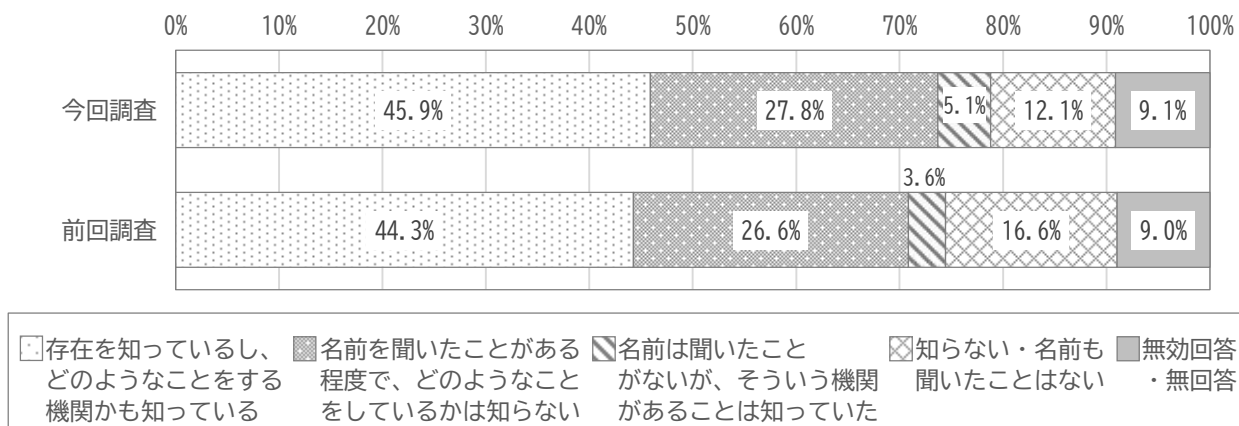
図表 246 地域包括支援センターの認知度（日常生活圏域別）

	存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている	名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない	名前は聞いたことがないが、そういう機関があることは知っていた	知らない・名前も聞いたことはない	無効回答・無回答
大森東	44.3%	31.8%	6.8%	8.0%	9.1%
大森西	58.3%	19.4%	4.9%	11.7%	5.8%
入新井	47.1%	32.7%	3.8%	11.5%	4.8%
馬込	46.2%	33.0%	4.7%	9.4%	6.6%
池上	33.7%	34.8%	5.4%	13.0%	13.0%
新井宿	44.6%	25.7%	5.0%	12.9%	11.9%
嶺町	47.8%	32.2%	2.2%	8.9%	8.9%
田園調布	52.7%	28.6%	2.2%	12.1%	4.4%
鶉の木	42.7%	32.0%	3.9%	15.5%	5.8%
久が原	50.0%	25.0%	4.0%	11.0%	10.0%
雪谷	44.0%	32.0%	5.0%	8.0%	11.0%
千束	44.2%	27.4%	2.1%	10.5%	15.8%
糎谷	40.4%	31.9%	2.1%	12.8%	12.8%
羽田	42.9%	21.4%	7.1%	16.3%	12.2%
六郷	44.1%	30.1%	6.5%	12.9%	6.5%
矢口	48.7%	22.4%	6.6%	13.2%	9.2%
蒲田西	46.2%	26.4%	6.6%	13.2%	7.5%
蒲田東	45.7%	22.9%	4.8%	13.3%	13.3%

第3章 各調査の結果（要介護認定者調査）

前回調査の結果と比較すると、概ね同様の結果となっていますが、「知らない・名前も聞いたことはない」の割合は前回より4.5ポイント低下しています。

図表 247 地域包括支援センターの認知度（前回調査との比較）

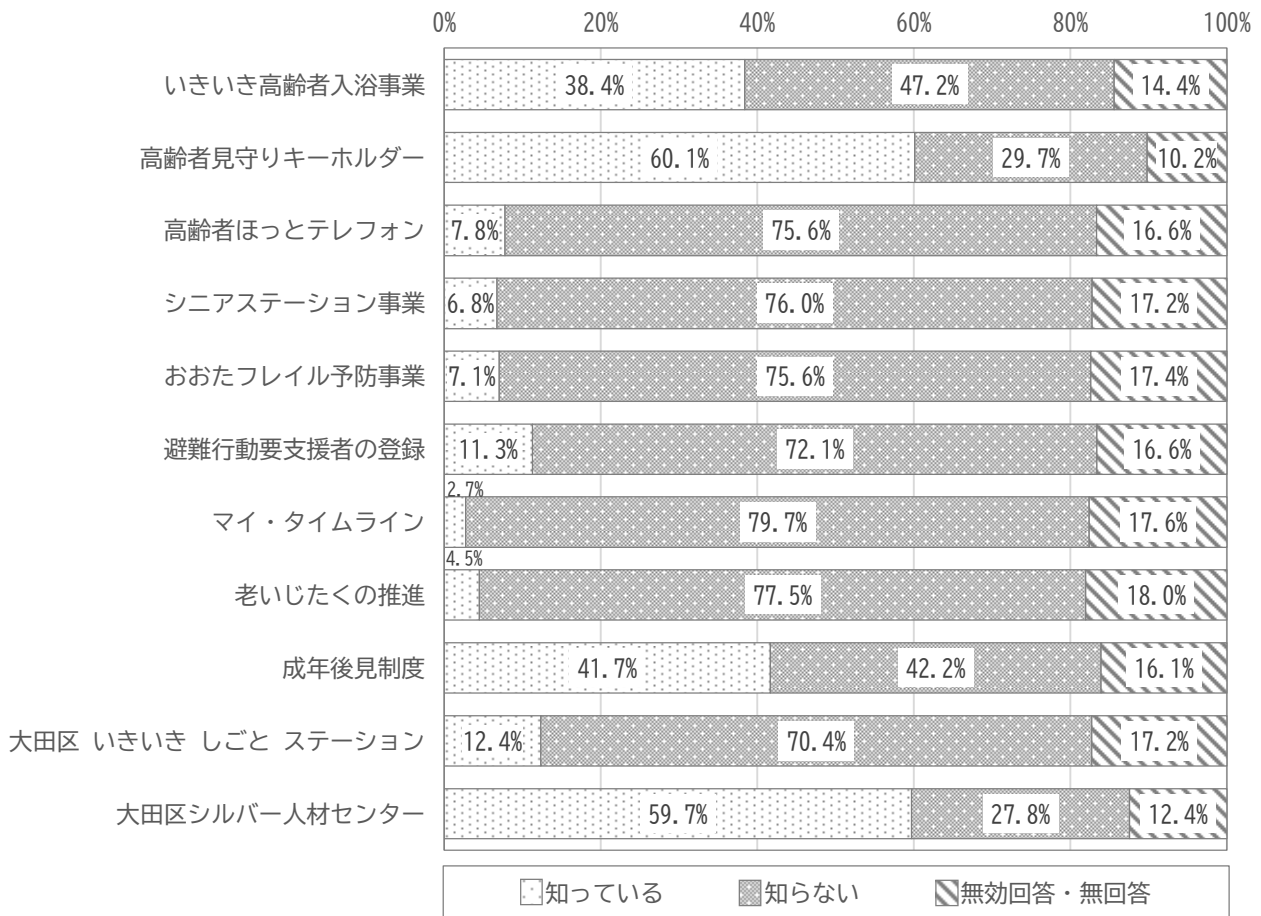


②区の高齢者向け事業・サービスの認知度や利用意向【問37】

区が実施する高齢者向けの事業・サービスについて、知っているサービスについてたずねたところ、「高齢者見守りキーホルダー」は「知っている」との回答が60.1%、「大田区シルバー人材センター」は59.7%であり、これらについては他の事業・サービスと比べ「知っている」との回答が多くなっています。

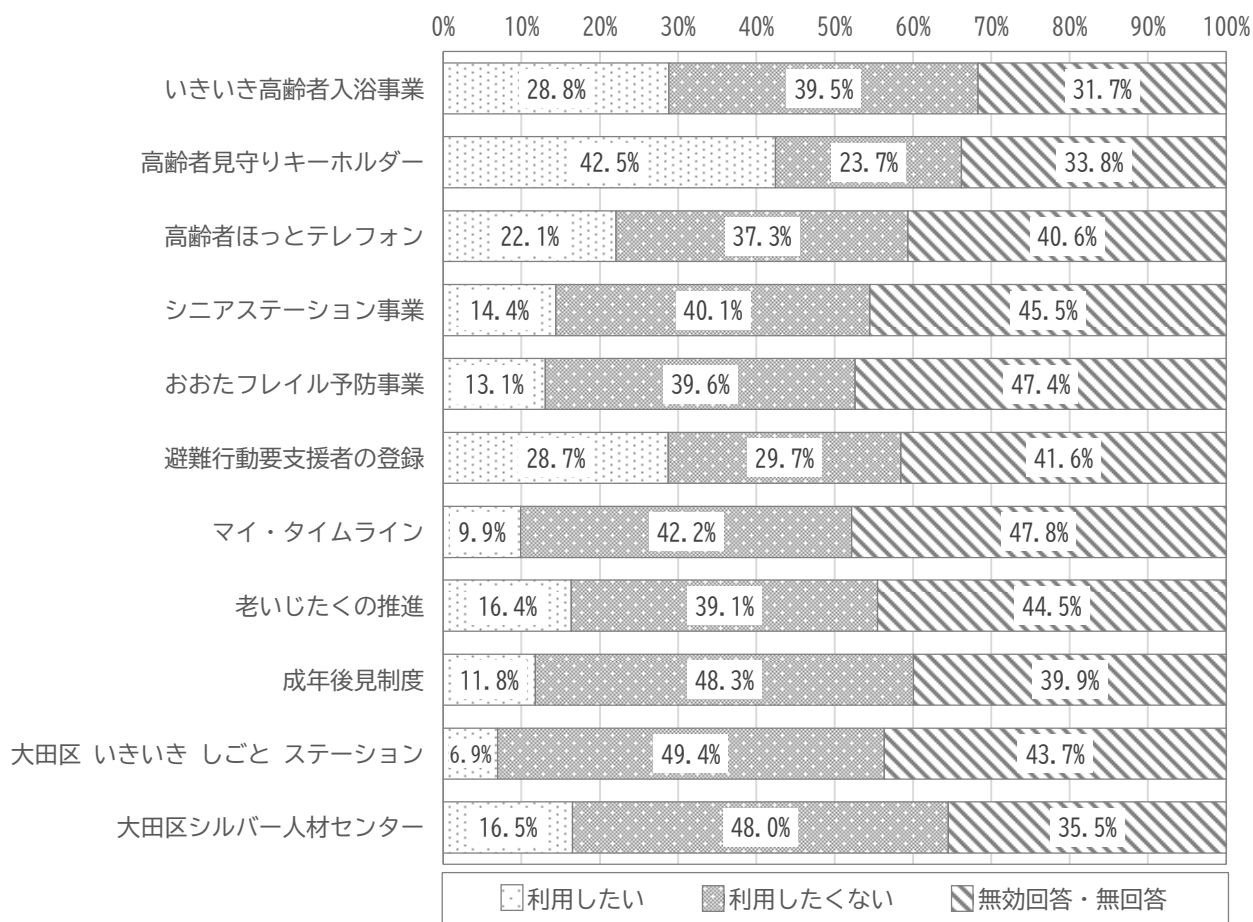
一方、上記2つの事業・サービス以外については、「知らない」が「知っている」の回答を上回っています。「いきいき高齢者入浴事業」は「知らない」との回答が47.2%、「成年後見制度」は42.2%であり、その他の事業・サービスは7～8割程度の方が「知らない」と回答しています。

図表 248 区の高齢者支援事業の認知度



また、区が実施する高齢者向けの事業・サービスについて、今後の利用意向をたずねたところ、「利用したい」との回答は、「高齢者見守りキーホルダー」が42.5%と最も多く、次いで「いきいき高齢者入浴事業」が28.8%、「避難行動要支援者の登録」が28.7%となっています。「高齢者見守りキーホルダー」以外の事業・サービスについては、「利用したくない」が「利用したい」の回答を上回っており、高齢者の支援事業の普及啓発、利用促進については、何らかの対策が必要と考えられます。

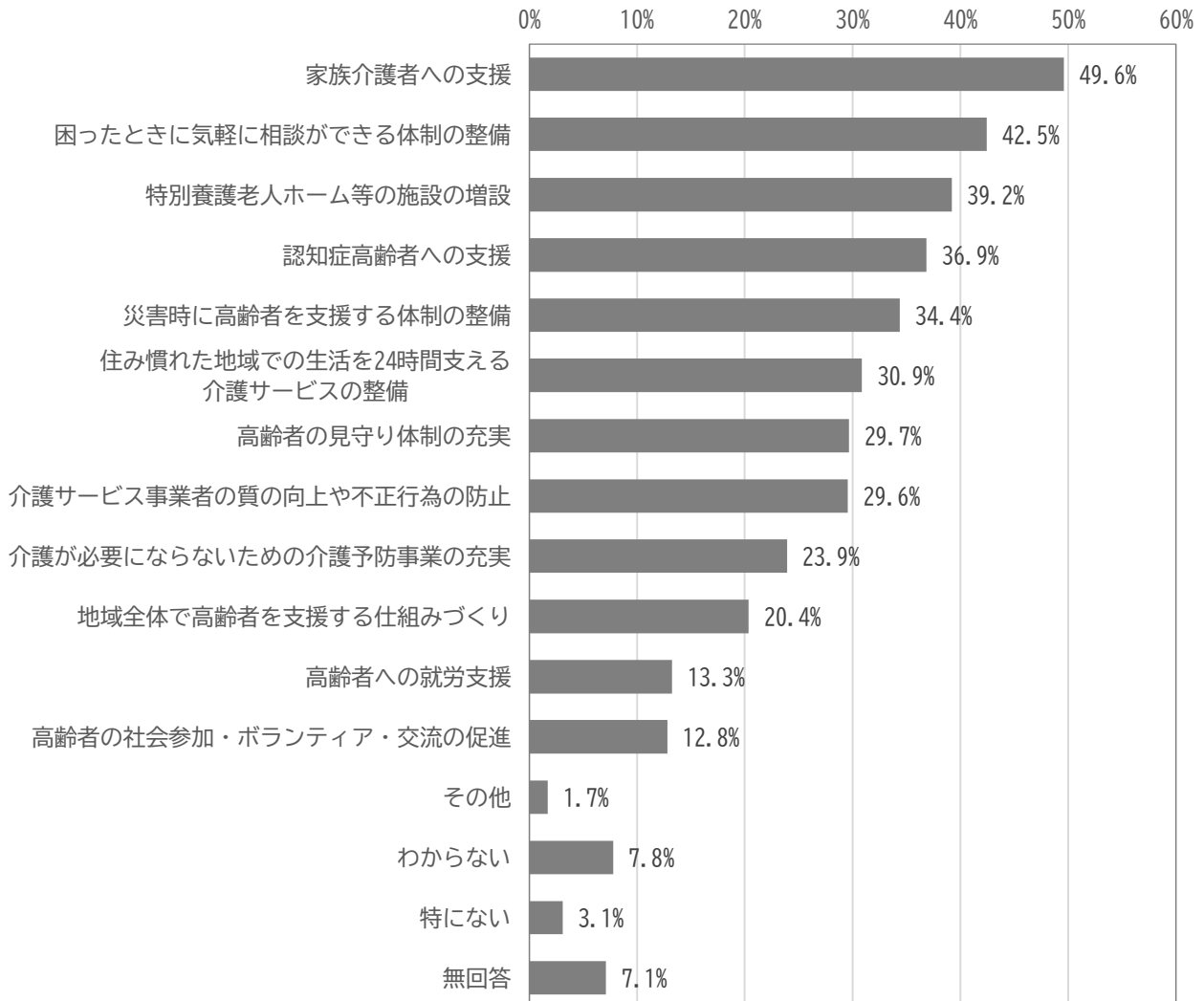
図表 249 今後利用したいと思う区の高齢者向け事業・サービス



③今後、大田区が特に力を入れて取り組むべき事業やサービス【問38】

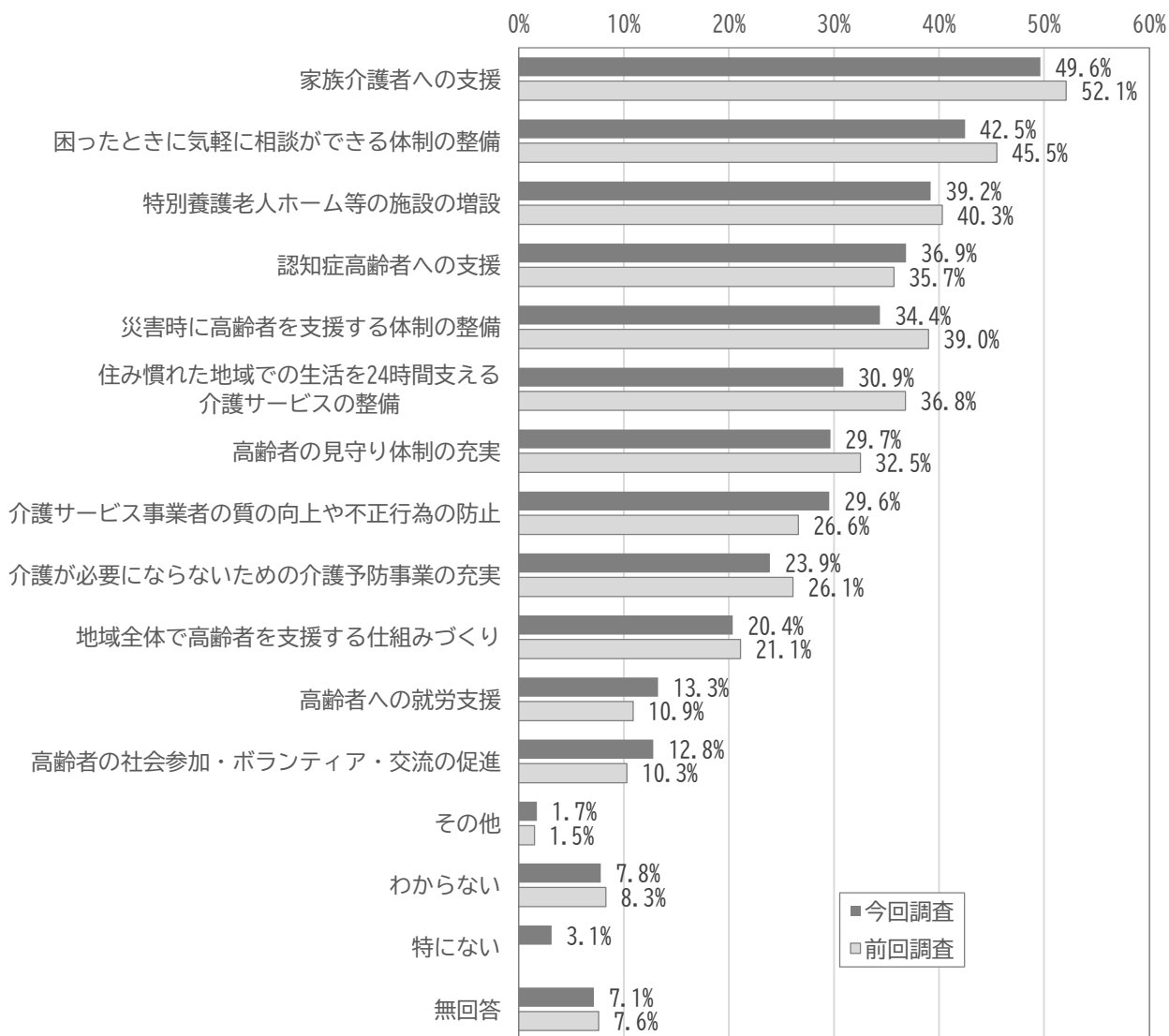
今後、大田区が特に力を入れて取り組むべきと考えられる事業やサービスについてたずねたところ、「家族介護者への支援」が49.6%と最も多く、次いで「困ったときに気軽に相談ができる体制の整備」が42.5%、「特別養護老人ホーム等の施設の増設」が39.2%となっています。

図表 250 今後、区が特に力を入れて取り組むべき事業やサービス（複数回答）



前回調査の結果と比較すると、回答傾向は概ね同様ですが、回答割合は前回よりも低下している項目が多くなっています。

図表 251 今後、区が特に力を入れて取り組むべき事業・サービス（前回調査との比較）



※「特にない」については、前回調査には選択肢が設けられていないため、今回の調査結果のみ記載しています。

④区の高齢者福祉施策や介護保険事業運営に対する意見・要望【問39】

区の高齢者福祉施策や介護保険事業運営に対する意見や要望について、自由記述形式でたずねたところ、様々な回答が得られました。以下、いただいた回答の一部を掲載します。

■要介護者・介護者が抱える負担

【利用者の経済的負担（14件）】

- ・デイサービスを利用していますが、支払い金額を軽減して下さると助かります。そうすればもっとたくさん（毎日とか）利用できて、楽しく過ごせると思います。
- ・介護家具や介護製品の割引制度。拡張範囲の見直し、改革に務めてもらいたい。
- ・収入が年金だけなので、介護サービスや看護サービスの費用、特別養護老人ホームの入所・利用費用が安くなると助かります。

【介護者の負担・求められる支援（16件）】

- ・現在、父要介護4、母要介護3を自宅で見っていますが家族の負担が大きいです。（家族の）同居、別居にかかわらず、多くの支援を受けられるようになると有難いです。
- ・家で認知症の家族をみるのは大変な負担となる。仕事も制限されるし収入も減るし精神的に参ってしまう。家で介護をしている人に対しての支援金や補助金を出して欲しい。
- ・介護度が上がった事で家族だけで旅行に行くことなど困難になってしまったので、旅行の支援やレクリエーション、日帰り旅行などストレス発散ができるような催しがあるとよいと思います。
- ・認知症カフェが運営されているが、家族介護者の利用が少なく、介護予防の方やケアマネ、福祉職員の方の参加で家族との意見交換ができない。介護家族がお互いの相談や愚痴をぎくばらんに話せる場所があれば良いのですが。「ひとりで介護をしているのでは無い仲間がいる」と心のゆとりが持てるのでは。

■生活上抱えている問題

【移動に関する支援（21件）】

- ・病院へ行く時もタクシーを使用するしかなく、その費用が大変で、交通費の支給があれば本当にありがたいです。
- ・石柱があるとちょっと一休みできるのに、座る所がバス停にも道路にもなく多くの老人が辛いと言っています。少しでも休む所がほしいと思っています。

【障害への対応（6件）】

- ・車椅子生活をしている方々も地域社会へ参加できるよう支援願いたい。
- ・パーキンソン病であり、読むのも書くのも難しい。介護保険事業について関心はあるが、実際には理解することが難しい。

【デジタル化・ICT機器への対応（5件）】

- ・マイナンバーカード等、今の時代パソコン・ネットでしか用が足せず、ニュースで知らせてもらっても歩行困難の私には、大田区役所まで行けない。
- ・携帯等一切できないのでそれに対応した施策をお願いしたい。

■介護保険サービス・支援について

【施設・設備の充実（40件）】

- ・要介護者の状況が変わった時に、すぐに施設等へ入所・入居できるようにしてほしい。何年待ちとか、その間本人も介護する側も普通に暮らせなくなるのかと思うと不安。
- ・家族介護者が急に病気や怪我をした場合や、どうしても遠距離に出かけなければならない時など、すぐに預かってもらえる施設・サービスがあれば助かります。
- ・介護をしている家族としては認知症が進行して介護が難しくなった場合、できるだけ早急に特別養護老人ホームに入居できるように増設を希望します。その際の経済的負担が少ない事を要望します。現在受給している年金額で利用できるようにしていただきたい。
- ・特別養護老人ホームの要介護レベルを引き下げた施設があればありがたいです。何とか1人で生活できるも不安な部分も多く、民間の有料老人ホームは高額で現実的ではないため。

【居宅系サービスの充実（14件）】

- ・家族介護をしています。デイサービスを利用することで仕事（収入を確保）する事ができていますが、デイサービスがない休日は家族で出かけることができません。ショートステイの選択の幅を増やしてほしいです。
- ・要介護5で外出できない住環境にあり、訪問介護の支援を毎日受けて生活しています。大田区の家族介護者支援ホームヘルプ事業も活用して介護保険で足りない生活支援を受けて来ました。年間24時間以内の当事業の拡充が望まれます。
- ・デイサービス、ショートステイが突然に必要なことが多いのでその時に対応できるようにしてほしい。急に家族の病気でステイが必要な時にできなくてひとりにならざる得ない事があって生活に不安を感じた。

【介護保険サービス・支援に関する要望（19件）】

- ・決まり事の枠に制限されて必要なサービスが受けられないことがある。サービスの制限の緩和、自由度を広げるなど柔軟な運営ができるよう改善を望みます。
- ・高齢者おむつサービスは助かります。ただ認知症4、要介護4になった時に自動的に申請書が届いてくれると嬉しかった。2年間知らなかった。
- ・自由に参加できる体操などのイベントを行う会場を増やして欲しい。ちょっと遠くて歩いて行けない。いつまでも健康で元気でいられるように介護予防にもっと力を入れてほしい。

■大田区行政への期待・要望

【大田区の施策・運営（14件）】

- ・大田区の事業（問37）はいろいろあるが、十分に周知されていない。老夫婦の世帯が多いと思うので、介護者の健康にも気を配り共倒れにならないようにするための見守りとその時の連絡・助けはどうしたらよいか。知らないサービスについては、利用したいかどうかは判断できない。
- ・すべての手続きの簡素化、わかりやすく高齢者自身でも理解できる仕組みが必要だと思う。成人の我々でもわかりにくい。

【相談窓口の周知・充実（6件）】

- ・現在、認知症の介護をしています。自ら積極的に探しているわけでもないのですが、こんな時まずどこへ問い合わせたらいいかと思う事が多々あります。受けられるサービス等もたくさん知りたいです。
- ・両親が同時に要介護になり、地域包括支援センターの方々には大変お世話になりました。私自身がそうでしたが、相談に行くきっかけが掴みづらく、長らく一人で悩んでいました。「まだ大丈夫」と思い込んでいる家庭は多いと思います。

【情報提供・周知の工夫（13件）】

- ・一人暮らしの高齢者、体の不自由な高齢者にわかりやすい説明、手間のかからない手続きを求め、せっかくあるサービスを知らないことの方が多い。

【介護人材の育成・処遇改善（7件）】

- ・介護施設や介護士さんの収入を増せるようにして応援してもらいたい。たいへんな仕事なのに収入が低いと思います。収入が良くないと、離職する人が増えるし、新しい人が就職しなくなり介護事業が出来なくなります。
- ・施設によって、職員の意識やサービスが大きく異なる。介護従事者のレベルアップのための施策が必要だと思う。

■本アンケートについて（14件）

- ・このアンケートについて、既に認知症を発症しており、家族の者が代って回答していますが、質問が本人の答えなので○印をつけるのが面倒でした。代筆の立場でのQ&Aがあるとよいと感じました。
- ・質問票は良いが、項目が多く、このような長いアンケートを高齢者が答えるのは難しい。

■大田区へのご意見その他（18件）

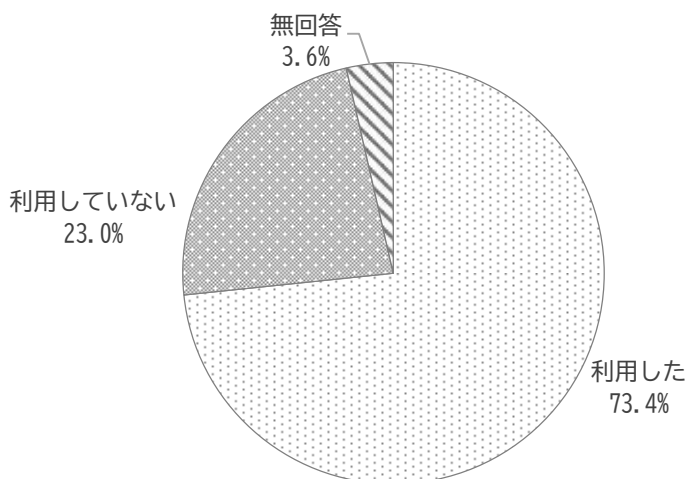
- ・大田区の高齢者への介護事業は充実していると思います。今後ともがんばってください。
- ・要介護2なのでベッド等リースに対して援助していただいで感謝しております。今後も続けて頂きたいと思います。

(11) 介護保険サービスの利用状況

①介護保険サービスの利用有無【問 40】

令和4年10月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用したかをたずねたところ、「利用した」が73.4%、「利用していない」が23.0%でした。

図表 252 介護保険サービスの利用の有無（令和4年10月）



②介護保険サービスの利用状況【問 41】

問 40 において、介護保険サービスについて「利用した」と回答した人に対し、図表 253 に記載の介護保険サービスの利用回数をたずねたところ、「通所介護（デイサービス）」を利用したとの回答が最も多く、「1回」が8.3%、「2回」が14.8%、「3回」が12.7%、「4回」が7.2%、「5回以上」が6.1%であり、1回でも利用したことがある方が49.1%となっています。次いで「訪問リハビリテーションを1回でも利用したことがある方が、30.4%でした。

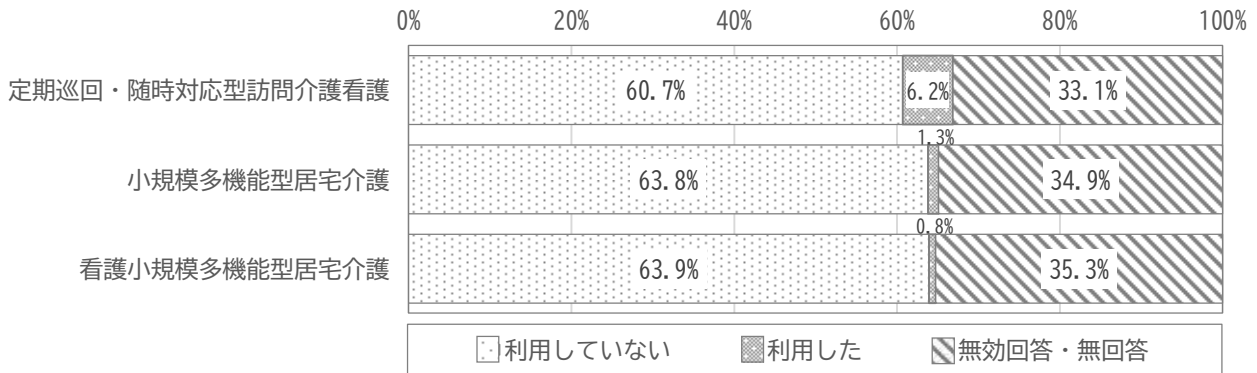
図表 253 介護保険サービスの利用状況①

	訪問介護 (ホームヘルプサービス)	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ テーション	通所介護 (デ イサービス)	通所リハビリ テーション (デイケア)	夜間対応型 訪問介護
0回 (利用していない)	29.1%	37.5%	29.8%	29.5%	20.5%	37.0%	43.4%
1回	8.3%	6.4%	13.4%	13.8%	8.3%	6.0%	0.6%
2回	6.7%	5.8%	6.1%	11.8%	14.8%	6.9%	0.3%
3回	2.8%	1.7%	2.4%	1.6%	12.7%	2.7%	0.0%
4回	2.4%	0.2%	1.3%	1.6%	7.2%	0.8%	0.0%
5回以上	6.4%	0.3%	1.1%	1.6%	6.1%	0.9%	0.4%
無効回答 ・無回答	44.3%	48.1%	45.9%	40.1%	30.5%	45.7%	55.3%

※夜間対応型訪問介護については、訪問のあった回数を回答

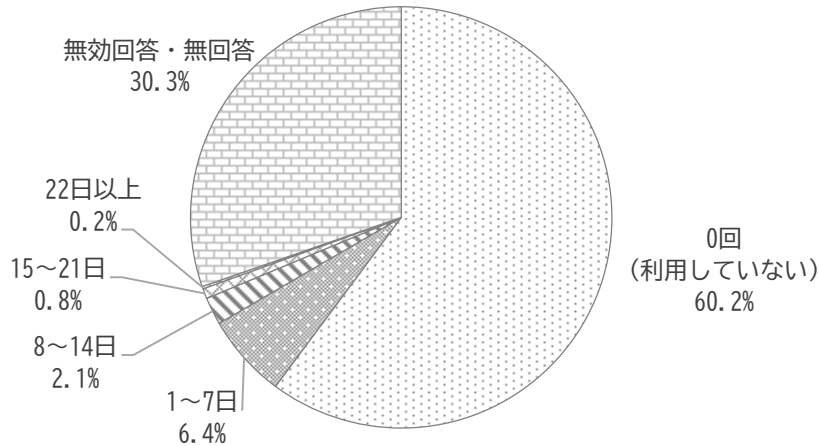
また、問 40 において、介護保険サービスについて「利用した」と回答した人に対し、図表 254 に記載の介護保険サービスの利用の有無をたずねたところ、いずれのサービスについても、「利用していない」との回答が6割程度でした。

図表 254 介護保険サービスの利用状況②

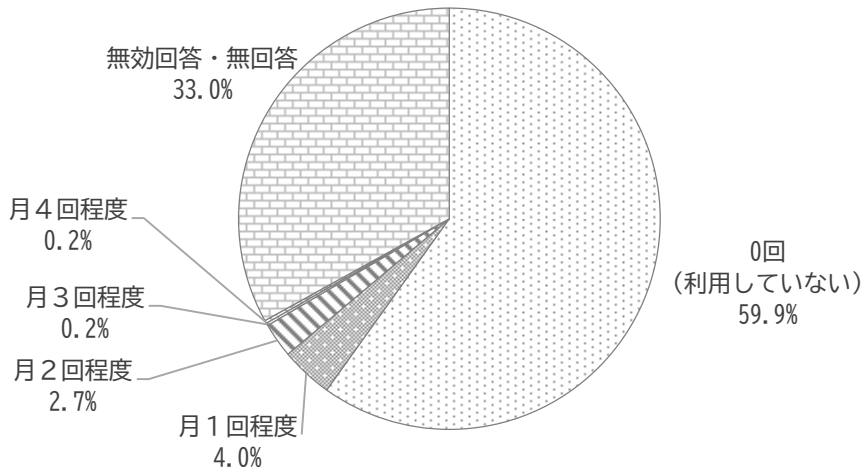


続いて、問 40 において、介護保険サービスについて「利用した」と回答した人に対し、ショートステイの1か月あたりの利用日数、居宅療養管理指導の1か月あたりの利用回数をたずねたところ、いずれのサービスも「0回（利用していない）」との回答が6割程度でした。

図表 255 介護保険サービスの利用状況③（ショートステイ）



図表 256 介護保険サービスの利用状況④（居宅療養管理指導）

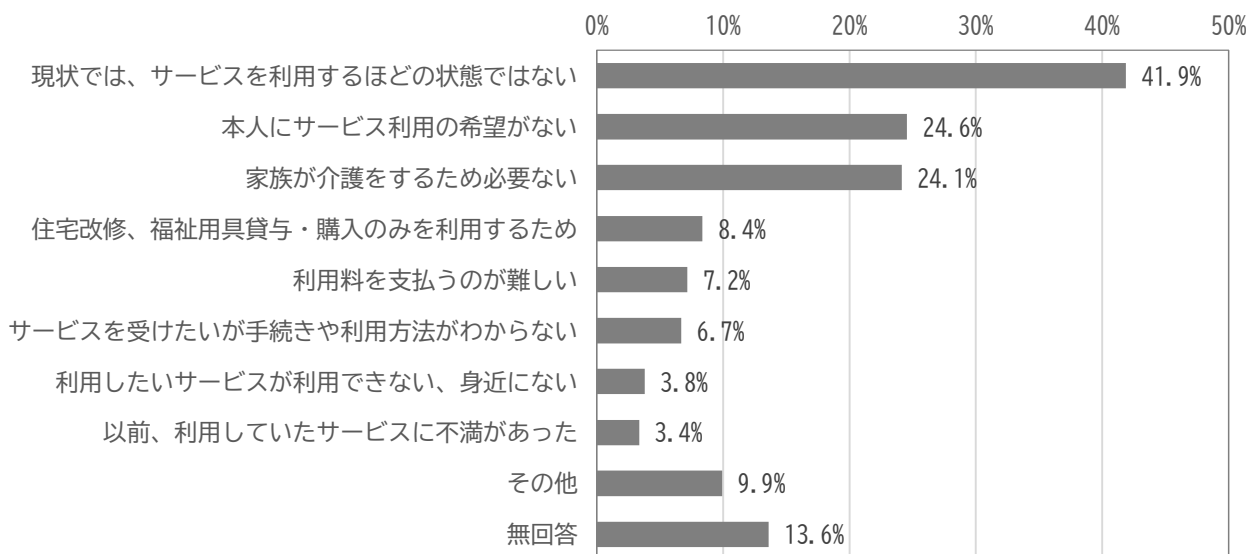


③介護保険サービスを利用していない理由【問 42】

問 40 において、介護保険サービスについて「利用していない」と回答した方に対し、介護保険サービスを利用していない理由をたずねたところ、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が41.9%と最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が24.6%、「家族が介護をするため必要ない」が24.1%となっています。

なお、年齢別・要介護度別の回答を見ると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合は年齢が高いほど低く、また要介護度が高いほど低くなっており、「要介護5」では「本人にサービス利用の希望がない」や「利用料を支払うのが難しい」等の理由のほうが回答割合が高くなっています。

図表 257 介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）



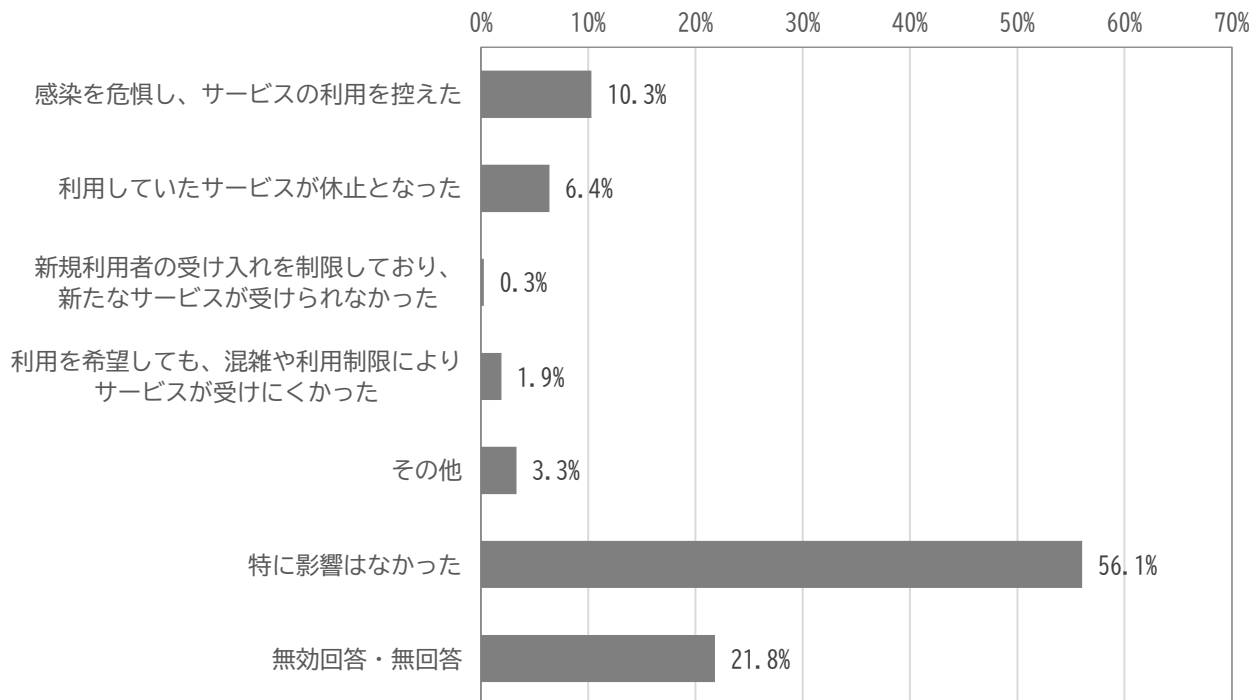
図表 258 介護保険サービスを利用していない理由（年齢別・要介護度別）

	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用できないサービスに身近にない	住宅改修、福祉用具貸与のみを利用するため	手続きや利用方法がわからない	サービスを受けたいが	その他	無回答
65～69歳	56.2%	15.3%	18.8%	0.0%	5.1%	0.0%	10.5%	2.2%	3.0%	20.2%	
70～74歳	53.6%	26.7%	21.2%	0.0%	8.2%	0.9%	7.0%	8.3%	7.6%	11.1%	
75～79歳	49.2%	18.0%	27.9%	3.7%	7.4%	1.5%	16.2%	7.1%	9.6%	12.8%	
80～84歳	37.1%	29.6%	23.6%	5.1%	8.2%	6.2%	7.5%	3.4%	10.0%	11.7%	
85歳以上	37.1%	23.6%	24.5%	3.2%	6.1%	4.1%	5.7%	9.5%	11.7%	15.6%	
要介護1	45.5%	22.5%	23.1%	2.9%	7.9%	5.4%	5.7%	5.0%	7.3%	10.1%	
要介護2	40.9%	26.4%	21.9%	0.6%	6.3%	4.9%	11.7%	5.0%	14.1%	14.7%	
要介護3	36.7%	32.0%	36.6%	7.0%	7.3%	0.0%	13.5%	4.1%	8.1%	14.0%	
要介護4	31.3%	25.7%	23.3%	8.7%	9.0%	3.2%	4.6%	1.8%	8.0%	17.4%	
要介護5	16.0%	25.5%	13.8%	9.9%	19.3%	18.5%	0.0%	8.6%	33.3%	11.4%	

④介護保険サービスの利用状況に対する新型コロナウイルス感染症拡大の影響【問43】

介護保険サービスについて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用状況の変化をたずねたところ、「特に影響はなかった」が56.1%でした。影響があった方は2割程度であり、「感染を危惧し、サービスの利用を控えた」が10.3%、「利用していたサービスが休止となった」が6.4%となっています。

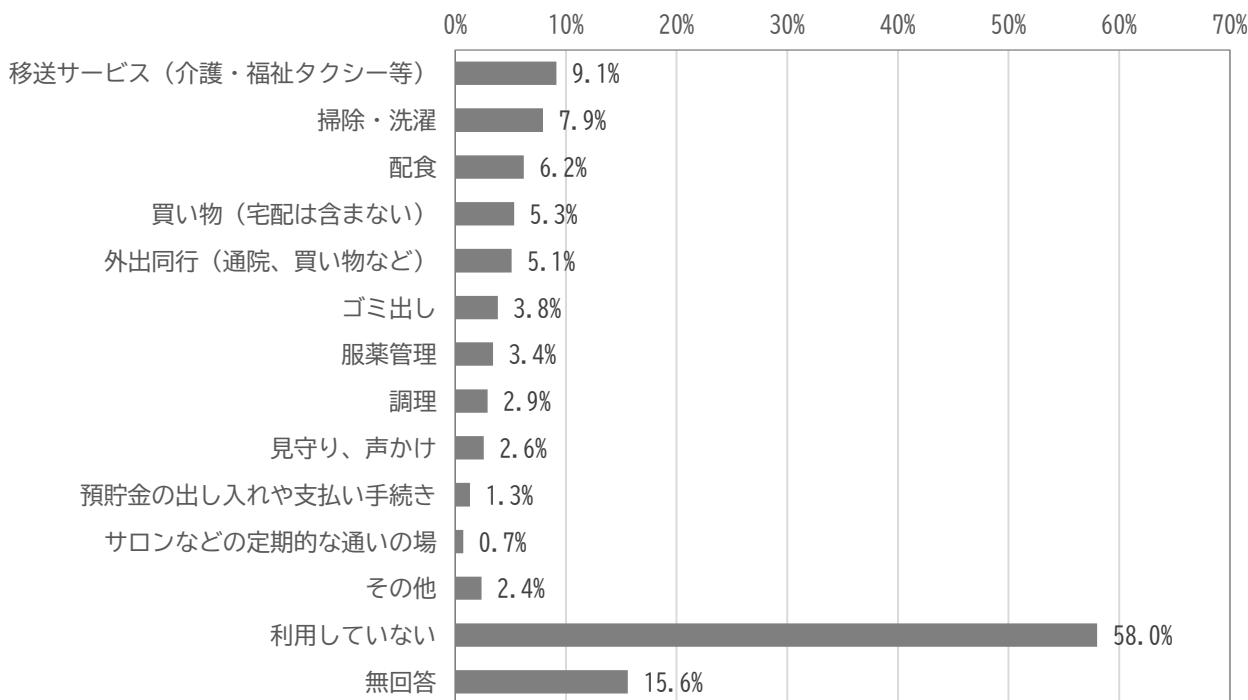
図表 259 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による、介護保険サービス利用状況の変化



⑤現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービス【問 44】

現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについてたずねたところ、いずれのサービスについても利用しているとの回答は1割未満であり、「利用していない」が58.0%でした。

図表 260 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービス（複数回答）



家族構成別に見ると、「単身世帯」では、他の家族構成と比べ利用しているとの回答割合が総じて高く、特に「配食」や「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」等では特に割合の差が大きくなっています。

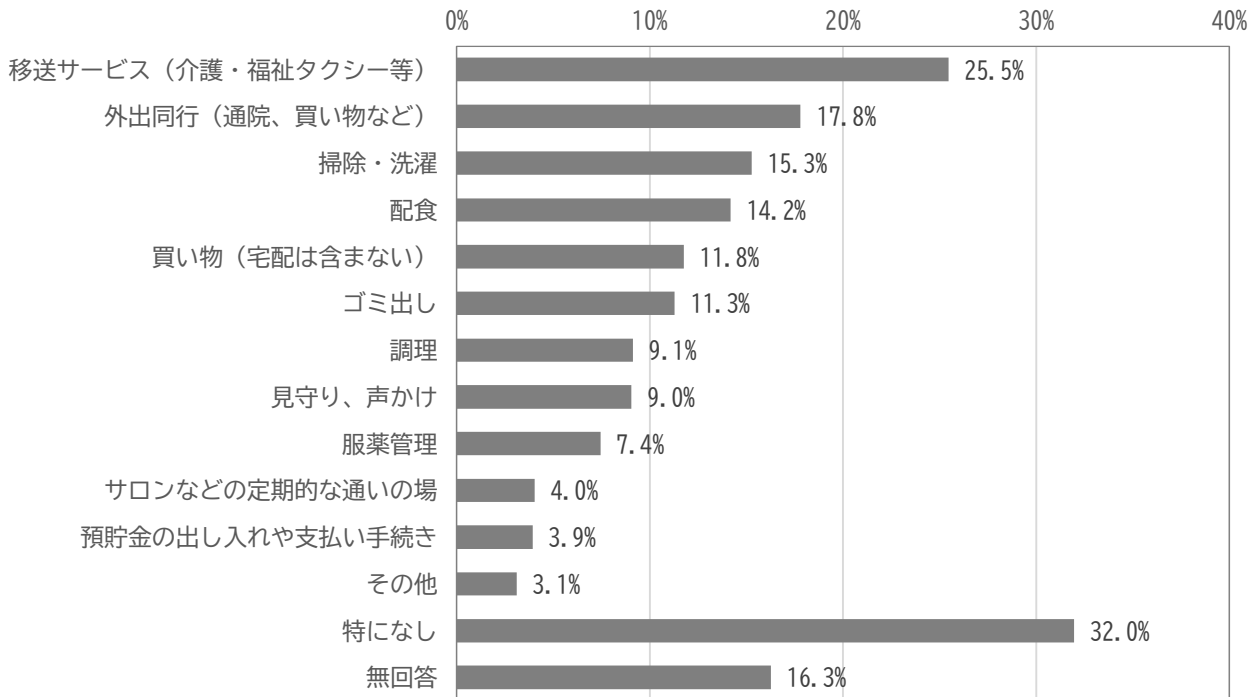
図表 261 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービス（家族構成別）

	配食	調理	掃除・洗濯	（宅配は含まない） 買い物	預貯金の出し入れや支 払い手続き	ゴミ出し	服薬管理	外出同行（通院、買 い物など）	移送サービス（介護・ 福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な 通いの場	その他	利用していない	無回答
単身世帯	13.9%	7.2%	19.6%	15.2%	2.2%	12.4%	5.7%	8.2%	9.7%	4.2%	1.7%	2.2%	44.3%	12.7%
夫婦のみ世帯	3.4%	2.0%	5.6%	2.5%	1.2%	2.1%	2.8%	5.4%	13.9%	2.3%	0.1%	2.3%	53.7%	20.7%
その他	4.5%	1.5%	3.8%	2.4%	1.0%	0.9%	2.8%	3.5%	5.7%	2.0%	0.7%	2.4%	68.6%	12.4%

⑥今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス【問 45】

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてたずねたところ、「特になし」が32.0%でした。何かしらの支援・サービスが必要と感じる人は5割程度であり、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が25.5%と最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が17.8%、「掃除・洗濯」が15.3%となっています。

図表 262 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



家族構成別に見ると、問 44 と同様、「単身世帯」では他の家族構成と比べ各項目の回答割合が総じて高く、特に「配食」や「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」等では特に割合の差が大きくなっています。

図表 263 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（家族構成別）

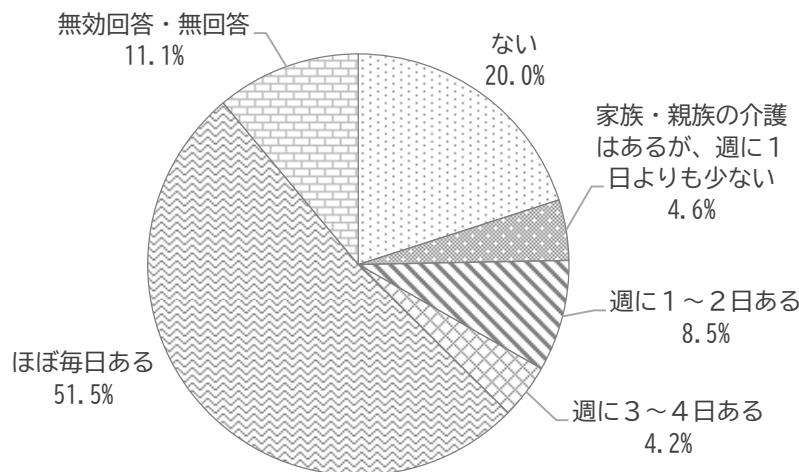
	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	預貯金の出し入れや支払い手続き	ゴミ出し	服薬管理	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
単身世帯	20.2%	13.8%	23.9%	20.0%	7.0%	20.9%	9.6%	22.2%	23.4%	13.7%	4.4%	1.9%	23.6%	13.9%
夫婦のみ世帯	14.0%	10.4%	15.5%	13.1%	5.3%	11.6%	7.5%	18.1%	29.0%	8.6%	4.1%	3.9%	27.2%	20.4%
その他	11.6%	6.1%	11.0%	6.9%	1.5%	6.6%	6.5%	15.8%	24.2%	7.3%	3.9%	3.2%	39.8%	13.6%

(12) 家族等の介護者の状況

①家族等による介護の頻度【問46】

家族や親族からの介護が、週にどのくらいあるかをたずねたところ、「ほぼ毎日ある」が51.5%でした。一方、「ない」は20.0%となっています。

図表 264 家族等による介護の頻度



年齢別・家族構成別・要介護度別の回答は図表 265 のとおりです。「ない」の割合は年齢が高いほど、また要介護度が高いほど低くなっています。また、「単身世帯」については、他の家族構成と比べ「ない」の割合が高く、30.2%となっています。

図表 265 家族等による介護の頻度（年齢別・家族構成別・要介護度別）

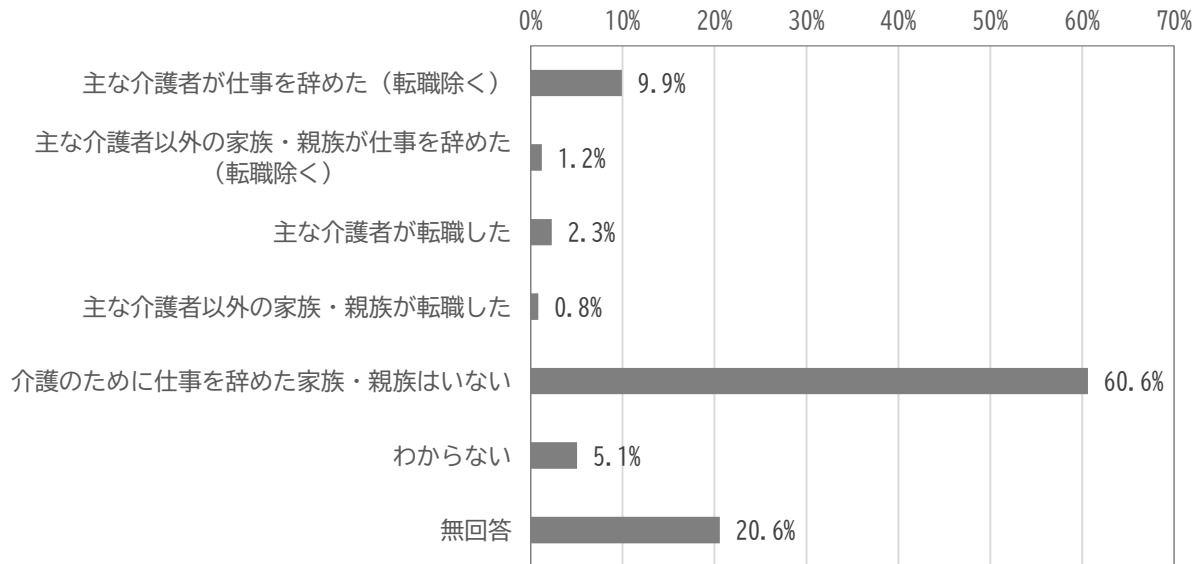
	ない	家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない	週に1~2日ある	週に3~4日ある	ほぼ毎日ある	無効回答
65~69歳	24.6%	7.6%	4.8%	0.0%	54.7%	8.3%
70~74歳	26.1%	3.4%	3.1%	1.5%	55.5%	10.5%
75~79歳	20.9%	4.0%	7.9%	4.1%	52.7%	10.4%
80~84歳	21.7%	6.3%	10.9%	3.7%	45.4%	12.0%
85歳以上	16.2%	3.7%	9.0%	5.8%	54.1%	11.2%
単身世帯	30.2%	10.3%	16.9%	9.2%	22.9%	10.4%
夫婦のみ世帯	20.8%	4.6%	7.8%	2.7%	50.6%	13.4%
その他	14.6%	2.0%	4.9%	2.9%	66.6%	9.1%
要介護1	20.5%	4.3%	12.3%	4.7%	46.8%	11.4%
要介護2	23.6%	5.0%	11.3%	3.7%	47.6%	8.7%
要介護3	11.8%	3.7%	6.1%	5.8%	63.2%	9.5%
要介護4	17.2%	5.2%	1.6%	3.1%	63.7%	9.1%
要介護5	6.3%	1.2%	3.5%	1.2%	82.2%	5.5%

※以下、②~⑩については本設問に「ない」または「無効回答・無回答」以外の回答をした方が対象となっています

②介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた家族・親族の有無【問47】

家族や親族の中で、介護を主な理由として過去1年間に仕事を辞めた方がいるかたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が60.6%でした。一方、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が9.9%であり、介護を理由に仕事を辞めた方も一定数いることが把握されました。

図表 266 介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた家族・親族の有無（複数回答）



回答者の要介護度別の回答結果を見ると、要介護度が高いほど「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」の割合が高くなる傾向が見られ、「要介護5」の方では2割程度となっています。

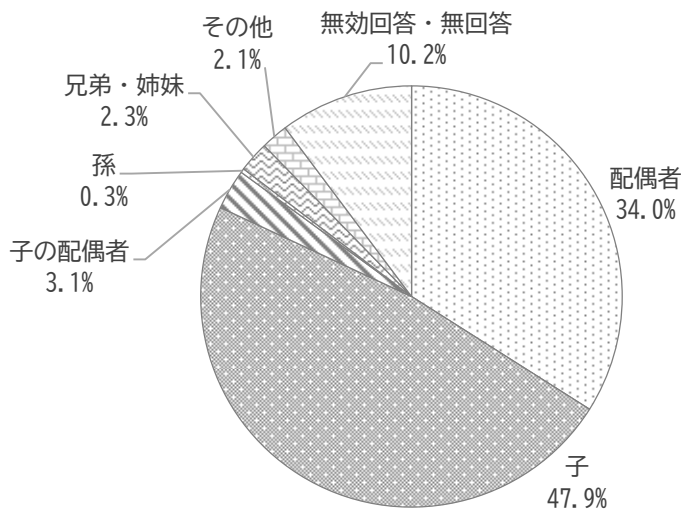
図表 267 介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた家族・親族の有無（要介護度別）

	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	・主な介護者が仕事を辞めた家族（転職除く）	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
要介護1	8.0%	0.0%	2.0%	0.5%	66.6%	3.6%	19.3%
要介護2	6.1%	1.9%	3.1%	1.0%	56.3%	7.4%	24.8%
要介護3	11.1%	1.7%	1.2%	1.0%	62.1%	2.9%	20.1%
要介護4	12.7%	2.5%	2.8%	0.0%	69.0%	3.8%	11.2%
要介護5	18.8%	0.4%	1.5%	2.0%	58.7%	6.1%	13.7%

③主な介護者の続柄【問 48】

主な介護者の続柄については、「子」が47.9%と最も多く、次いで「配偶者」が34.0%となっています。

図表 268 主な介護者の続柄

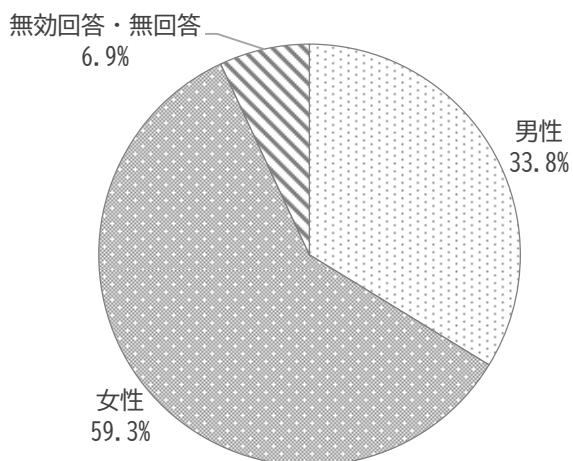


④主な介護者の性別・年齢【問 49、問 50】

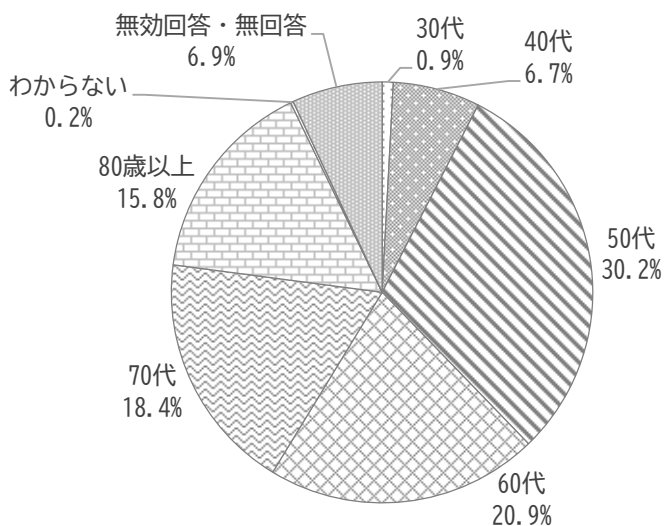
主な介護者の性別については、「男性」が33.8%、「女性」が59.3%でした。

主な介護者の年齢については、「50代」が30.2%と最も多く、次いで「60代」が20.9%、「70代」が18.4%となっています。60代以上の介護者が5割程度となっており、老老介護の状態にある方が多いことが把握されました。

図表 269 主な介護者の性別



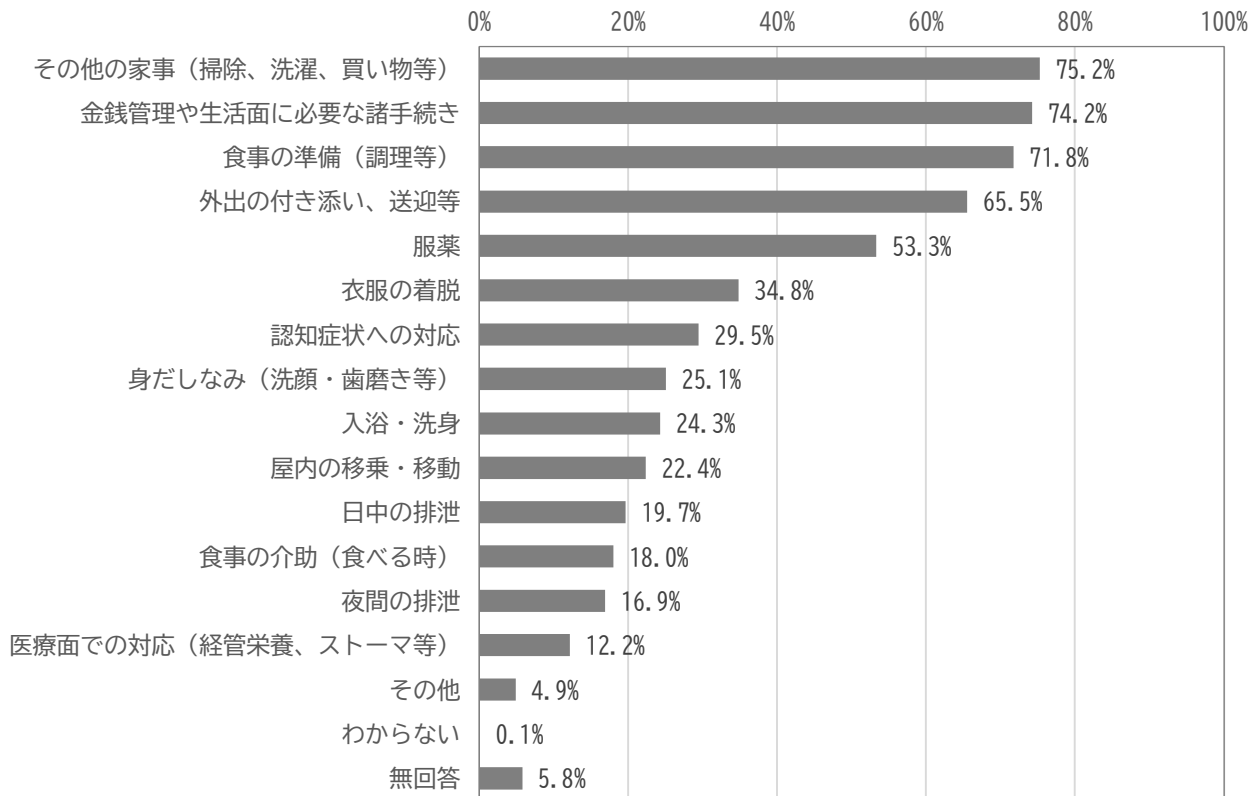
図表 270 主な介護者の年齢



⑤主な介護者が行っている介護の内容【問51】

主な介護者が行っている介護等について、「その他の家事（掃除・洗濯・買い物等）」が75.2%と最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.2%、「食事の準備（調理等）」が71.8%となっており、比較的生活援助に関することが多く挙げられています。

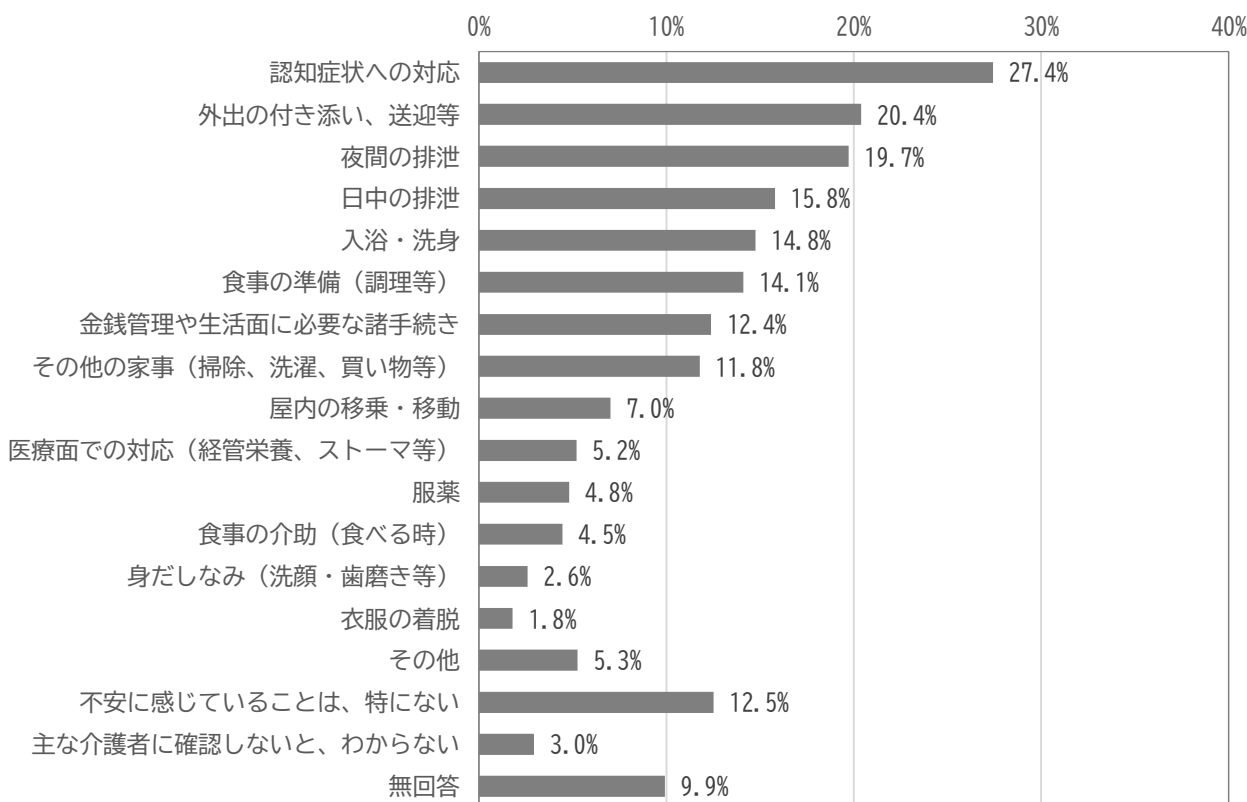
図表 271 主な介護者が行っている介護の内容（複数回答）



⑥主な介護者が不安に感じる介護の内容【問 52】

主な介護者が不安に感じる介護の内容については、「認知症への対応」が 27.4%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 20.4%、「夜間の排泄」が 19.7%となっています。

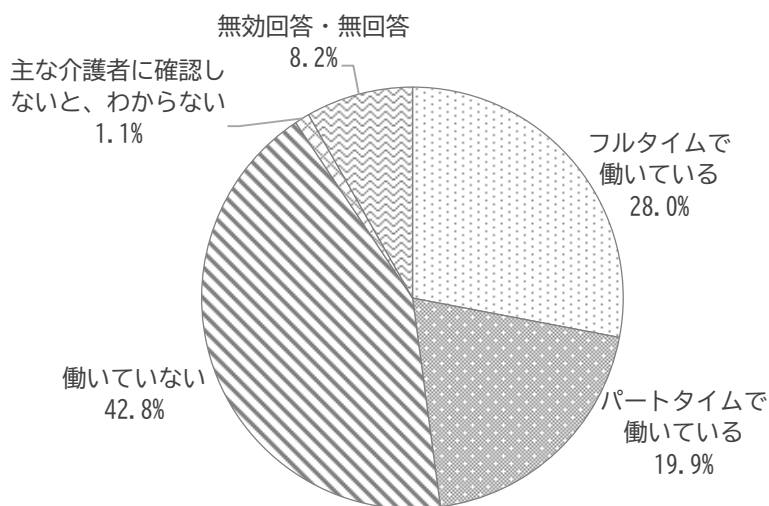
図表 272 主な介護者が不安に感じる介護の内容（3つまで選択可）



⑦主な介護者の現在の就労状況【問 53】

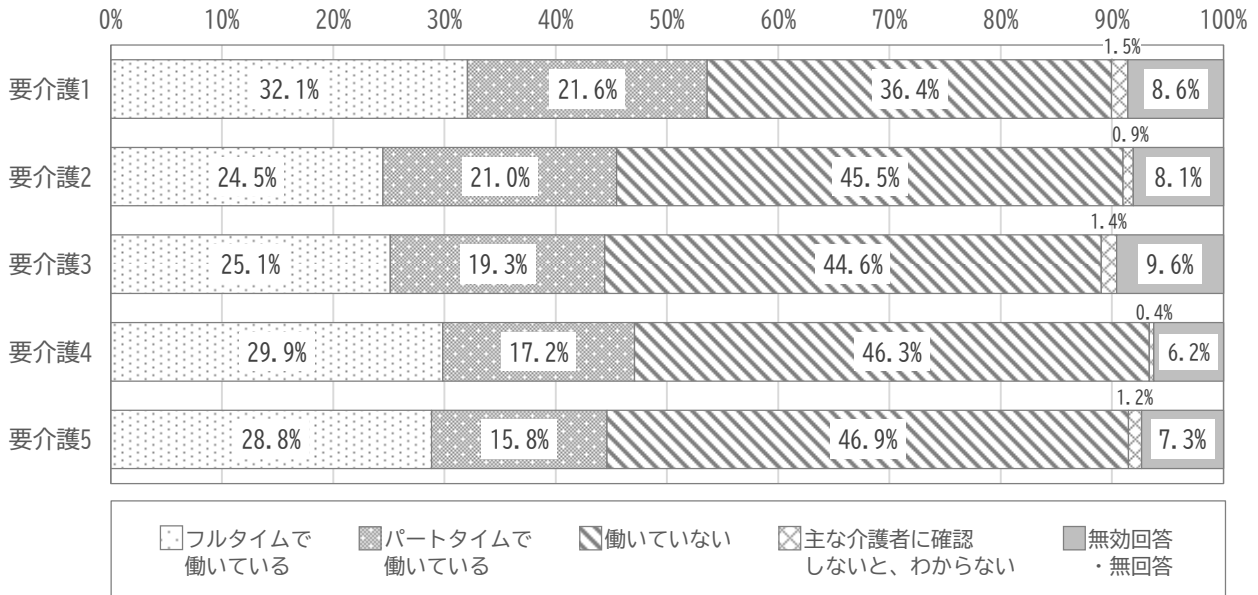
主な介護者の現在の勤務形態については、「フルタイムで働いている」が 28.0%、「パートタイムで働いている」が 19.9%であり、「働いている」との回答が 47.9%でした。一方、「働いていない」は 42.8%となっています。

図表 273 主な介護者の現在の就労状況



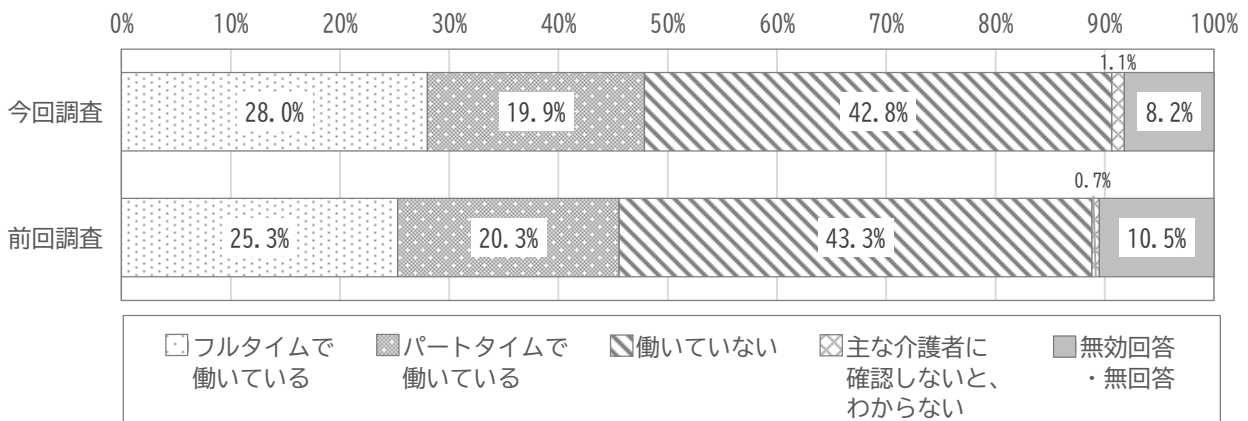
回答者の要介護度別の回答結果を見ると、いずれの要介護度においても「フルタイムで働いている」が2～3割程度、「パートタイムで働いている」が2割程度となっており、重度の方の介護をしながら働いているという方も少なくないことがうかがえます。

図表 274 主な介護者の現在の就労状況（要介護度別）



前回調査の結果と比較すると、概ね同様の結果となっています。

図表 275 主な介護者の現在の就労状況（前回調査との比較）

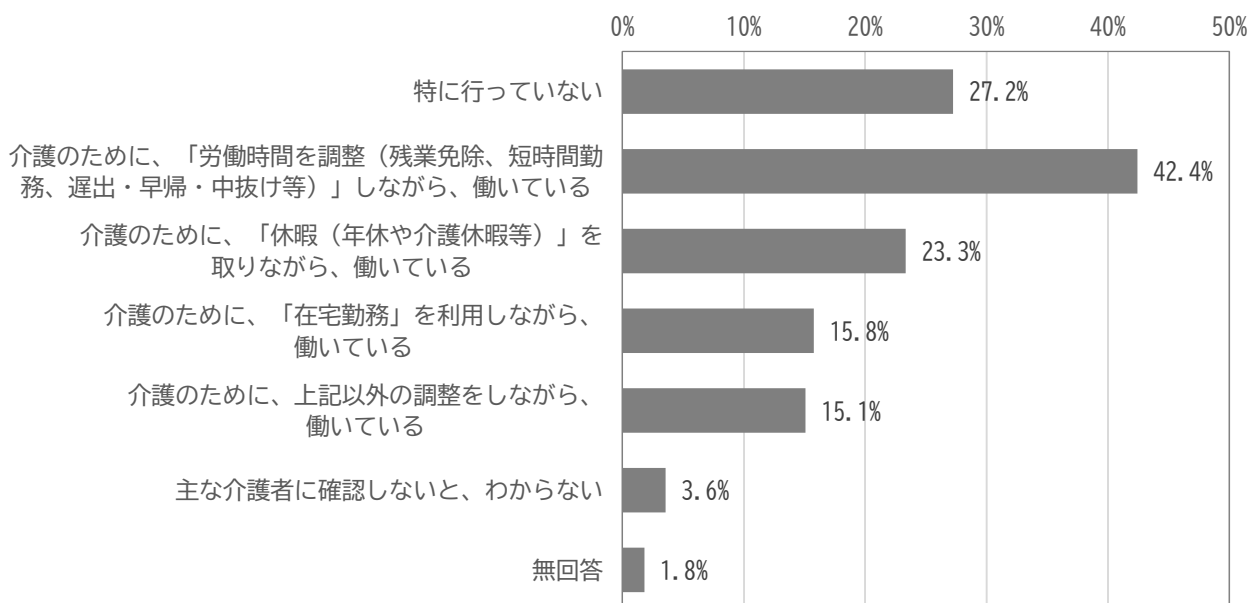


⑧介護のための働き方の調整等に関する状況【問 54】

問 53 において、「働いている」と回答した方に対し、介護をするにあたって、働き方の調整等を行っているかをたずねたところ、「特に行っていない」が27.2%でした。

何らかの調整を行っているとの回答では、「労働時間を調整しながら、働いている」が42.4%と最も多く、次いで「休暇（年休や介護休暇等）を取りながら、働いている」が23.3%となっています。

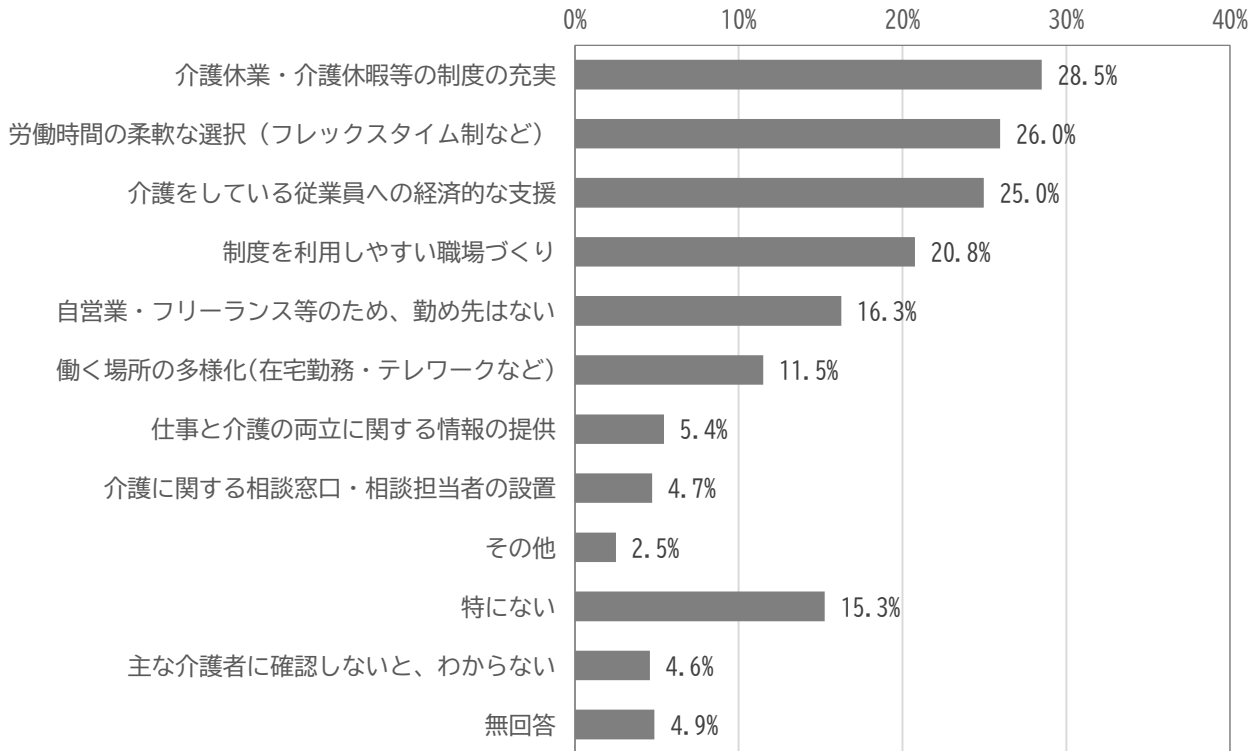
図表 276 主な介護者の、介護のための働き方の調整に関する状況（複数回答）



⑨仕事と介護の両立に向けて効果があると考えられる支援【問 55】

問 53 において、「働いている」と回答した方に対し、勤め先からどのような支援があれば効果があると思うかたずねたところ、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 28.5%と最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 26.0%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 25.0%となっています。

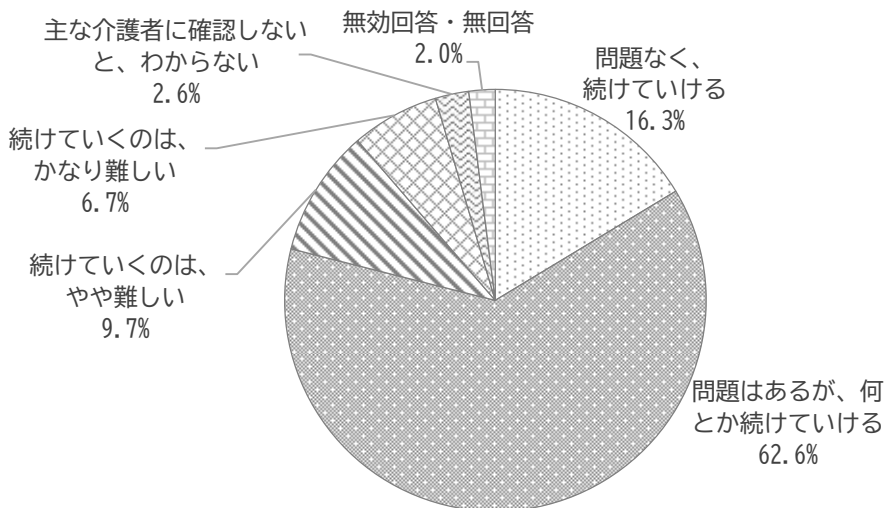
図表 277 仕事と介護の両立に向けて効果があると考えられる支援（複数回答、3つまで選択可）



⑩仕事と介護の両立に関する今後の見通し【問 56】

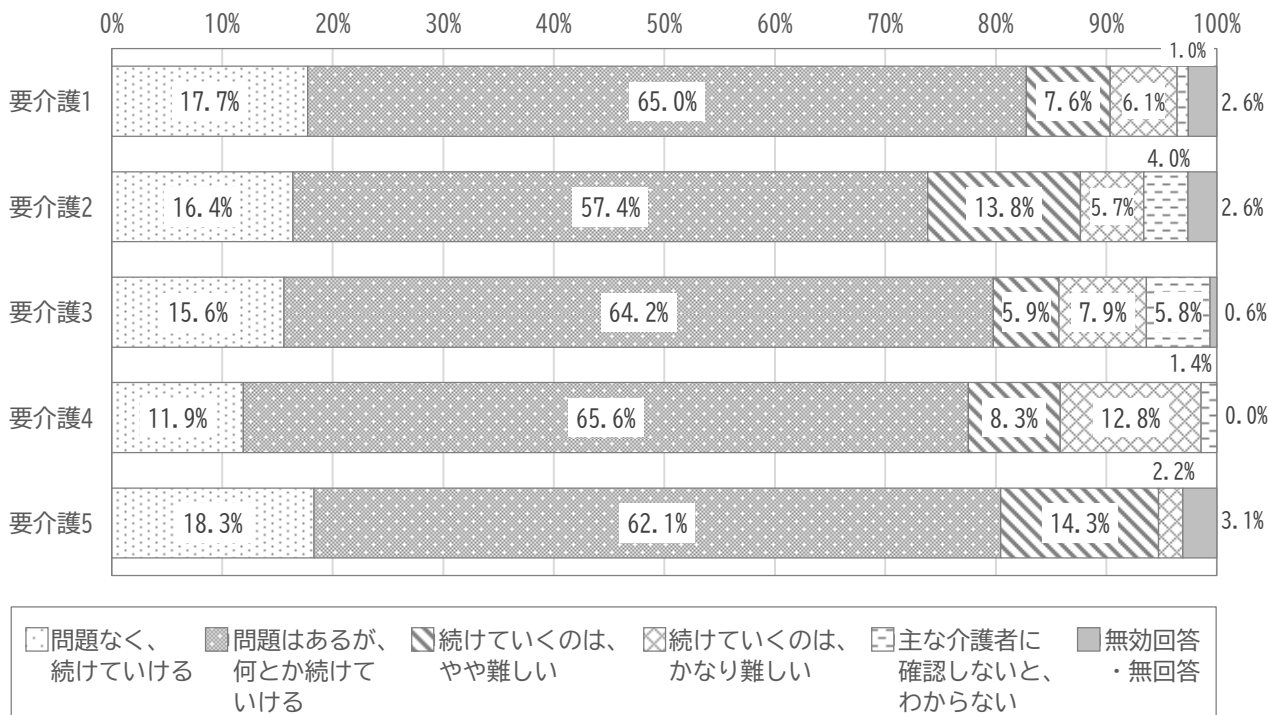
問 53 において、「働いている」と回答した方に対し、今後も働きながら介護を続けていけそうかについてたずねたところ、「問題はあるが何とか続けていける」が62.6%と最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が16.3%であり、仕事と介護を両立していけると考えている方が78.9%となっています。一方、「続けていくのは、かなり難しい」が6.7%、「続けていくのは、やや難しい」が9.7%であり、仕事と介護の両立に困難を感じている方も一定数いることが把握されました。

図表 278 主な介護者の、仕事と介護の両立に関する今後の見通し



要介護度別の回答を見ると、いずれの要介護度でも「問題なく、続けていける」は1～2割程度であり、介護をしている相手の状態によらず、仕事と介護の両立に向けては何らかの支援を必要としている方が多いことがうかがえます。

図表 279 主な介護者の、今後の仕事と介護の両立に関する見通し（要介護度別）



前回調査の結果と比較すると、「続けていくのは、やや難しい」の割合が5.6ポイント低下しています。

図表 280 主な介護者の、今後の仕事と介護の両立に関する見通し（前回調査との比較）

